

# 「令和5年度市民意識調査」 報告書

令和 6 年3月 25 日

行方市

# 調査の概要

## 1. 趣旨

市の現状やまちづくりの取り組みに対する満足度、市民が重要と感じている施策や課題、社会情勢から重点的な取り組みが必要な課題など、市民の市政に関する満足度等の市民意識から政策的課題を把握し、市民ニーズを的確に市政に反映するために実施するもの。

## 2. 調査の方法

### (1) 調査時期

・令和5年11月1日～11月30日

### (2) 調査対象

・行方市在住の18歳以上の市民

### (3) 調査方法

・インターネット調査(市ホームページ)、(一部、紙調査)

### (4) 回答結果

対象数	回答件数
令和5年度 市民(参考:32,152人(R5.11.1現在))	468件
【参考】 対象数	回収件数(回収率)
令和4年度(2,000人送付)	448件(22.40%)
令和3年度(1,000人送付)	367件(36.70%)
令和2年度(3,000人送付)	696件(23.20%)
令和元年度(平成31年度)(1,000人送付)	378件(37.80%)
平成30年度(1,000人送付)	404件(40.40%)
平成29年度(1,000人送付)	297件(29.70%)
平成28年度(1,000人送付)	362件(36.20%)

## 3. 調査項目

### 【共通調査】

- ① 市政への参加について
- ② 暮らしやすさについて
- ③ 身近な環境についての満足度
- ④ 日常生活の移動手段について
- ⑤ 医療・健康について
- ⑥ 少子高齢化の取り組みについて
- ⑦ 地域づくりについて
- ⑧ 情報伝達について

## 【特集調査】

- ①防災について
- ②庁舎建設について
- ③医療・健康について
- ④幼稚園、小中学校に期待する教育について、部活動の地域移行について
- ⑤地域と学校・社会教育施設の連携・協働について
- ⑥運動・スポーツや健康への意識について
- ⑦農畜水産物のブランド化について
- ⑧地球温暖化問題及び再生可能エネルギーについて

## 4. 回答者属性

### (1) 性別

性別	回答数	構成比
男性	227	48.5%
女性	209	44.7%
その他	9	1.9%
回答しない	23	4.9%
無回答	0	0.0%
計	468	100.0%

### (2) 結婚

結婚	回答数	構成比
既婚	358	76.5%
未婚	110	23.5%
無回答	0	0.0%
計	468	100.0%

### (3) 年齢

年齢	回答数	構成比
18～24歳	18	3.8%
25～29歳	19	4.1%
30～34歳	42	9.0%
35～39歳	58	12.4%
40～44歳	54	11.5%
45～49歳	60	12.8%
50～54歳	71	15.2%
55～59歳	47	10.0%
60～64歳	55	11.8%
65～69歳	24	5.1%
70～74歳	12	2.6%
75歳以上	8	1.7%
無回答	0	0.0%
計	468	100.0%

### (4) 職業

職業	回答数	構成比
自営業(農家含む)	66	14.1%
会社員・公務員	281	60.0%
パート・アルバイト	52	11.1%
家事従事者	15	3.2%
学生	11	2.4%
無職	30	6.4%
その他(記述あり)	13	2.8%
無回答	0	0.0%
計	468	100.0%

### (5) 通勤・通学先

通勤・通学先	回答数	構成比
行方市内	301	64.3%
水戸市	9	1.9%
土浦市	17	3.6%
石岡市	7	1.5%
鹿嶋市	17	3.6%
潮来市	9	1.9%
かすみがうら市	6	1.3%
神栖市	14	3.0%
鉾田市	21	4.5%
小美玉市	15	3.2%
その他県内	32	6.8%
県外	20	4.3%
無回答	0	0.0%
計	468	100.0%

### (6) 出身地

出身地	回答数	構成比
生まれてからずっと行方市に住んでいる	145	31.0%
行方市出身だが市外での居住期間がある	189	40.4%
県内の他の市町村出身である	78	16.7%
県外出身である	56	12.0%
無回答	0	0.0%
計	468	100.0%

### (7) お住まいの地区(旧小学校区)

旧小学校区	回答数	構成比
旧麻生小学校区	49	10.5%
旧行方小学校区	18	3.8%
旧小高小学校区	31	6.6%
旧太田小学校区	26	5.6%
旧大和第一小学校区	14	3.0%
旧大和第二小学校区	14	3.0%
旧大和第三小学校区	6	1.3%
旧武田小学校区	21	4.5%
旧小貫小学校区	20	4.3%
旧三和小学校区	2	0.4%
旧津澄小学校区	41	8.8%

旧小学校区	回答数	構成比
旧要小学校区	26	5.6%
旧羽生小学校区	10	2.1%
旧玉造西小学校区	15	3.2%
旧現原小学校区	26	5.6%
旧玉川小学校区	25	5.3%
旧玉造小学校区	66	14.1%
旧手賀小学校区	19	4.1%
不明	39	8.3%
無回答	0	0.0%
計	468	100.0%

(8)居住年数

年数	回答数	構成比
5年未満である	29	6.2%
5年以上10年未満である	38	8.1%
10年以上20年未満である	82	17.5%
20年以上である	319	68.2%
無回答	0	0.0%
計	468	100.0%

(9)一緒に住んでいる家族

家族	回答数	構成比
配偶者	329	33.2%
息子	163	16.5%
娘	163	16.5%
子の配偶者	9	0.9%
孫	9	0.9%
親	199	20.1%
祖父母	41	4.1%
兄弟姉妹	43	4.3%
その他	14	1.4%
無回答	20	2.0%
計	990	100.0%

(10)子どもの就学状況

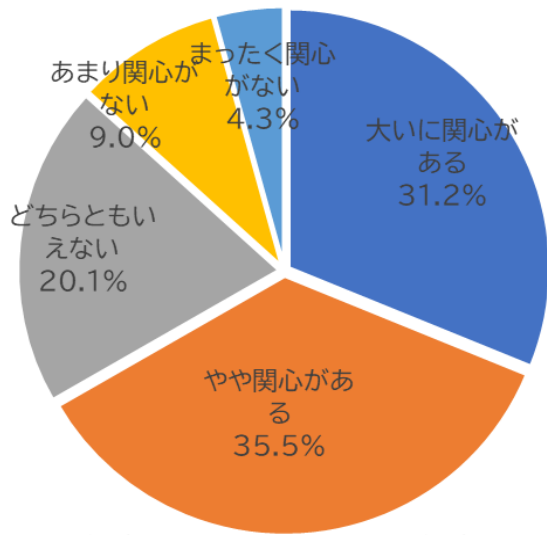
就学状況	回答数	構成比
小学校入学前	56	9.9%
小学生	72	12.8%
中学生	53	9.4%
高校生	51	9.0%
大学生・短大生・専門学校生	44	7.8%
該当なし	211	37.4%
その他	24	4.3%
無回答	53	9.4%
計	564	100.0%

# 結果

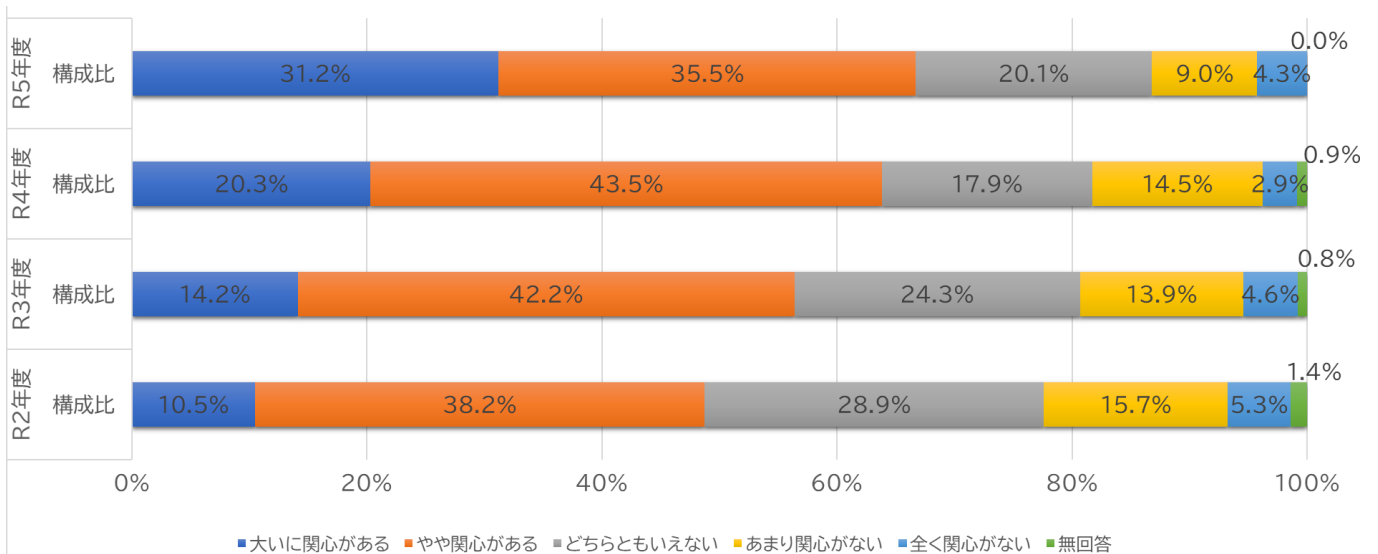
## 【共通調査】

### 1. 市政への参加について

問1 行方市政にどの程度関心がありますか。(回答を1つ)



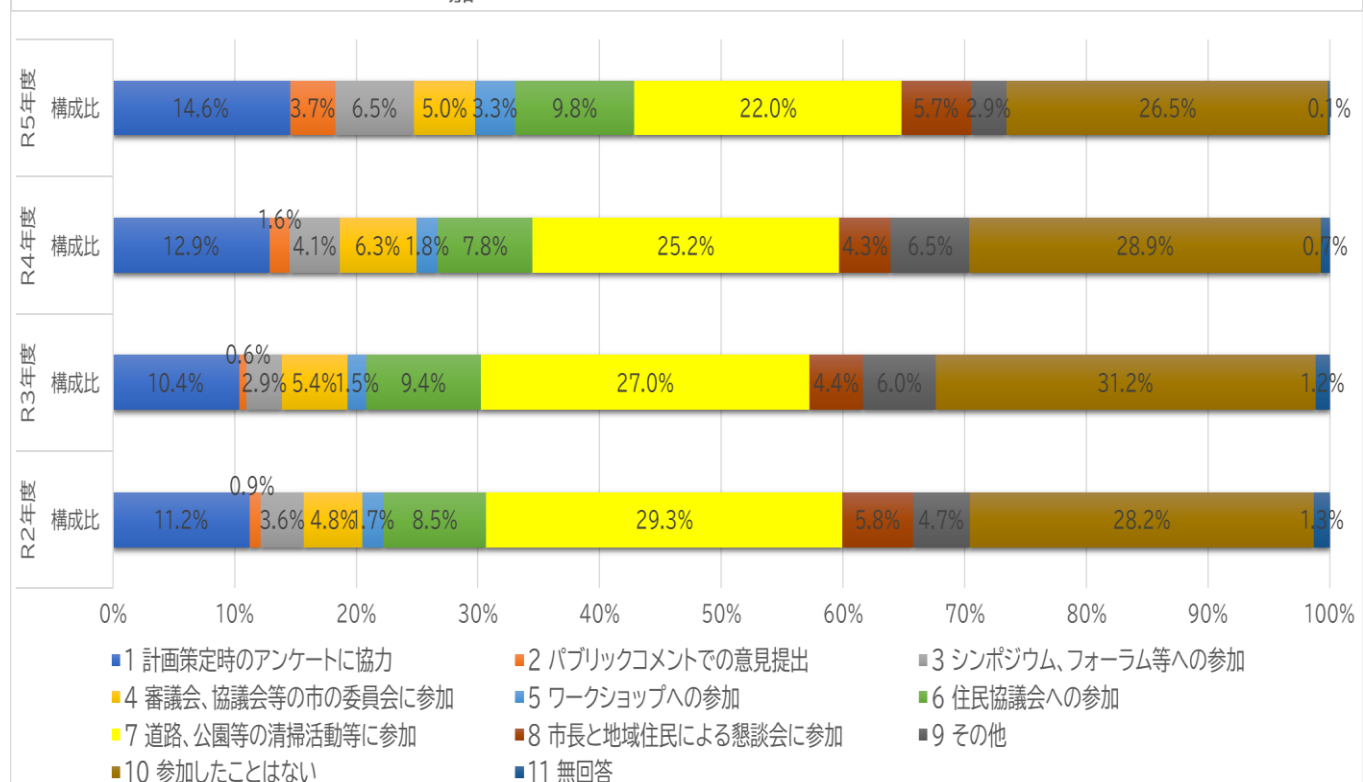
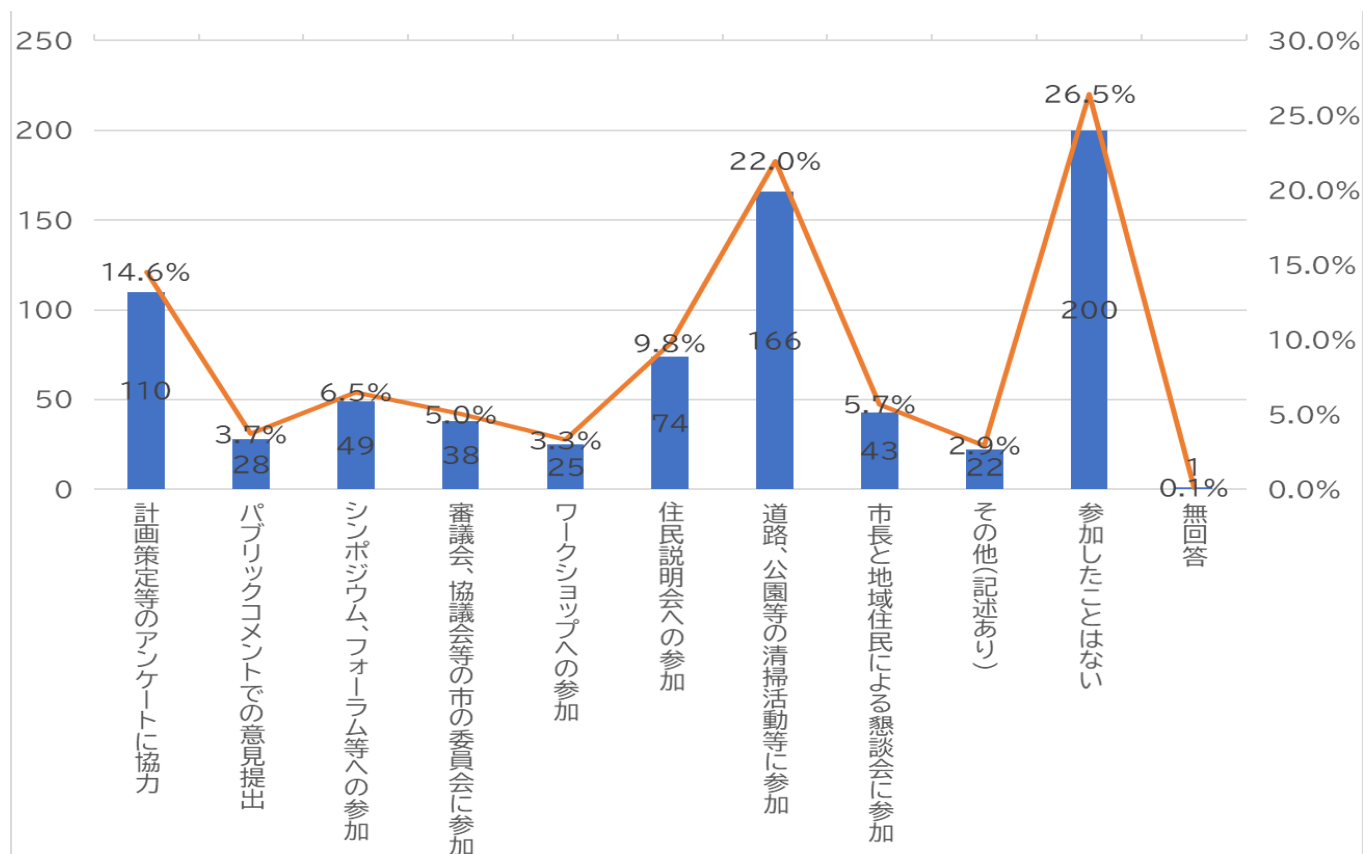
- 大いに関心がある
- やや関心がある
- どちらともいえない
- あまり関心がない
- まったく関心がない



○市政に「大いに関心がある」「やや関心がある」と回答した割合が 66.7%と前年度比で2.9ポイント増となった。昨年度までの無作為抽出調査から今年度は 18 歳以上の市民を対象とする調査(自発的的回答)に変更したことが一因と推測されるが、これまでの調査結果から市政への関心が年々高まってきていることがわかる。

○年齢別クロス集計の結果より、18～24歳の「あまり関心がない」「全く関心がない」と回答した割合が33.3%と年齢層別では最も「関心がない」と回答した割合が高く、若年層の市政への関心の低さが伺える。

問2 今まで市政の運営に参加したことがありますか。(あてはまるものを全て回答)



○「参加したことがない」と回答した割合が年々減少傾向にある。問1の「市政への関心が年々高まっている」と関連性が見られる。

○参加した活動については「道路・公園等の清掃活動に参加」と回答した割合が毎年最も高く、「パブリックコメントでの意見提出」や「ワークショップへの参加」割合が低いことから、簡易で気軽に市政に参加のできる割合が高い。

○年齢層が上がるにつれて「参加したことがない」と回答した割合が減少する傾向にある。

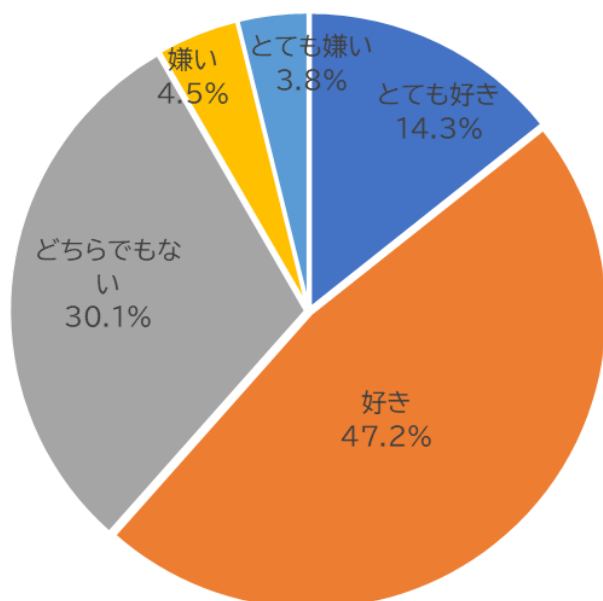
○「住民説明会」への参加割合は40代以降が中心であった。

問3 行方市から連想するキーワードを3つまで記入してください。

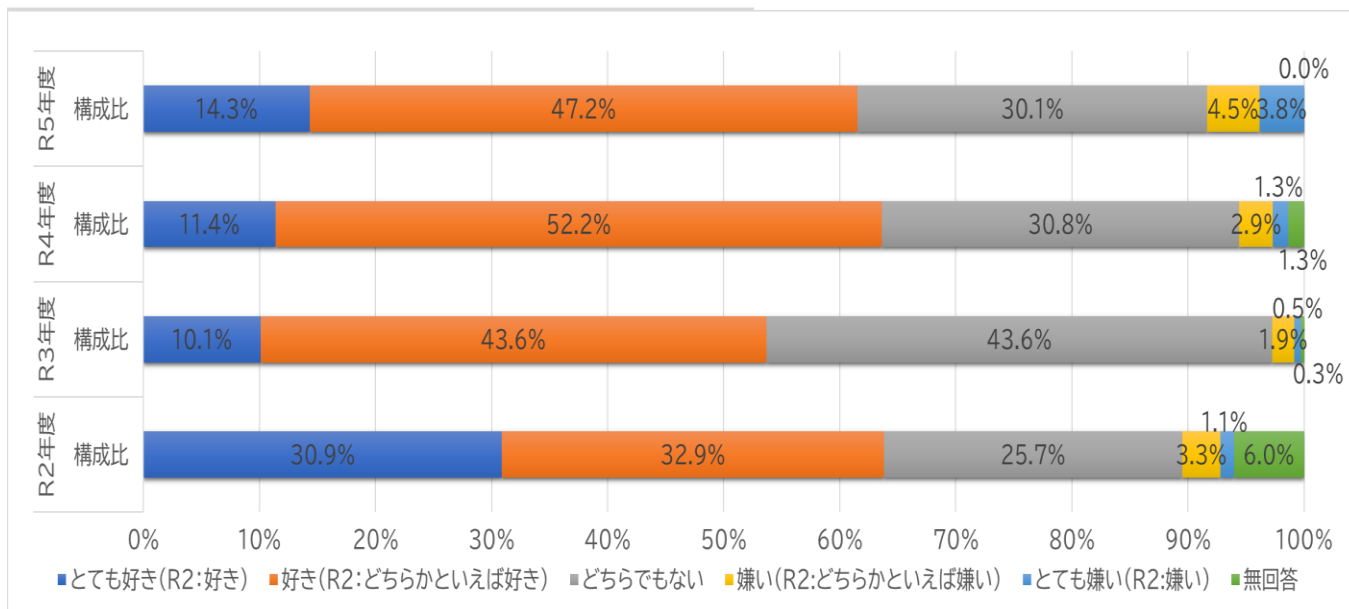
回答(抜粋)	計
【湖関係】 霞ヶ浦、北浦、湖、二湖 等	249
【景色、田舎関係】 田舎、自然、のどか、田んぼ、景観 等	218
【さつまいも関係】 さつまいも・サツマイモ、芋 等	137
【農業関係(特定の農水産物を除く)】 農業、食の宝庫、美味しい野菜、特産品がある 等	112
【過疎・少子高齢化関係】 過疎化、少子高齢化、人口減少 等	86
【否定的・保守的 意見】 閉鎖的、財政難、無策、不便、知名度が低い、保守的、ダサい、市民税高い、不自由、暴走族が多い、古臭い 等	78
【観光・名所関係】 アウトドア、ゴルフ場、ふれあいランド、自転車道の駅、虹の塔、霞ヶ浦りんりんロード、サイクリング、帆引き船、ファーマーズビレッジ、釣り 等	59
【否定的交通機関関係】 交通が不便、交通機関が少ない、電車が無い、道が狭い 等	30
【物理的・概念的なし】 何もない、見るところがない、なし 等	26
【歴史・寺社仏閣関係】 歴史、西蓮寺、寺社仏閣、常陸風土記、多様な祭り、千年村、古墳 等	24
【レンコン関係】 れんこん、レンコン、蓮根	12
【行方の漢字関係】 読めない、難読 等	9
※類似した回答で分類したもの	
※その他回答約200件あり	

- 霞ヶ浦、北浦などの湖に関する内容の回答が最も多かった。
- 自然豊か、田舎といった風景・景観に関する回答が2番目に多くみられた。
- サツマイモ、芋関連の回答が3番目に多くみられた。
- マイナスなイメージを連想する回答が80件ほどあった。
- 公共交通への否定的な回答が30件あった。

問4 行方市のことは好きですか。(回答を1つ)



■とても好き ■好き ■どちらでもない ■嫌い ■とても嫌い



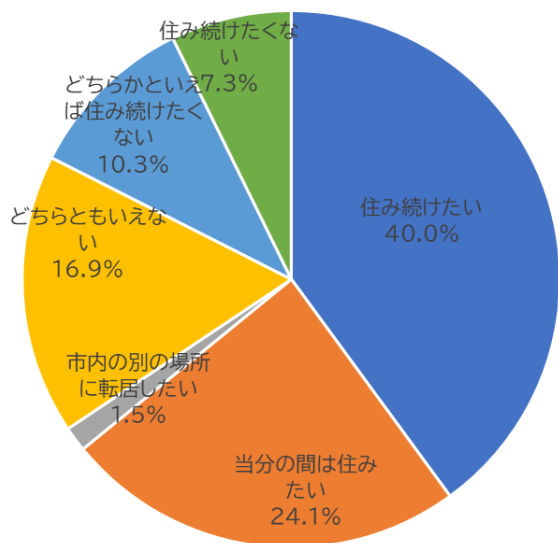
○例年「とても好き」「好き」の回答割合が「嫌い」「とても嫌い」の回答割合を大きく上回っており、市への好感度の高さが伺える結果が続いている。

○R5年度では60歳以上の層で「とても好き」「好き」の回答割合が高くなる傾向があった。

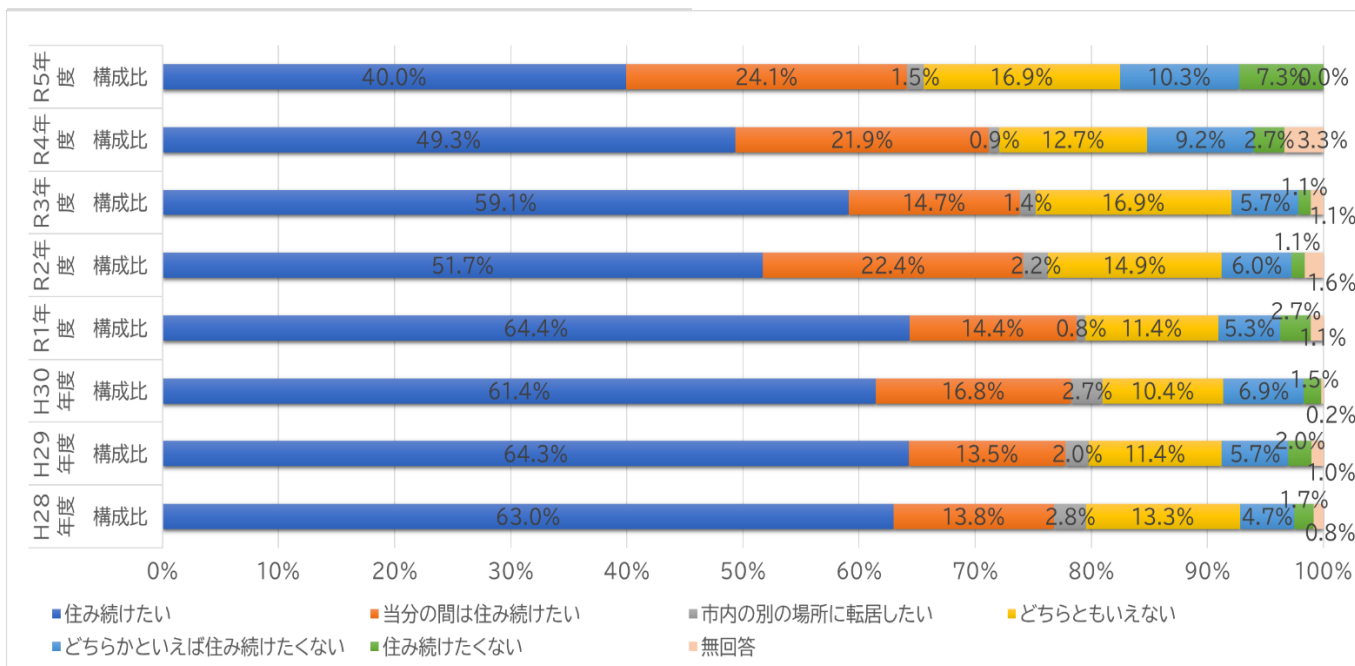
○R5年度ではR4年度に比べて「とても好き」と回答した割合が増えている(R4:11.4%→R5:14.3%)が、「とても嫌い」と回答した割合も増えた(R4:1.3%→R5:3.8%)。「好き」と回答した割合は前年より微減したが(R4:52.2%→R5:47.2%)、「嫌い」と回答した割合は増えた(R4:2.9%→R5:4.5%)。

## 2.暮らしやすさについて

問5 今後も行方市に住み続けたいと思いますか。(回答を1つ)



- 住み続けたい
- 当分の間は住みたい
- 市内の別の場所に転居したい
- どちらともいえない
- どちらかといえば住み続けたくない
- 住み続けたくない
- 無回答

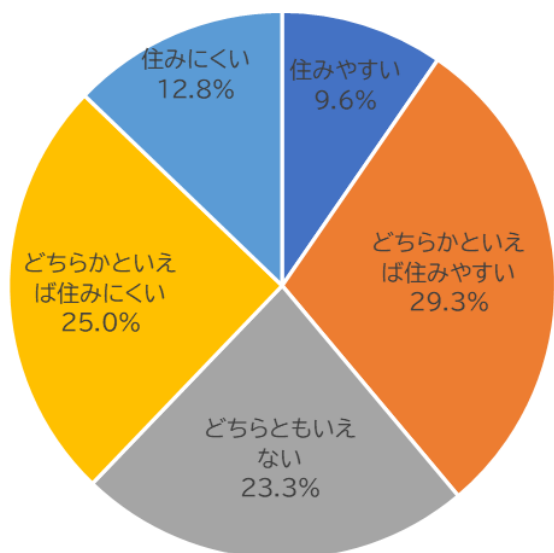


OR5 年度は「住み続けたい」「当分の間は住み続けたい」と回答した割合が R4 年度より△7.1%(71.2%⇒64.1%)減少し、逆に「どちらかといえば住み続けたくない」「住み続けたくない」と回答した割合が昨年と比較し、(11.9%⇒17.6%)と5.7ポイント増加している。

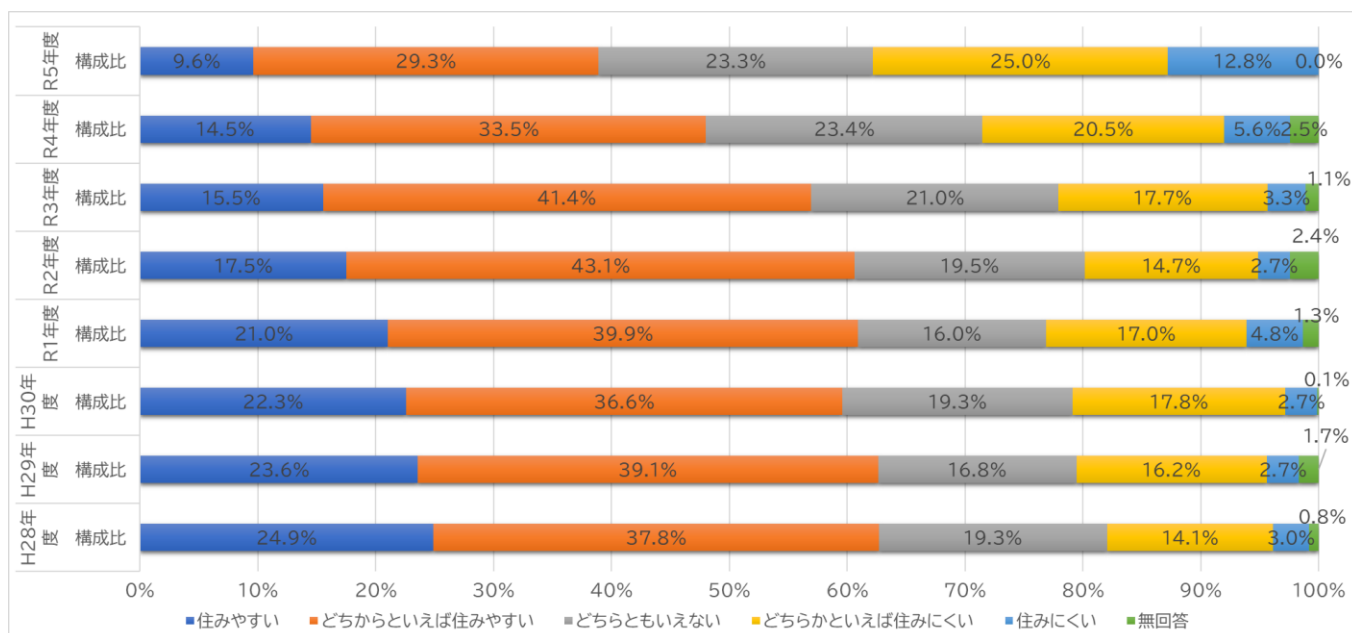
OR5 年度は「住み続けたくない」と回答した割合が過去の調査と比べて最も高かった。

○「住み続けたい」「当分の間は住み続けたい」の回答割合が最も低かったのが 30～34 歳層の 45.3%で、同層は「どちらかといえば住み続けたくない」「住み続けたくない」の回答割合が最も高く 28.6%であり、総計の 17.6%より 11ポイント上回った。

問6 行方市の「住み心地」についてどう感じていますか。(回答を1つ)



- 住みやすい
- どちらかといえば住みやすい
- どちらともいえない
- どちらかといえば住みにくい
- 住みにくい



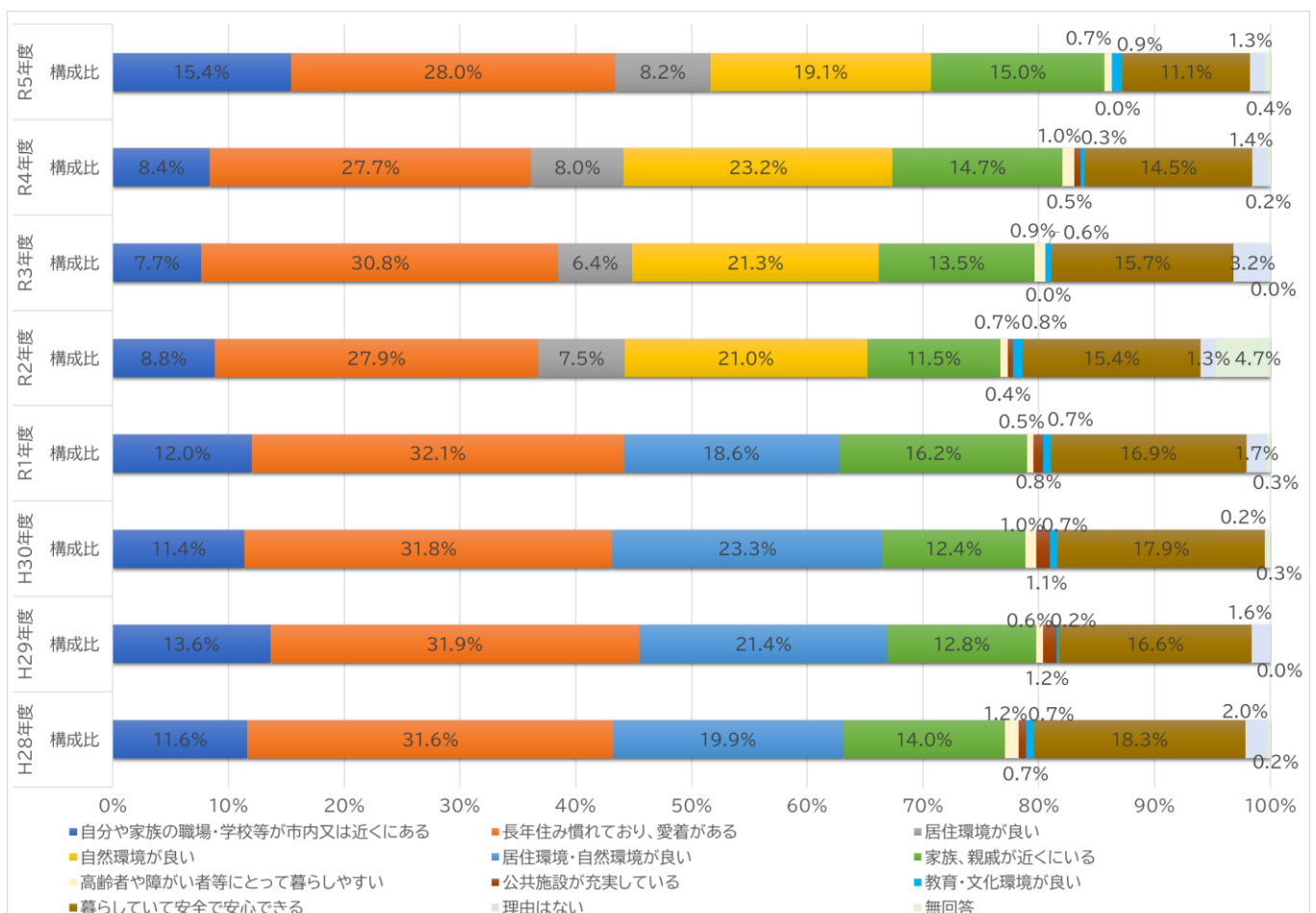
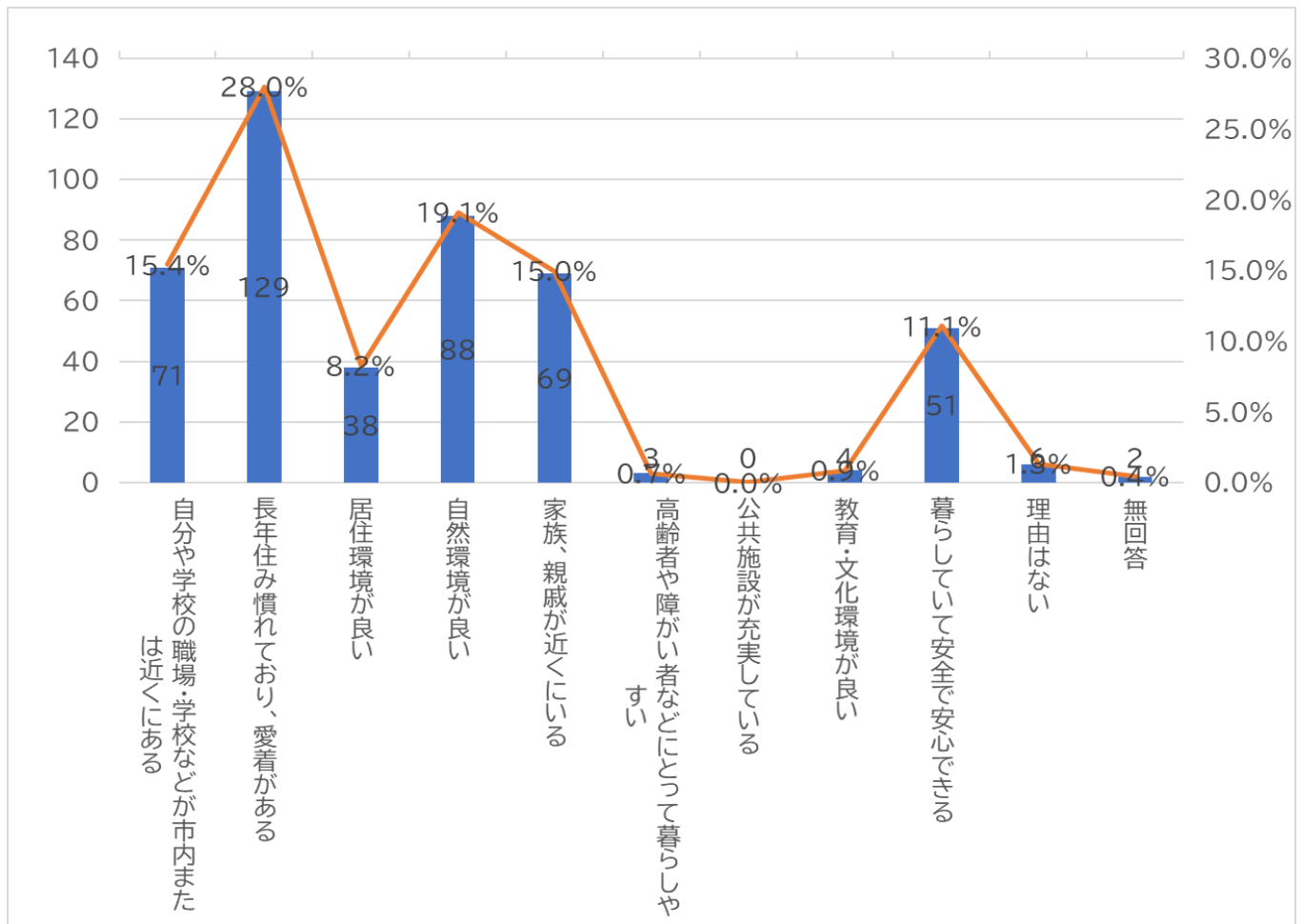
○R5 年度は「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を選択した割合が R4 年度より △9.1%(48.0%⇒38.9%)減少し、逆に「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と回答した割合が昨年と比較し、(26.1%⇒37.8%)と 11.7 ポイント増加している。

○年々「住みやすい」の回答割合が減少し、R5 年度は「住みにくい」と回答した割合が過去の調査と比べ最も高かった。

○30代層で「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」との回答割合が 50%を超えており、総計の 37.8%と比べ 10 ポイント以上上回っていた。

【問6で『1 住みやすい・2 どちらかといえば住みやすい』を選んだ方のみ回答】

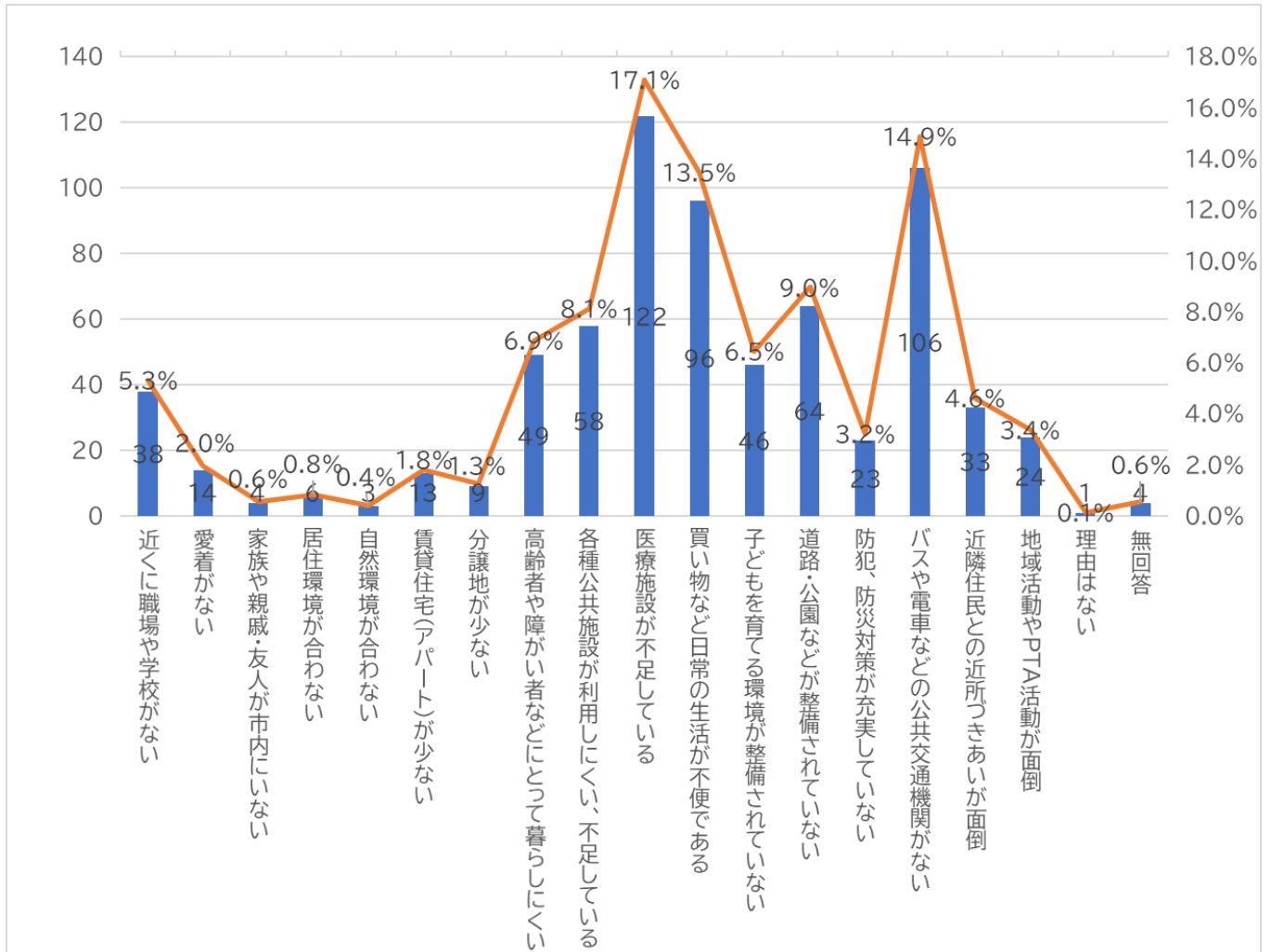
問7 住みやすいと感じる理由は何ですか。(回答を3つまで)

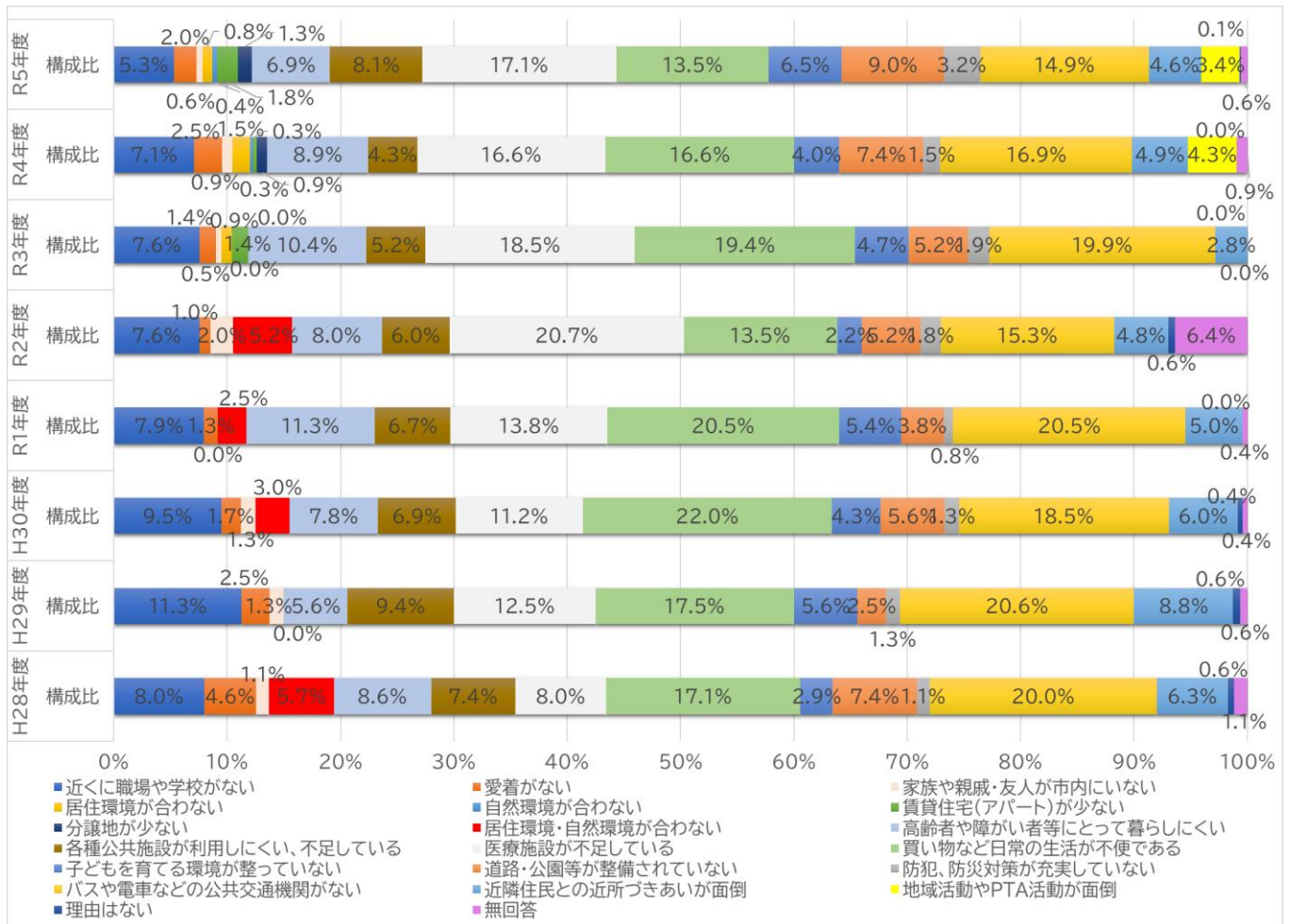


- R5年度は例年同様「長年住み慣れており、愛着がある」の回答が最も多く、次いで、「自然環境が良い」「自分や家族の職場・学校等が市内又は近くにある」が多くなっている。
- 「高齢者や障がい者にとって暮らしやすい」及び「教育・文化環境が良い」と回答した割合は1%に満たず、「公共施設が充実している」の回答は0であった。
- 70～74 歳層(回答数少数)は「暮らしていて安全で安心できる」が「長年住み慣れており、愛着がある」と同数で最多(27.8%)であった。

【問6で『4 どちらかといえば住みにくい・5 住みにくい』を選んだ方のみ回答】

問8 住みにくいと感じる理由は何ですか。(回答を3つまで)





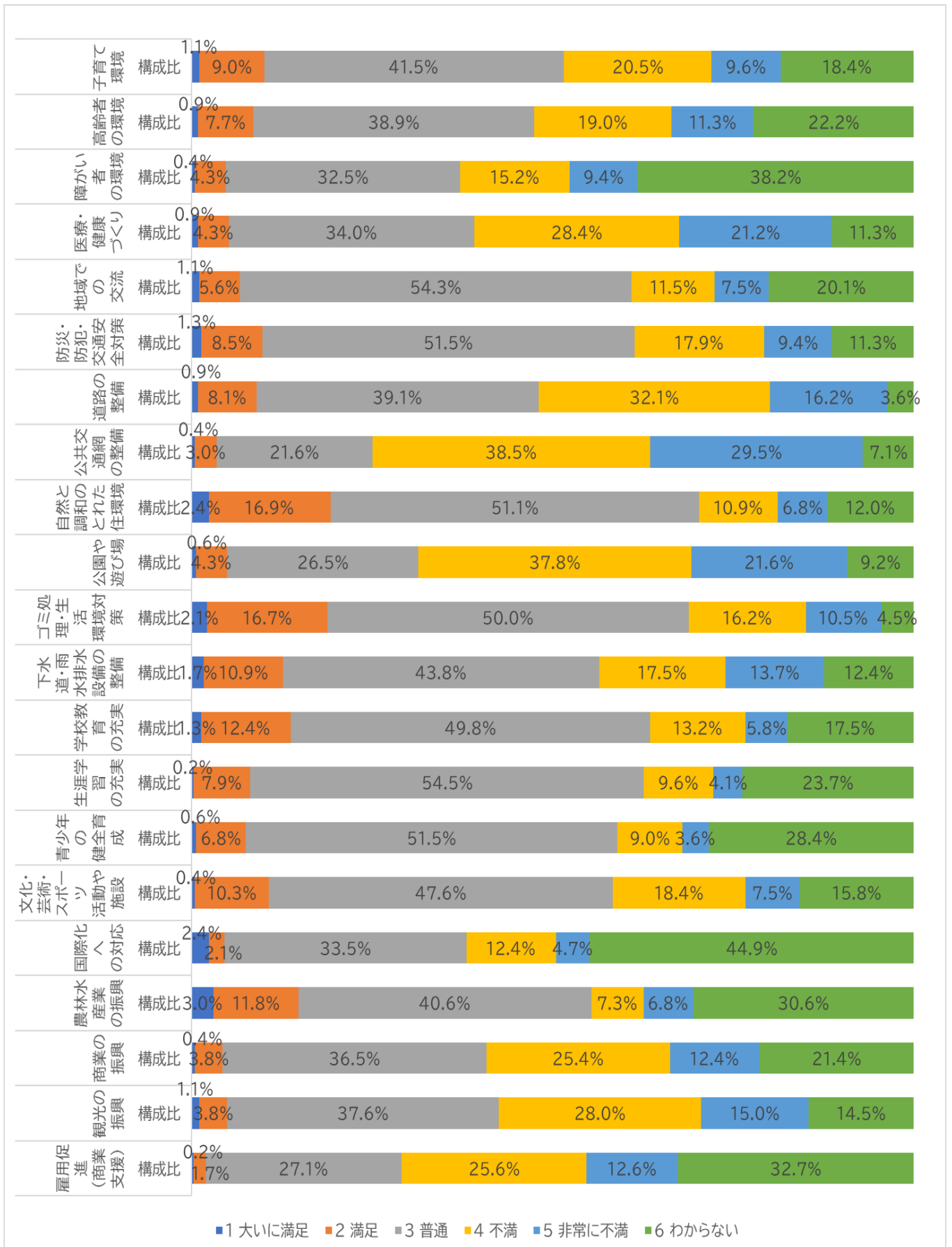
○市は「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と回答した方の理由で多かったのは、「医療施設が不足している」が最も多く、次いで「バスや電車などの公共交通機関がない」「買い物など日常の生活が不便である」が多くなっている。「愛着がない」「居住環境・自然環境が合わない」「理由はない」の回答割合は1%に満たないことから、市への愛着はないわけではないが、医療施設・公共交通・商業施設などが不足して住みにくいと感じていることが推測される。

○R4年度比で R5年度は「賃貸住宅(アパート)が少ない」「分譲地が少ない」「各種公共施設が利用しにくい、不足している」「子どもを育てる環境が整っていない」「道路・公園等が整備されていない」の回答割合が増加した。

### 3.身近な環境について

問9. 普段の生活の中で、次の項目の取り組みについて、どの程度満足していますか。

(項目ごとに回答を1つ)



○「大いに満足」「満足」「普通」「不満」「非常に不満」「わからない」の6項目を設問として設定。

**【満足の割合が高い上位3項目】**（「大いに満足」+「満足」）

- ・「自然と調和のとれた住環境」(19.3%)
- ・「ゴミ処理・生活環境(騒音・悪臭など)対策」(18.8%)
- ・「農林水産業の振興」(14.8%)

**【不満の割合が高い上位3項目】**（「不満」+「非常に不満」）

- ・「公共交通網の整備」(68%)
- ・「公園や遊び場」(59.4%)
- ・「医療・健康づくり」(49.6%)

**満足度について**

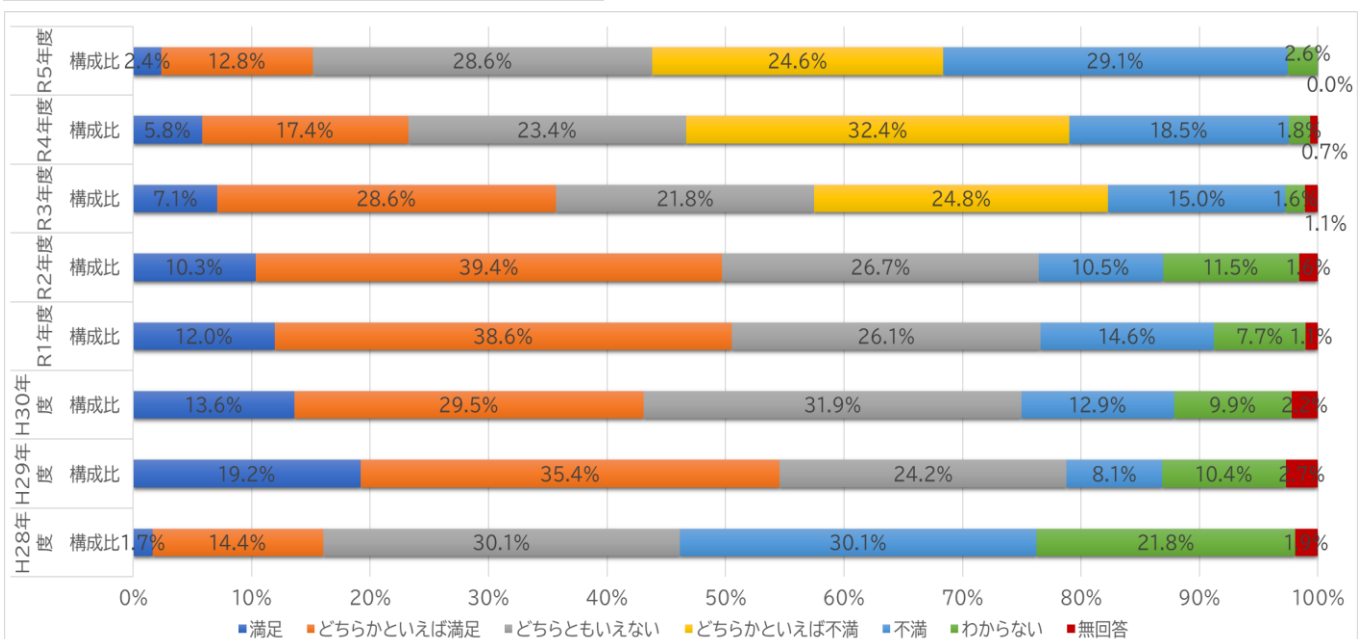
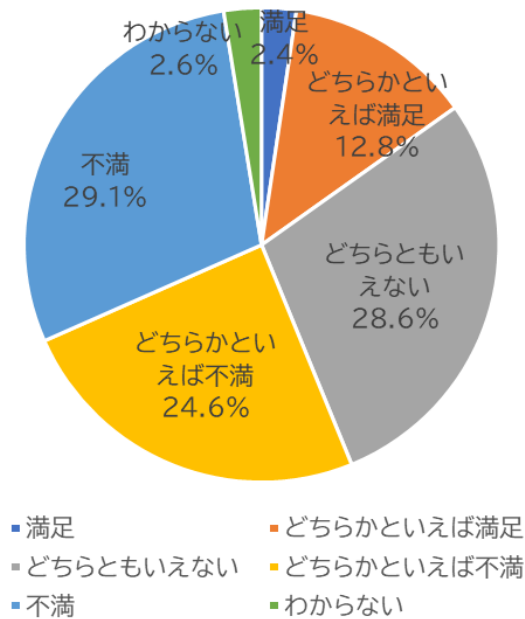
- ①「子育て環境」について、不満(R5年度 20.5%)、非常に不満の回答割合(R5 年度 9.6%)が増加している。普通と回答した割合について、R4 年度までは5割以上いたが R5 年度は4割程度となった。
- ②「高齢者の環境」について、R4年度と比較すると「わからない」と回答した割合が増加(R4:14.1%→R5:22.2%)した。「非常に不満」と回答した割合も増加(R4:5.1%→R5:11.3%)し、「普通」と回答した割合が例年の50%台から40%弱と減少した。
- ③「障がい者の環境」について、「わからない」と回答した割合が最も高かった。「非常に不満」と回答した割合について6ポイント(R4:3.4%→R5:9.4%)増加している。
- ④「医療・健康づくり」について、「わからない」と回答した割合が増えている(R4:4.7%→R5:11.3%)。「普通」と回答した割合が例年最も高いが、年々減少している。
- ⑤「地域での交流」について、「わからない」と回答した割合が増えている(R4:10.9%→R5:20.1%)。「普通」と回答した割合が例年最も高いが、年々減少している。
- ⑥「防災・防犯・交通安全対策」について、「わからない」と回答した割合が増えている(R4:6.7%→R5:11.3%)。「不満」「非常に不満」と回答した割合が昨年度より増加した(R4:20.6%→R5:27.3%)。
- ⑦「道路の整備」について、「普通」と回答した割合が減少(R4:45.3%→R5:39.1%)し、「不満」「非常に不満」と回答した割合が年々増加してきている。R5 年度は約半数(48.3%)が不満に感じている結果となった。
- ⑧「公共交通網の整備」について、年々「不満」「非常に不満」と回答した割合が増加し、R5 年度は計68%であった。
- ⑨「自然と調和のとれた住環境」について、R4 年度まではおよそ2割が「不満」「非常に不満」「わからない」の回答であったが、今年度は「わからない」と回答した割合の7.2ポイント増えたこともあって約3割となった(R4:4.2%→R5:12%)。本設問の中で「大いに満足」「満足」の割合が最も高い項目であった(R5:19.3%)。
- ⑩「公園や遊び場」について、R5年度は計59.4%が「不満」「非常に不満」と過去の調査と比較して最も不満と回答した割合が高くなった。「大いに満足」「満足」の合計が4.9%で、公園や遊び場に不満を持つ回答の割合が多い結果となった。

## 満足度について

- ⑪「ごみ処理・生活環境対策」について、R5年度は「不満」「非常に不満」と回答した割合がR4年度に比べて9.5ポイント増加した(R4:17.2%→R5:26.7%)。半数は「普通」に感じているため、ごみ処理・生活環境対策は約7割が「満足」「普通」に感じている。「大いに満足」「満足」と回答した合計の割合が18.8%と本設問の中では2番目に高かった。
- ⑫「下水道・雨水排水設備の整備」について、R4年度に比べR5年度は「わからない」と回答した割合が5.9ポイント増加した(R4:6.5%→R5:12.4%)。「不満」「非常に不満」と回答した割合は1.7ポイント増加と横ばいであった(R4:29.5%→R5:31.2%)。「普通」と回答した割合が年々減少している。
- ⑬「学校教育の充実」について、R5年度は「不満」「非常に不満」と回答した割合が19%となり過去最も高い割合となった。「大いに満足」「満足」はR4年度13.6%、R5年度13.7%とほぼ変わらない割合であった。
- ⑭「生涯学習の充実」について、R5年度は「わからない」と回答した割合が6.5ポイント増加した(R4:17.2%→R5:23.7%)。「不満」「非常に不満」と回答した割合が3.7ポイント減少し(R4:17.4%→R5:13.7%)、「大いに満足」「満足」と回答した割合は0.7ポイント増加した(R4:7.4%→R5:8.1%)。
- ⑮「青少年の健全育成」について、R5年度は「わからない」と回答した割合が9.4ポイント増加した(R4:19.0%→R5:28.4%)。「普通」と回答した割合が例年の60%程度から51.5%に減少したが、「満足」「不満」と回答した割合は例年と同程度であった。
- ⑯「文化・芸術・スポーツ活動や施設」について、R5年度はR4年度比で「普通」と回答した割合が5.1ポイント減少し、「大いに満足」「満足」と回答した割合が3.4ポイント増加、「不満」「非常に不満」と回答した割合が1.8ポイント増加した。
- ⑰「国際化への対応(外国人の対応)」について、R5年度は「わからない」と回答した割合が44.9%であり半数近くが「わからない」と回答した。「不満」「非常に不満」と回答した割合の合計が「大いに満足」「満足」と回答した割合よりも3倍近くのポイント差となっている。
- ⑱「農林水産業の振興」について、R5年度は「わからない」と回答した割合が30.6%とR4年度の2倍以上となった。R4年度比で「不満」は3.6ポイント減少したが、「非常に不満」が3.7ポイント増加し、「不満」「非常に不満」の合計が1.1ポイント増加した。
- ⑲「商業の振興」について、R5年度は「わからない」と回答した割合が7ポイント増加した。(R4:11.4%→R5:21.4%)。37.8%が「不満」「非常に不満」と感じており、「大いに満足」「満足」の4.2%と9倍近くの差が開く結果となった。
- ⑳「観光の振興」について、R5年度は43%が「不満」「非常に不満」と回答し、R4年度より3.7ポイント減少した。R5年度は「大いに満足」「満足」が4.9%であったため、8倍以上の差が開く結果となった。
- ㉑「雇用促進(商業支援)」について、R5年度は32.7%が「わからない」と回答し最も多くの割合となった。R4年度比でR5年度は「不満」「非常に不満」と回答した割合が6.7ポイント減少した(R4:44.9%→R5:38.2%)。「大いに満足」「満足」と回答した割合の合計が1.9%と低かった。

## 4.日常生活の移動手段について

問10 日常生活の移動に関して、どう思いますか。(回答を1つ)

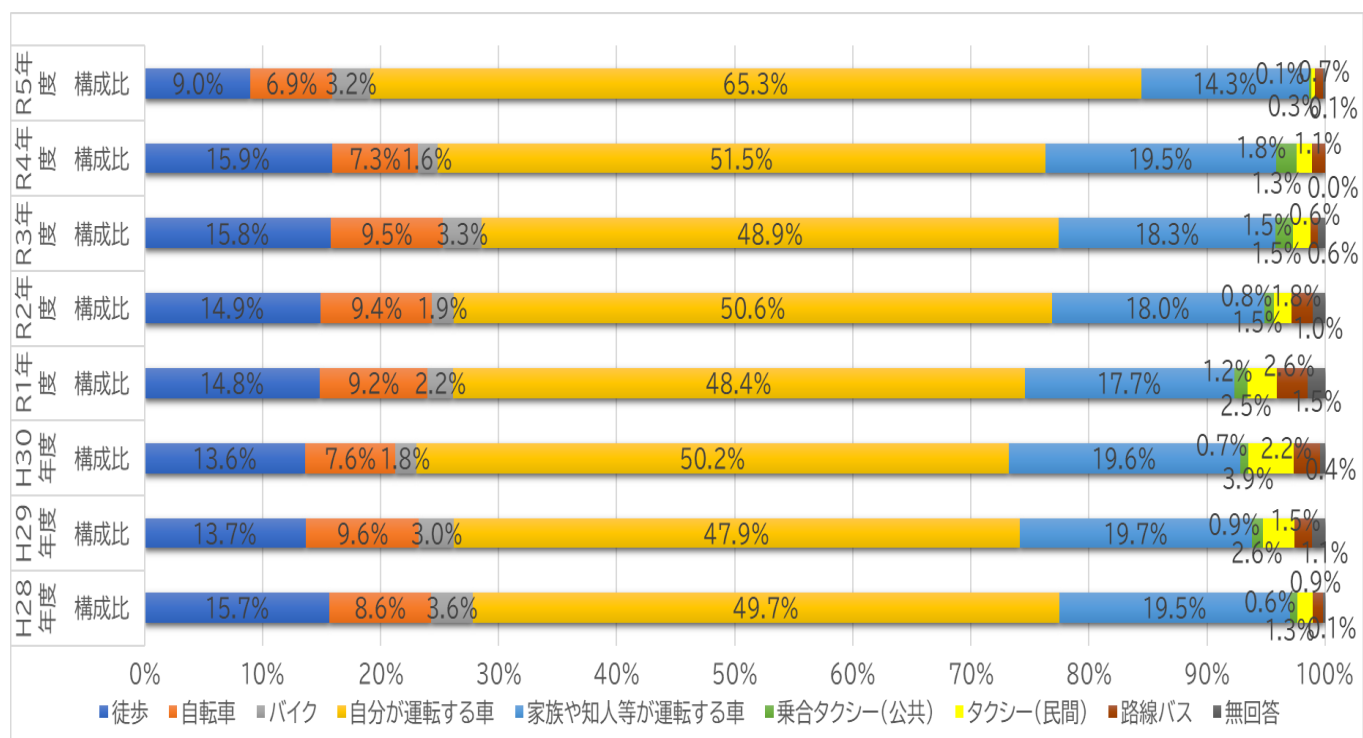
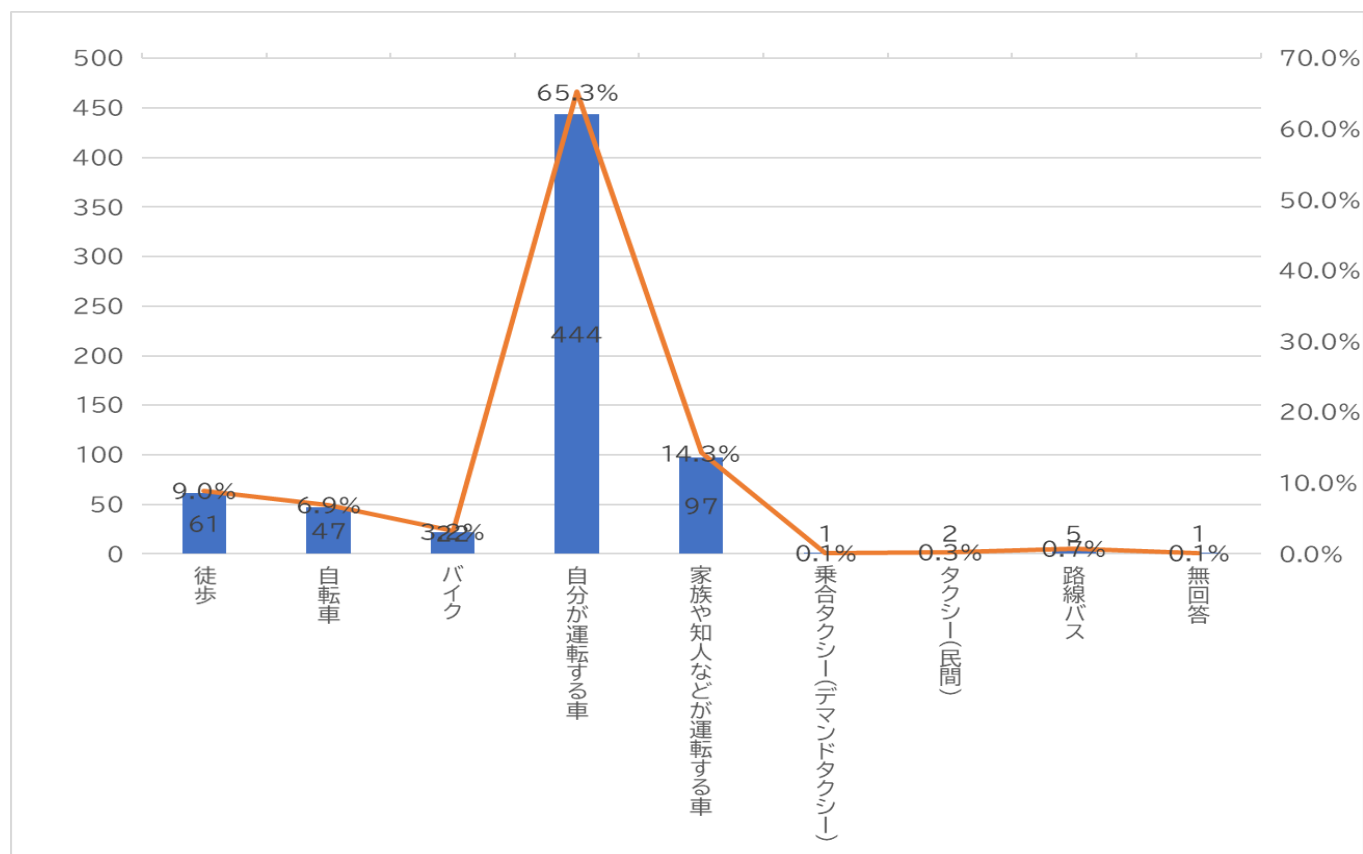


○R5年度は「満足」「どちらかといえば満足」を回答した割合が R4年度に比べ 8 ポイント (R4:23.2%→R5:15.2%)減少し、逆に「不満」「どちらかといえば不満」を回答した割合が (R4:50.9%→R5:53.7%)と 2.8 ポイント増加している。

○「どちらかといえば不満」「不満」の総計の合計が 53.7%であり、それを上回ったのが 40～44 歳層 (59.3%)、45～49 歳層 (61.7%)、55～59 歳層 (57.5%)、60～64 歳層 (67.2%)であり、40代～65歳以下が特に不満を感じている結果となった。左記の層以外は、18～24 歳層 (44.4%)、25～29 歳層 (31.6%)、30～34 歳層 (52.4%)、35～39 歳層 (48.3%)、65～69 歳層 (45.8%)、70～74 歳層 (33.4%)、75歳以上層 (12.5%)であった。

○18～29 歳及び 70 歳以上は「どちらともいえない」を回答した割合が高かった (18～24 歳層:38.9%、25～29 歳層:57.9%、70～74 歳層:41.7%、75歳以上層:37.5%)。

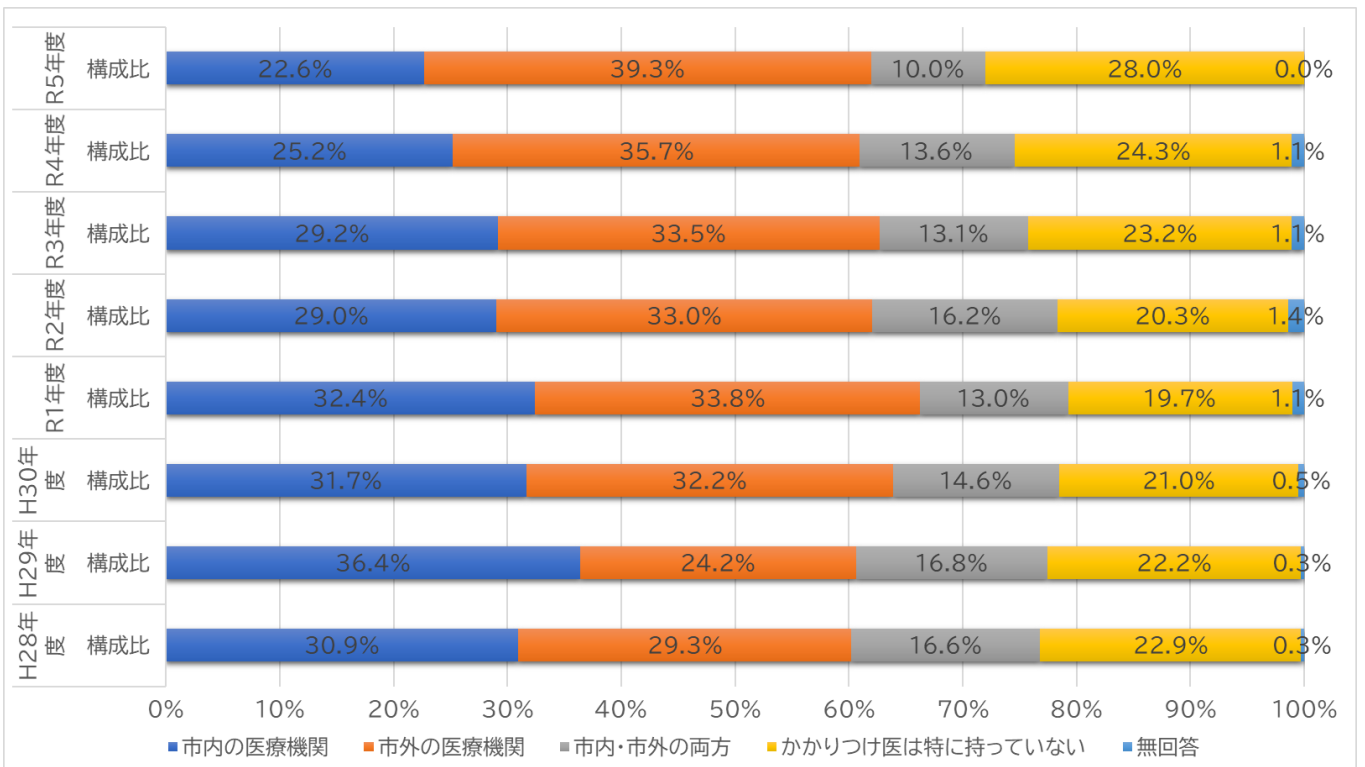
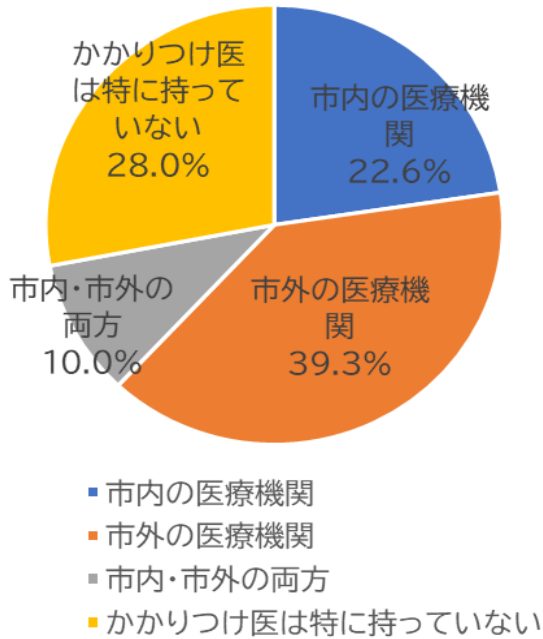
問11 日常生活における交通手段は何ですか。(回答を3つまで)



- 65.3%が「自分が運転する車」と回答し、次いで「家族や知人等が運転する車」が 14.3%となっており、全体の約8割が車で移動であった。
- 乗合タクシー(公共)や路線バス等の公共交通を利用している割合は1%程度であった。
- 学生の回答割合は、「徒歩:18.2%、自転車:13.6%、バイク:18.2%、自分が運転する車:4.5%、家族や知人が運転する車:40.9%、乗合タクシー:4.5%」であり、家族や知人が運転する車で移動している割合が高い結果となった。

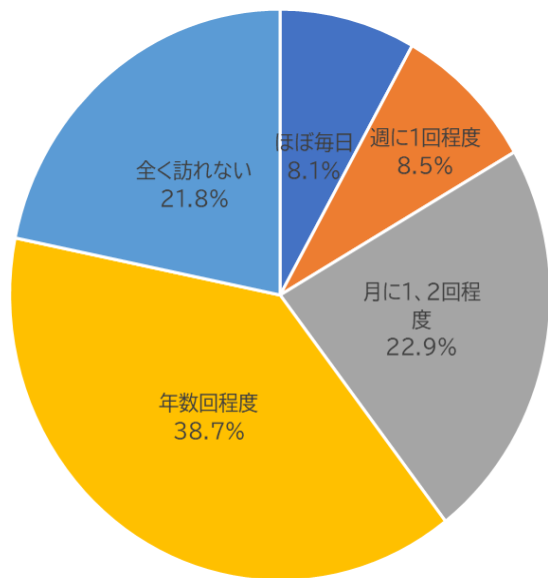
## 5.医療・健康について

問12 「かかりつけ医」を持っていますか。あなたの「かかりつけ医」を次の中から選んでください。  
(回答を1つ)



- 全体の約 72.0%が市内・市外のかかりつけ医を持っていると回答し、残りの約 28.0%がかかりつけ医は特に持っていないと回答した。
- かかりつけ医を持っていない人の割合が近年微増している。
- 70～74 歳層は「市内の医療機関」が 41.7%、「市外の医療機関」が 25.0%であり、30歳以上で唯一、「市内の医療機関」の利用の割合が上回った。
- 「自営業(農業)」が「市外の医療機関」を回答した割合が 54.5%で最も高く、学生が「市内の医療機関」を回答した割合が 45.5%で最も高かった。

問13 土浦協同病院なめがた地域医療センター(旧なめがた地域総合病院)の周辺をどれくらい訪れますか。(回答を1つ)



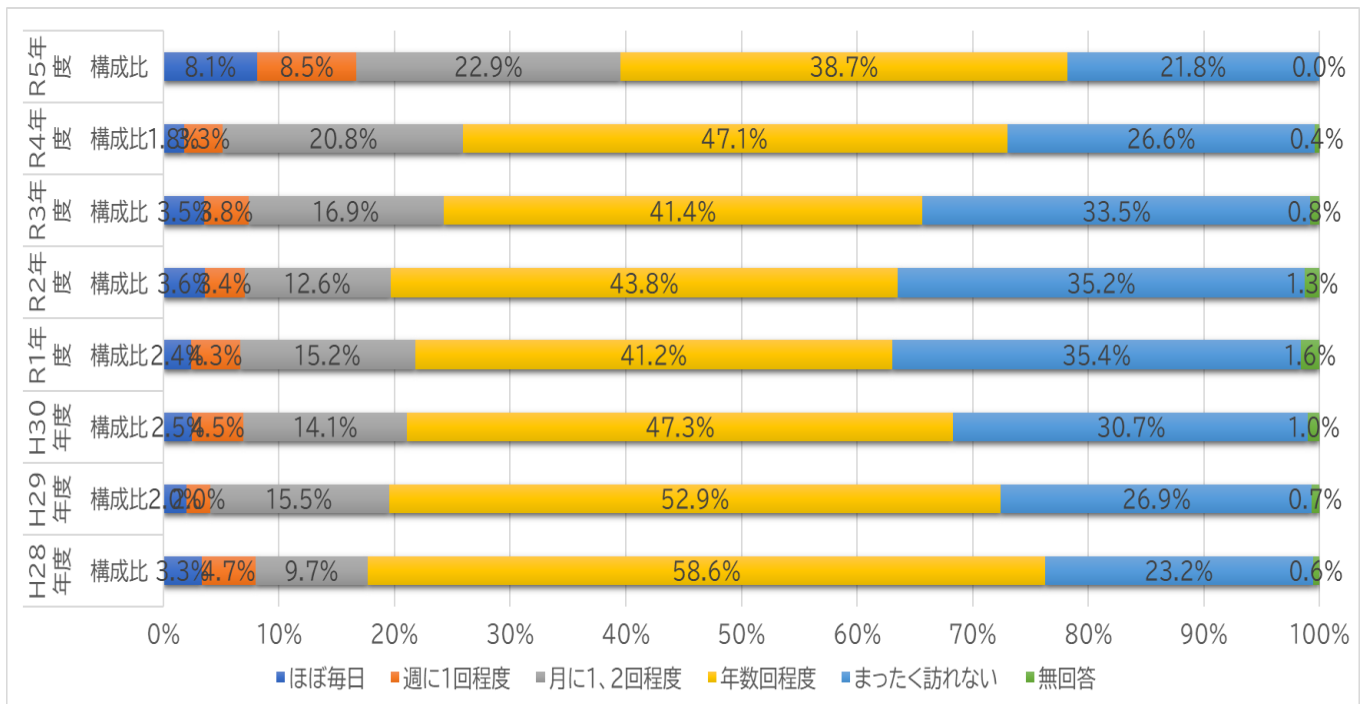
■ほぼ毎日 ■週に1回程度 ■月に1、2回程度 ■年数回程度 ■全く訪れない

【旧小学校区別クロス集計】

選択項目	総計		旧麻生小学校区		旧行方小学校区		旧小高小学校区		旧太田小学校区		旧大和第一小学校区		旧大和第二小学校区	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ほぼ毎日	38	8.1%	4	8.2%	1	5.6%	3	9.7%	3	11.5%	1	7.1%	0	0.0%
週に1回程度	40	8.5%	3	6.1%	2	11.1%	3	9.7%	1	3.8%	1	7.1%	1	7.1%
月に1、2回程度	107	22.9%	11	22.4%	6	33.3%	11	35.5%	7	26.9%	5	35.7%	2	14.3%
年数回程度	181	38.7%	22	44.9%	6	33.3%	9	29.0%	8	30.8%	6	42.9%	9	64.3%
全く訪れない	102	21.8%	9	18.4%	3	16.7%	5	16.1%	7	26.9%	1	7.1%	2	14.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	468	100.0%	49	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	26	100.0%	14	100.0%	14	100.0%
回答者数(合計-無回答)	468		49		18		31		26		14		14	

選択項目	旧大和第三小学校区		旧武田小学校区		旧小貫小学校区		旧三和小学校区		旧津澄小学校区		旧要小学校区		旧羽生小学校区		旧玉造西小学校区	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ほぼ毎日	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	7.1%	3	11.5%	1	10.0%	0	0.0%
週に1回程度	0	0.0%	2	9.5%	1	5.3%	0	0.0%	3	7.1%	3	11.5%	0	0.0%	0	0.0%
月に1、2回程度	2	33.3%	5	23.8%	5	26.3%	0	0.0%	6	14.3%	8	30.8%	1	10.0%	1	6.7%
年数回程度	3	50.0%	13	61.9%	4	21.1%	1	50.0%	17	40.5%	10	38.5%	4	40.0%	12	80.0%
全く訪れない	1	16.7%	1	4.8%	9	47.4%	1	50.0%	13	31.0%	2	7.7%	4	40.0%	2	13.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	6	100.0%	21	100.0%	19	100.0%	2	100.0%	42	100.0%	26	100.0%	10	100.0%	15	100.0%
回答者数(合計-無回答)	6		21		19		2		42		26		10		15	

選択項目	旧現原小学校区		旧玉川小学校区		旧玉造小学校区		旧手賀小学校区		不明		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ほぼ毎日	3	11.5%	10	40.0%	4	6.1%	1	5.0%	0	0.0%	1	50.0%
週に1回程度	5	19.2%	3	12.0%	7	10.6%	3	15.0%	2	5.6%	0	0.0%
月に1、2回程度	4	15.4%	3	12.0%	16	24.2%	6	30.0%	8	22.2%	0	0.0%
年数回程度	10	38.5%	8	32.0%	25	37.9%	5	25.0%	8	22.2%	1	50.0%
全く訪れない	4	15.4%	1	4.0%	14	21.2%	5	25.0%	18	50.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	26	100.0%	25	100.0%	66	100.0%	20	100.0%	36	100.0%	2	100.0%
回答者数(合計-無回答)	26		25		66		20		36		2	

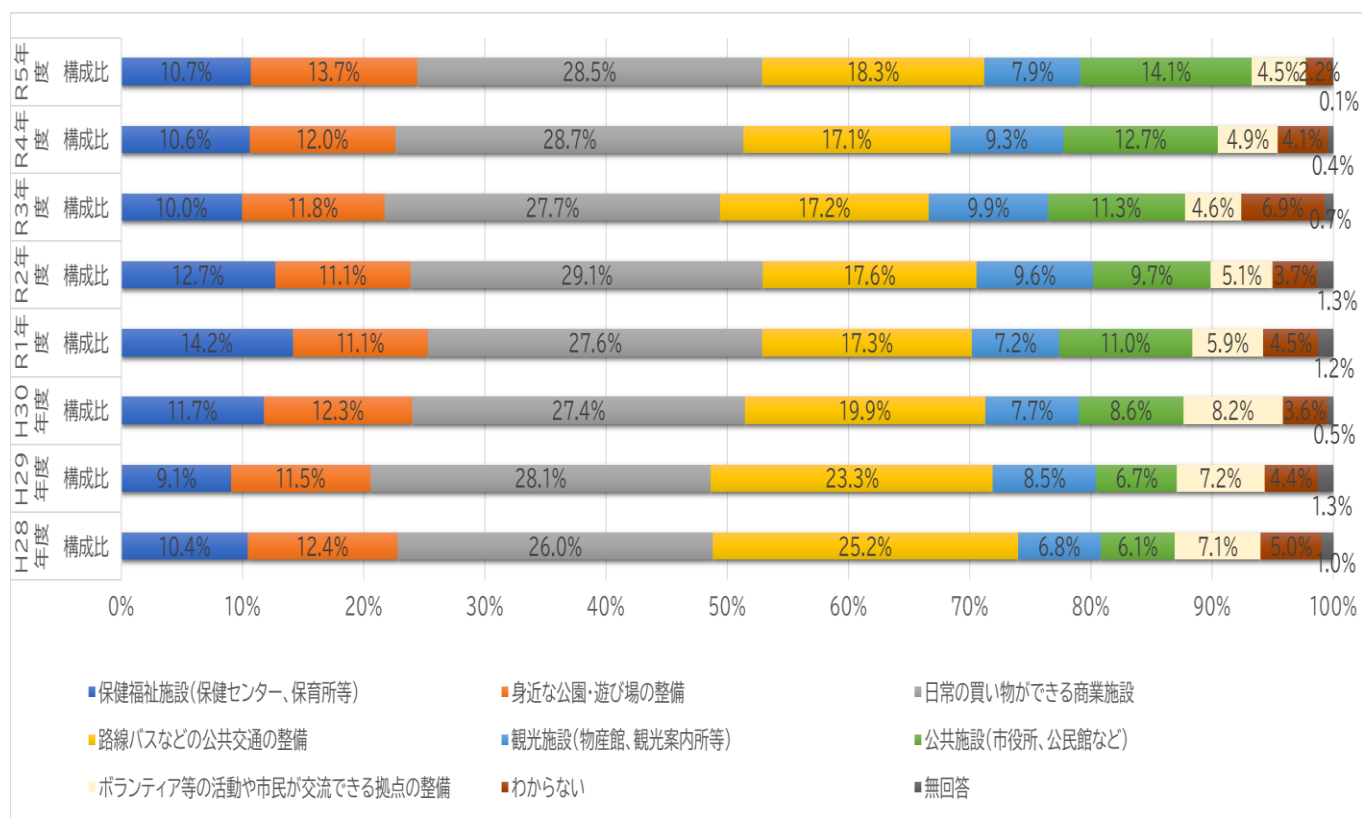
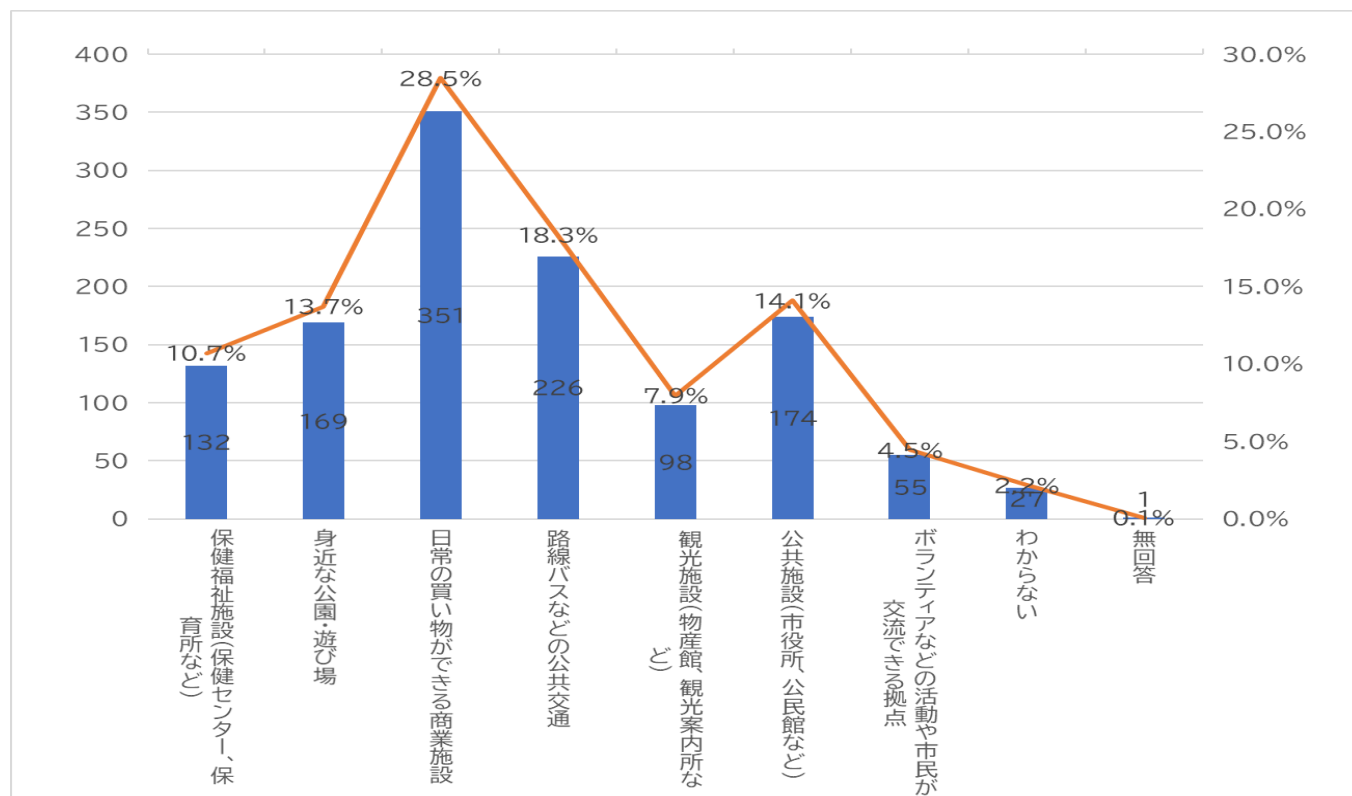


○約6割が「月1・2回程度」「年数回程度」と回答している一方で、約2割が週に1回以上訪問している。全く訪れない割合が R4 年度比で4.8ポイント(R4:26.6%→R5:21.8%)減少した。

○「土浦協同病院なめがた地域医療センター」の旧小学校区である旧玉川小学校区では、40%が「ほぼ毎日」と回答し、距離の離れている旧羽生小学校区では40%が「全く訪れない」と回答していた。

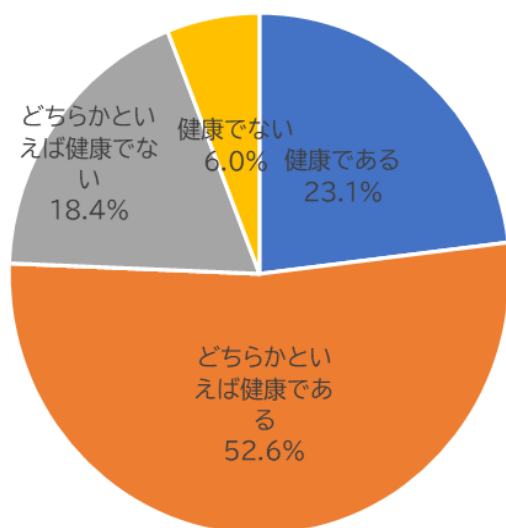
○どの旧小学校地区においても全く訪れないと回答した人がいた。

問14 「土浦協同病院なめがた地域医療センター」周辺がにぎわうためには、どのような取り組み(整備)が必要だと思いますか。(回答を3つまで)

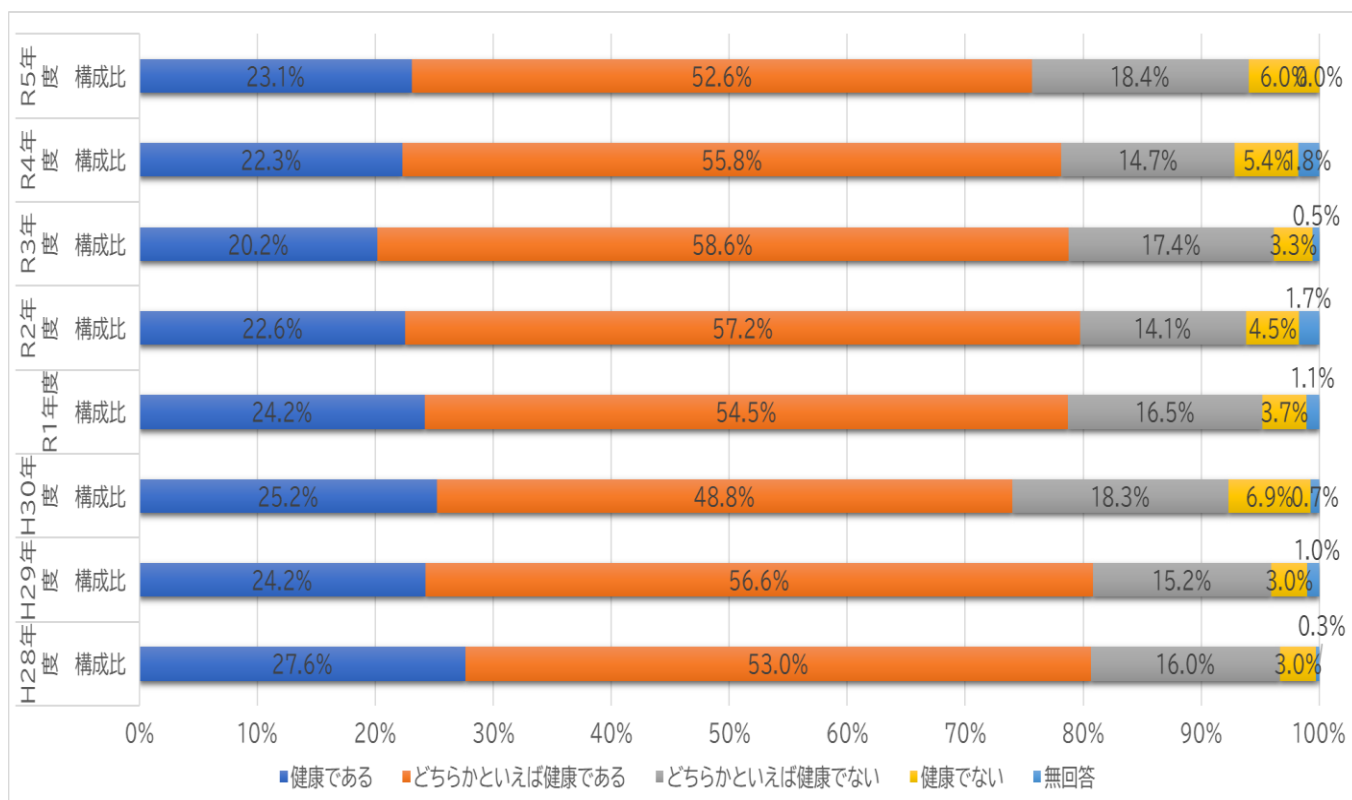


- すべての年齢層で「日常の買い物ができる商業施設」が最も回答した割合が高かった。
- 総計では「路線バスなどの公共交通の整備」が2番目に高い回答した割合だったが、50歳以降の層では「公共施設(市役所、公民館など)」と回答した割合が高い傾向にあった。
- 「公共施設(市役所、公民館など)」や「身近な公園・遊び場の整備」が年々増加している。

問15 今の自分の健康状態をどう思いますか。(回答を1つ)



- 健康である
- どちらかといえば健康である
- どちらかといえば健康でない
- 健康でない

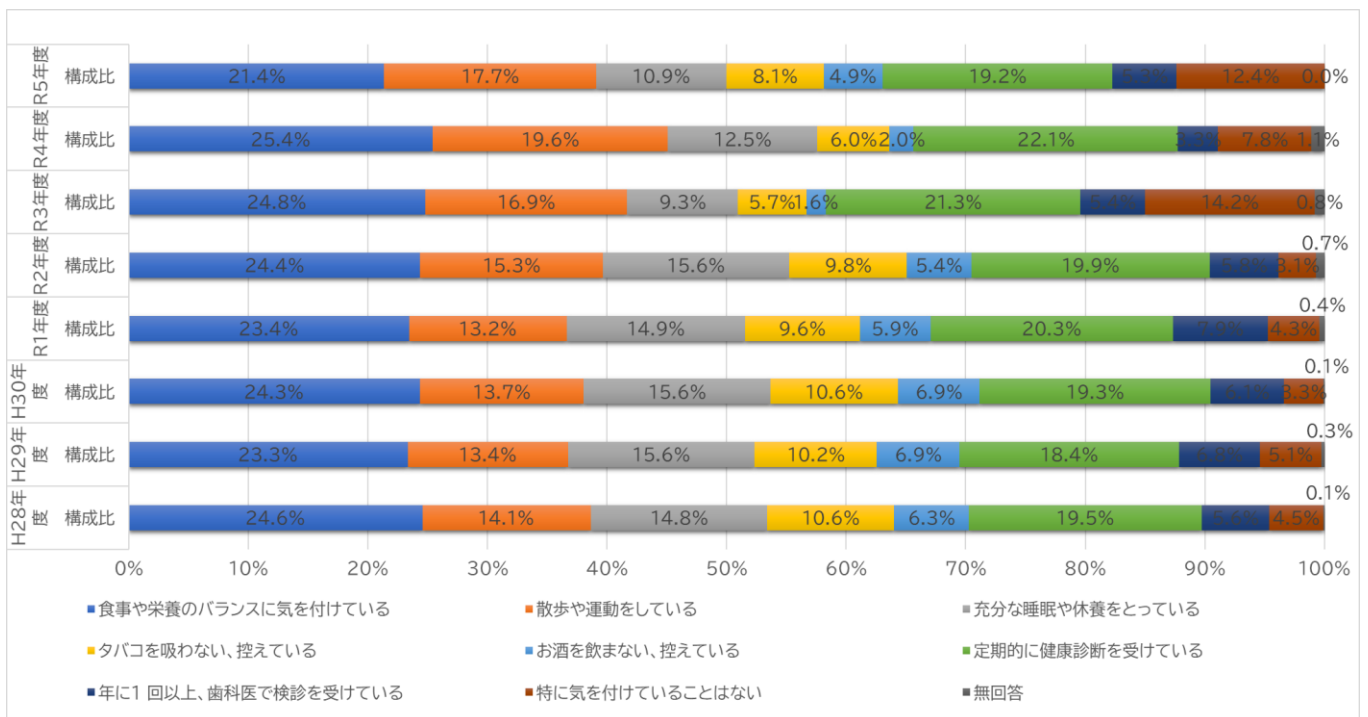
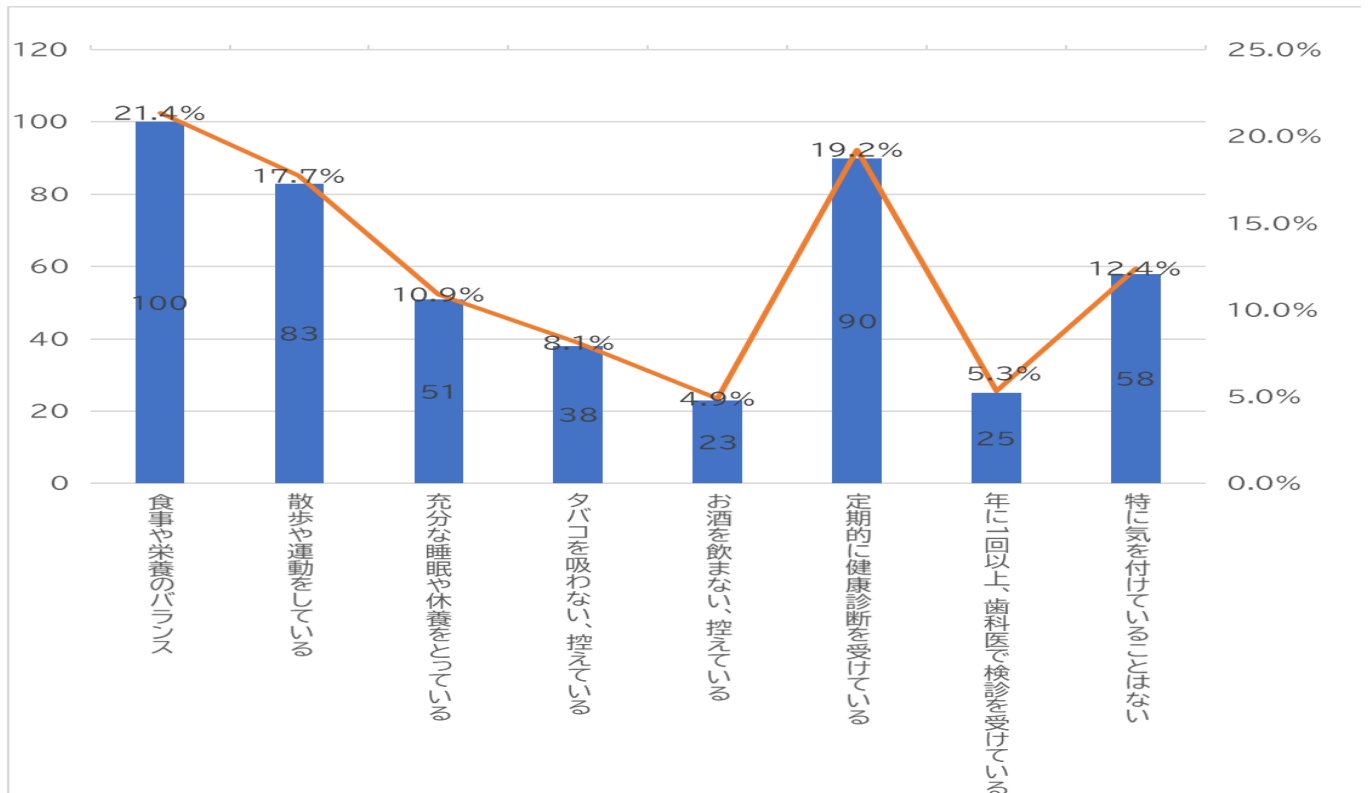


○例年約 75%の方が「健康である」「どちらかといえば健康である」と回答している一方、約 25%が「どちらかといえば健康でない」「健康でない」と回答し、R5年度においても同じ傾向が見られた。

○18歳～29歳までの層では「健康である」と答えた回答が 50%以上で、35 歳を超えると 30%以下となった。

○どの年齢層においても 60%以上が「健康である」「どちらかといえば健康である」と回答し、60 歳以上においてもこの傾向が続いている。さらに、65 歳以上の層では「どちらかといえば健康でない」「健康でない」と答えた回答は無かった。

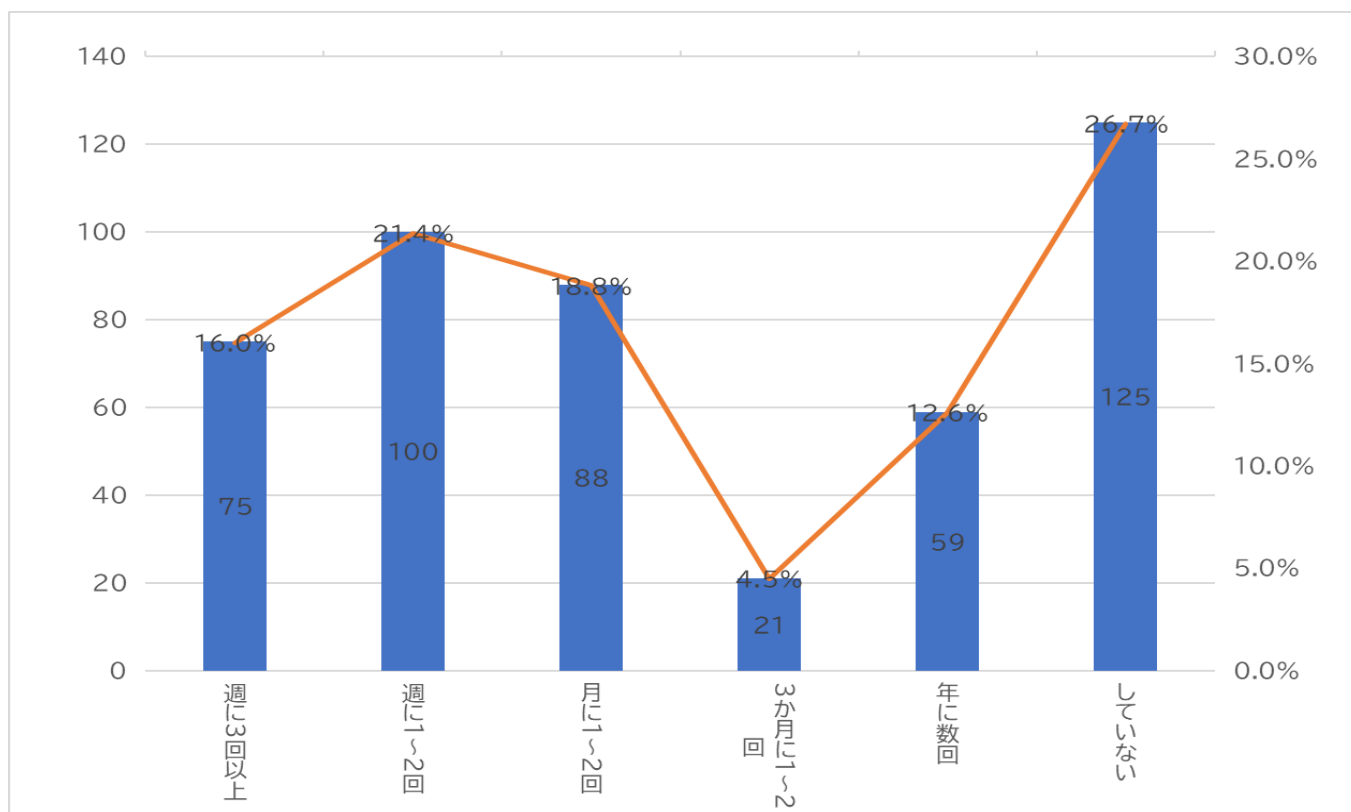
問16 日頃から健康のために気を付けていることを次の中から選んでください。(回答を1つ)



○例年「食事や栄養のバランスに気を付けている」に次いで、「定期的に健康診断を受けている」「散歩や運動をしている」の回答が多く、R5年度も同じ傾向が見られた。  
 ○年齢層や職業の属性による回答の傾向が出にくく、それぞれ個人の志向で健康には気を付けていることが推測される。

問17 この1年間にスポーツや運動をしましたか。(回答を1つ)

※体を動かすことを目的とした軽い運動(ウォーキング・サイクリング・ヨガ・ダンス・体操等)も含む。

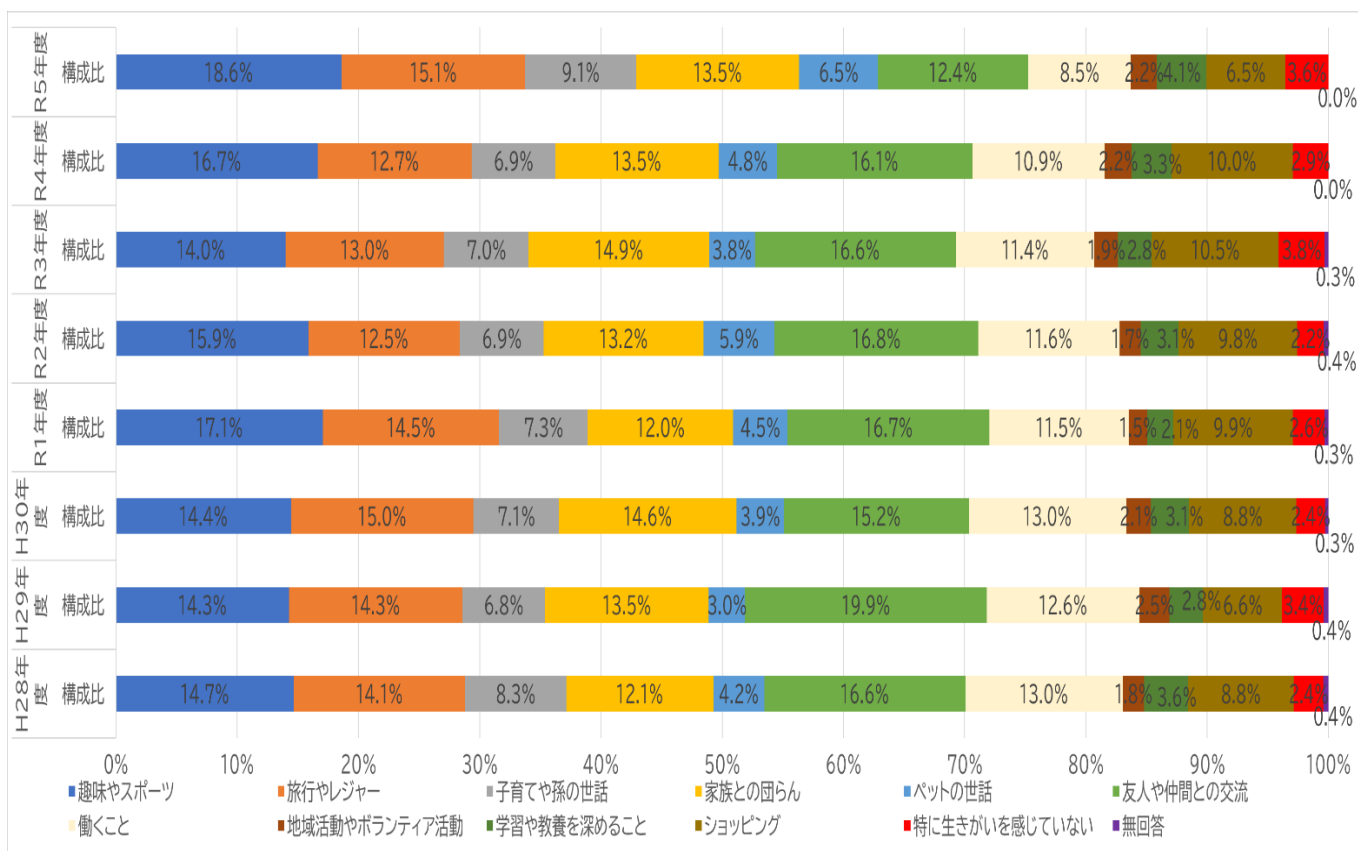
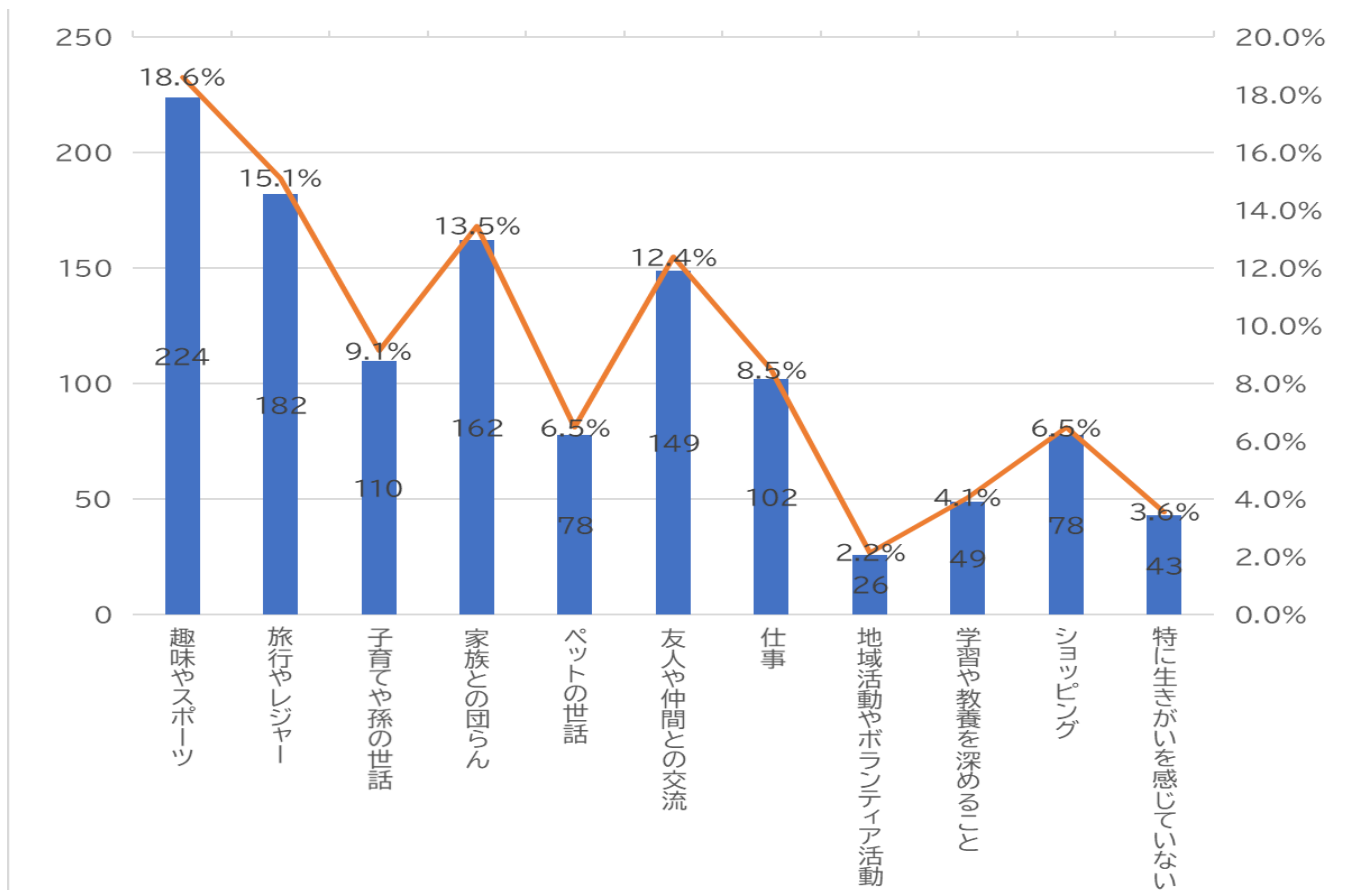


○多くの年齢層で週に1回以上の運動をしていると回答した割合が3割を超えた。特に18歳～24歳以下の層及び65歳以降の層では約5割以上となった。

○運動をしていないと回答した割合は、45～65歳以下の層で3割程度となり、中年層の運動不足が見られた。

○職業別には学生が「週に1回～2回」以上と回答した割合が70%を超えて最も高く、自営業(農家含む)が「していない」と答えた割合が45.5%で最も高い割合であった。

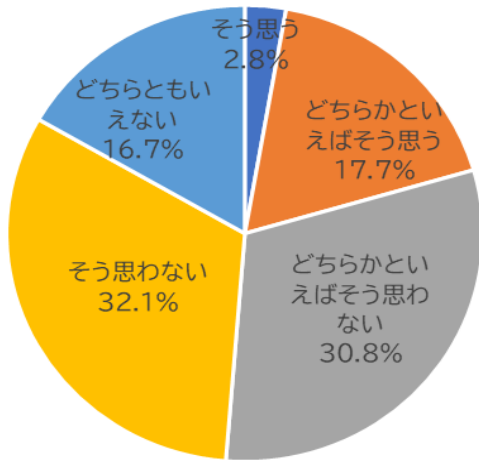
問18 今の生活で、どのような時に生きがいを感じますか。(回答を3つまで)



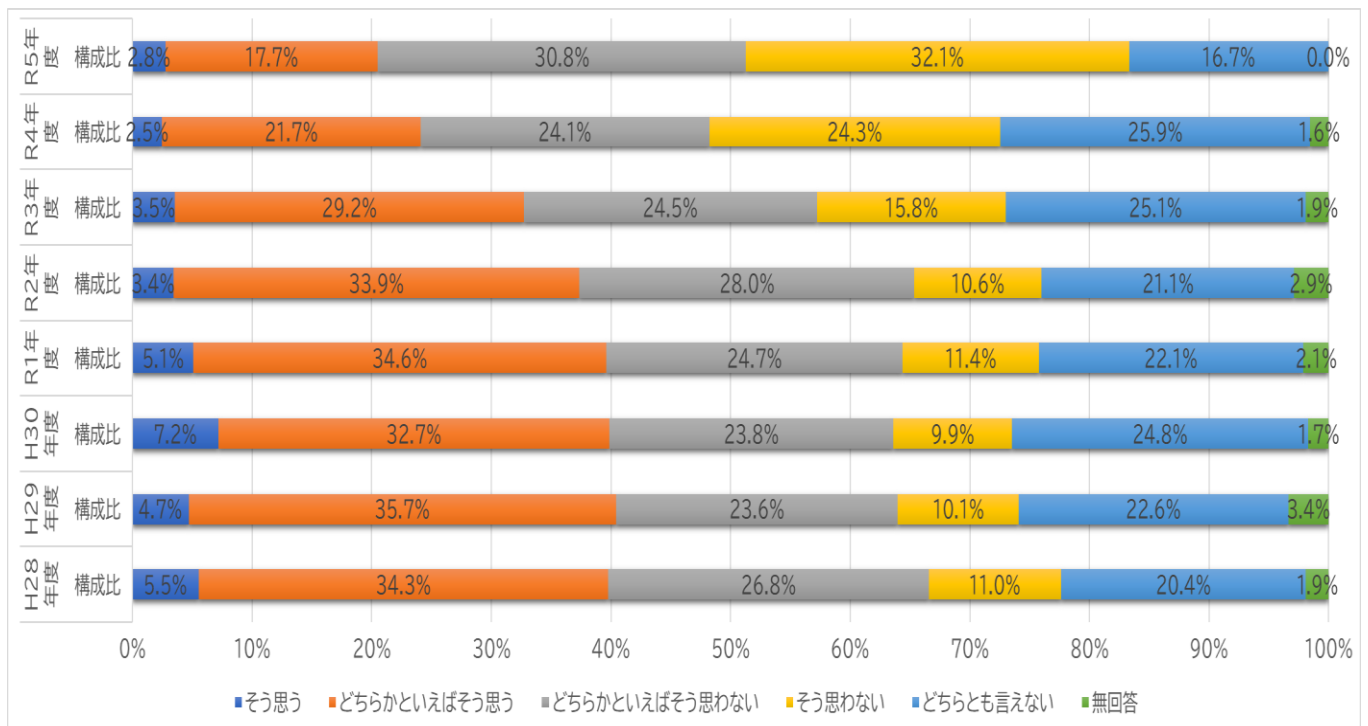
- 「趣味やスポーツ」「旅行やレジャー」の回答した割合が最も高く、次いで「家族との団らん」「友人や仲間との交流」の順だった。「地域活動やボランティア活動」は全体の約2%だった。
- 「特に生きがいを感じていない」と回答した割合が約4%となり、25～29歳層で 6.8%と最も高い回答割合となった。
- 「仕事(働くこと)」と回答した割合が高かったのは 45～49 歳の層で 11.6%であった。全体回答では仕事(働くこと)と答えた割合が近年減少している。
- R5年度は「友人や仲間との交流」と回答した割合が昨年度比で3.7ポイント減少と本設問中で最も割合が減少した項目だった。18～24 歳層及び 65 歳以上層では回答した割合が 20%を超えていた。

## 6. 少子高齢化の取り組みについて

問19 人口減少が進む中で、特に、少子高齢化への取り組みが重要視されています。行方市は、安心して子どもを産み育てられる環境が整っていると思いますか。(回答を1つ)



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- どちらともいえない



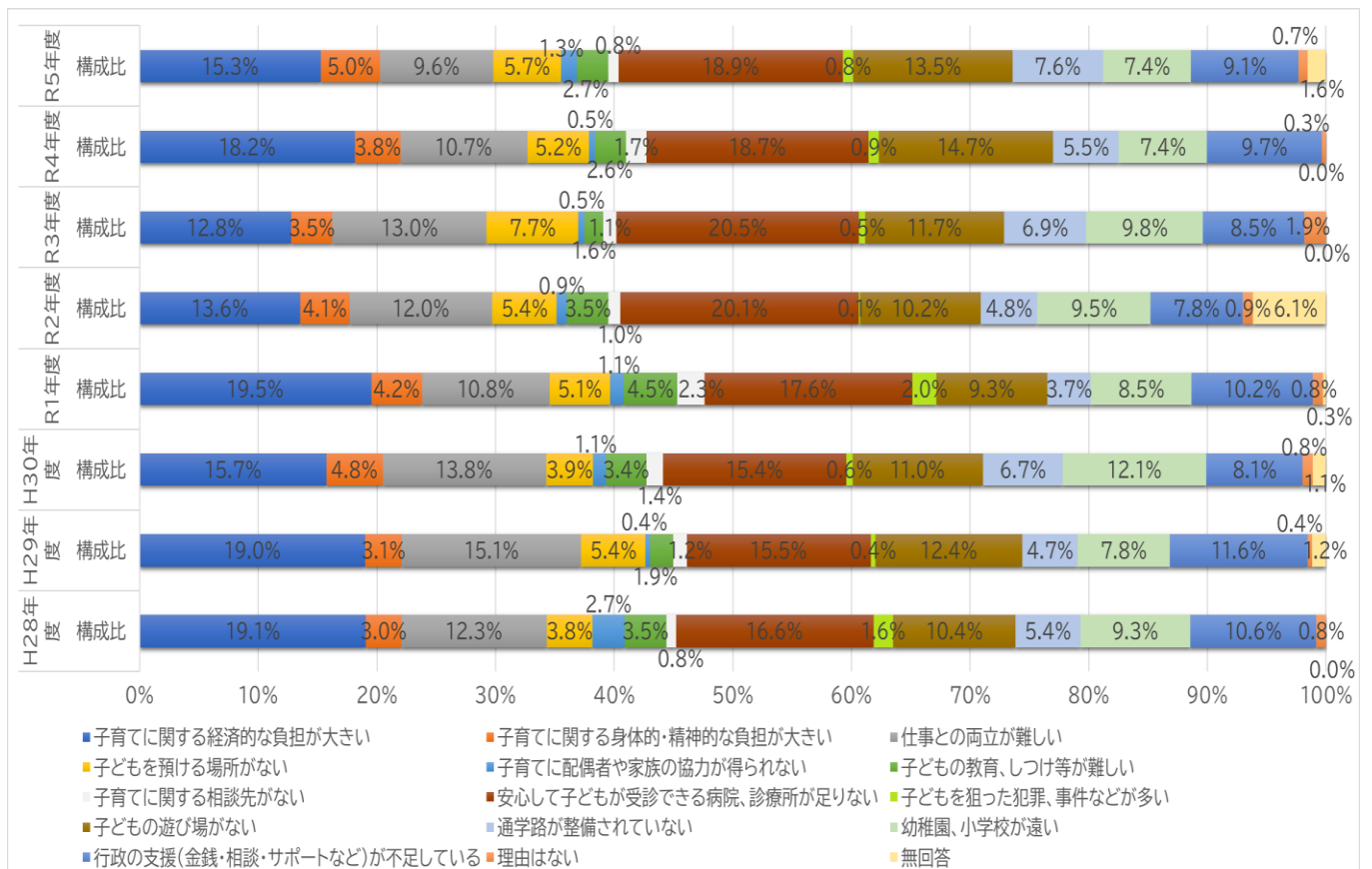
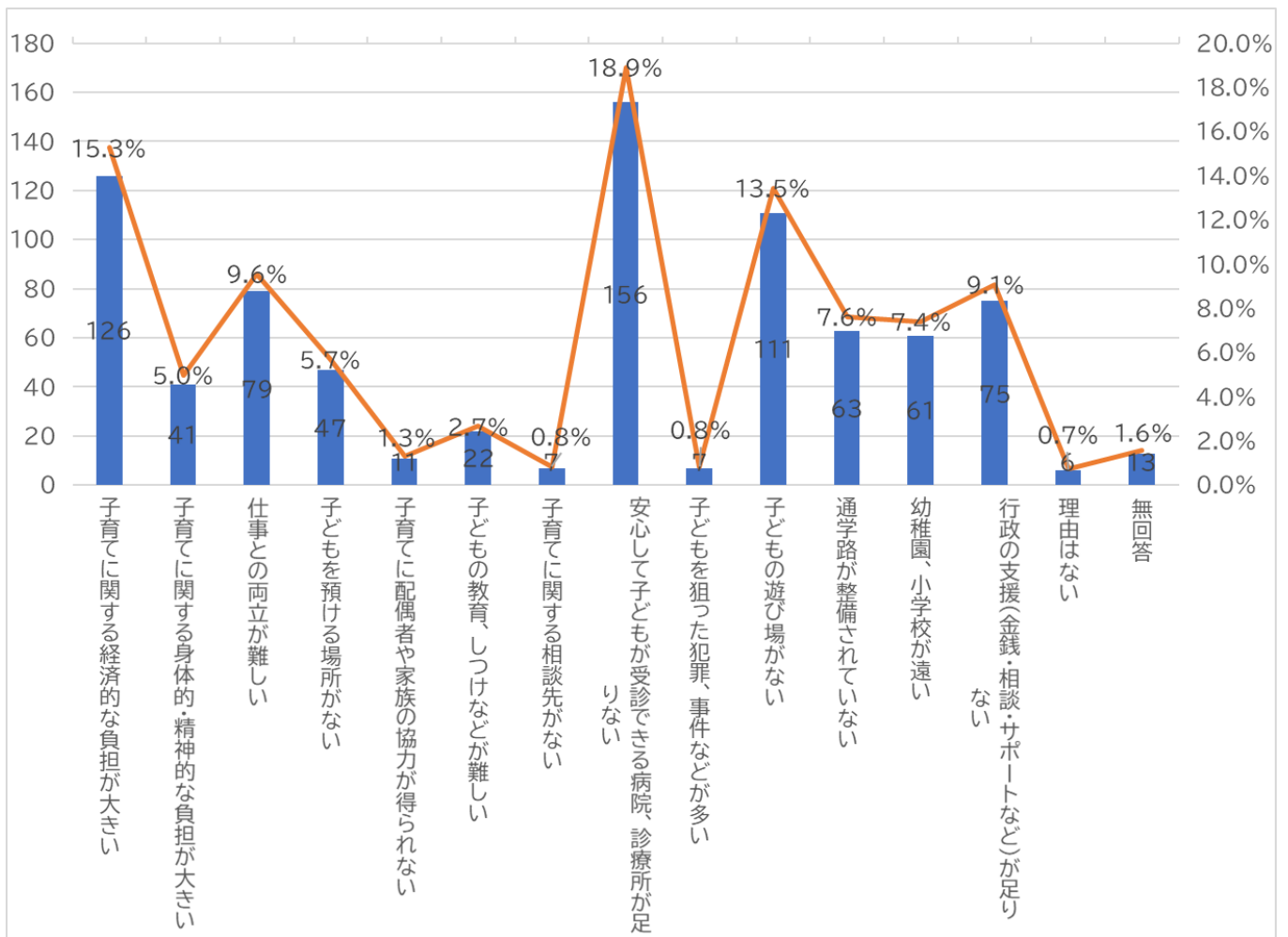
OR5年度は62.9%の方が「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答しており、前年の48.4%に対し14.5ポイント増加している。

○30歳以上の層では半数以上が「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答し、35～39歳の層で84.4%と最大の割合となった。

○「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は近年減少してきている。

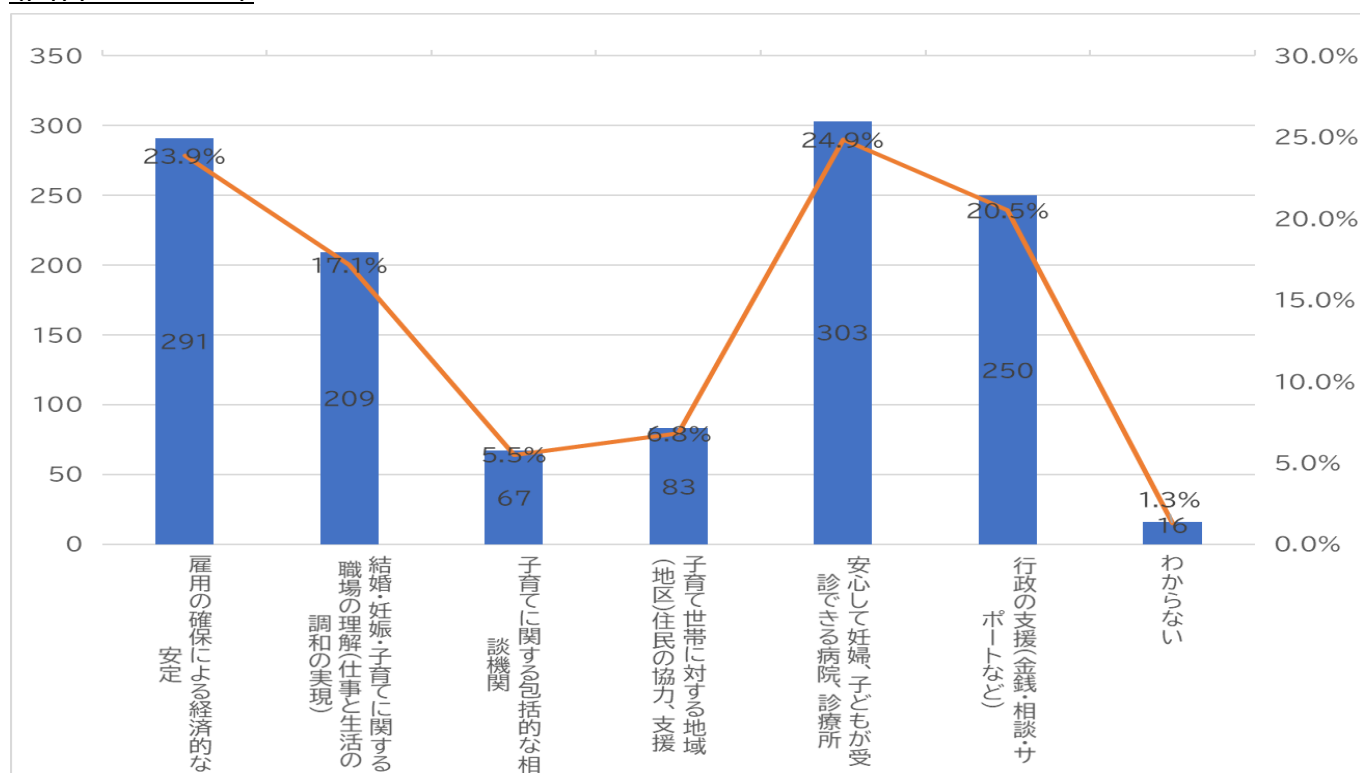
【問19 で、『3 どちらかといえばそう思わない・4 そう思わない』を選んだ方のみ回答】

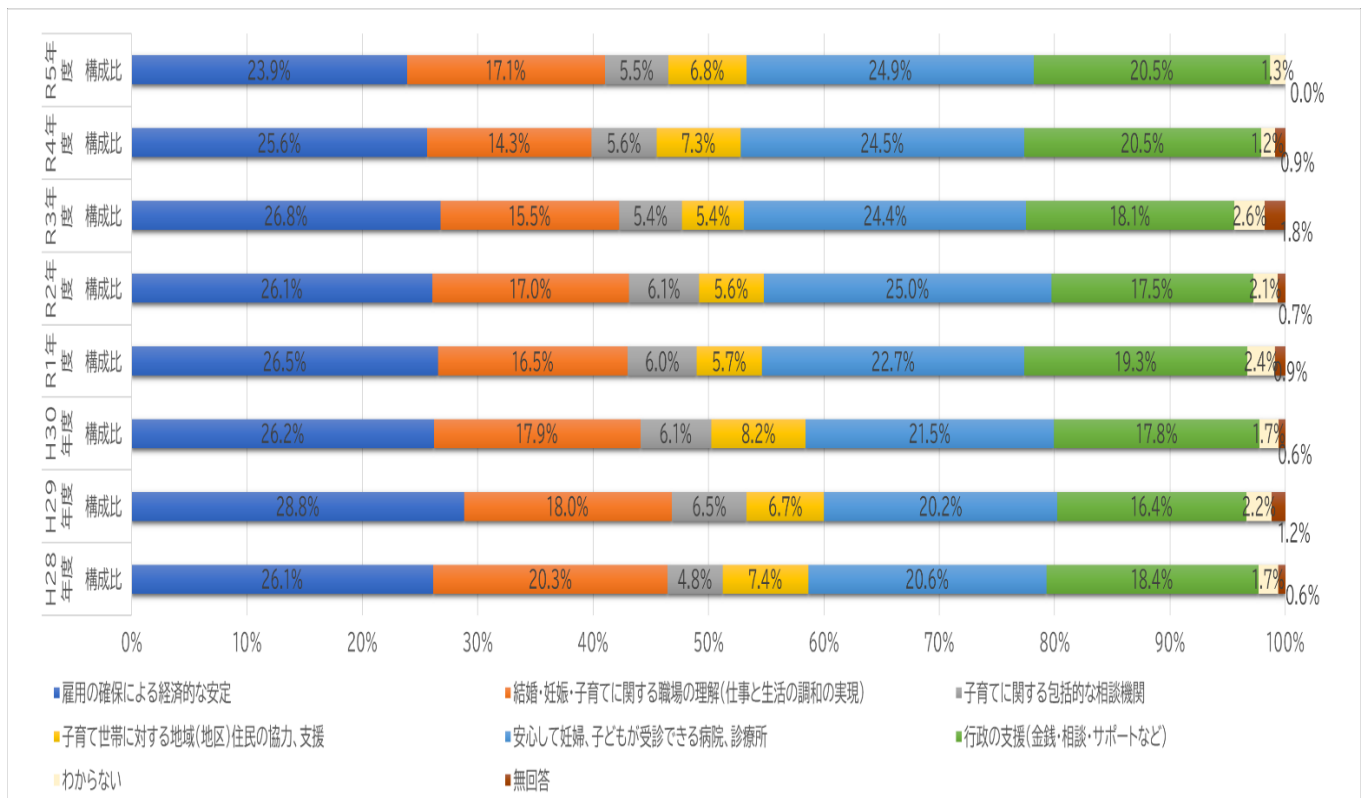
問20 安心して子どもを産み育てられると感じることができないのはどのような理由からですか。  
(回答を3つまで)



- 「安心して子どもが受診できる病院・診療所が足りない」と回答した割合が最も高かった。
- 30～34歳の層では、「子育てに関する経済的な負担が大きい」と回答した割合が18.0%で最も高かった。また、「子どもの遊び場がない」と回答した割合が17%で他世代と比べると最も回答割合が高かった。
- 18～24歳層の16.7%は「子どもの遊び場がない」と回答し、若い世代には遊び場の不足を感じていると推測される。
- 30歳代では病院や遊び場が不足している、経済的な負担が大きい、仕事との両立が難しいと感じる傾向がある。

問21 安心して結婚・妊娠・子育てができる地域になるためには、何が重要だと思いますか。  
(回答を3つまで)





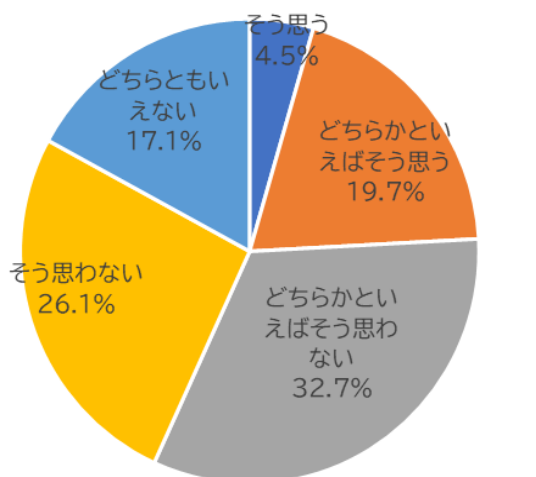
○「安心して妊婦、子どもが受診できる病院、診療所」が 24.9%で回答した割合が最も高かった。例年「雇用の確保による経済的な安定」が回答した割合が最も高いがR5年度は初めて逆転した。

○18～39 歳層は子育てのために行政の支援を求め、40 代以降になると病院・診療所を回答する割合が高くみられた。

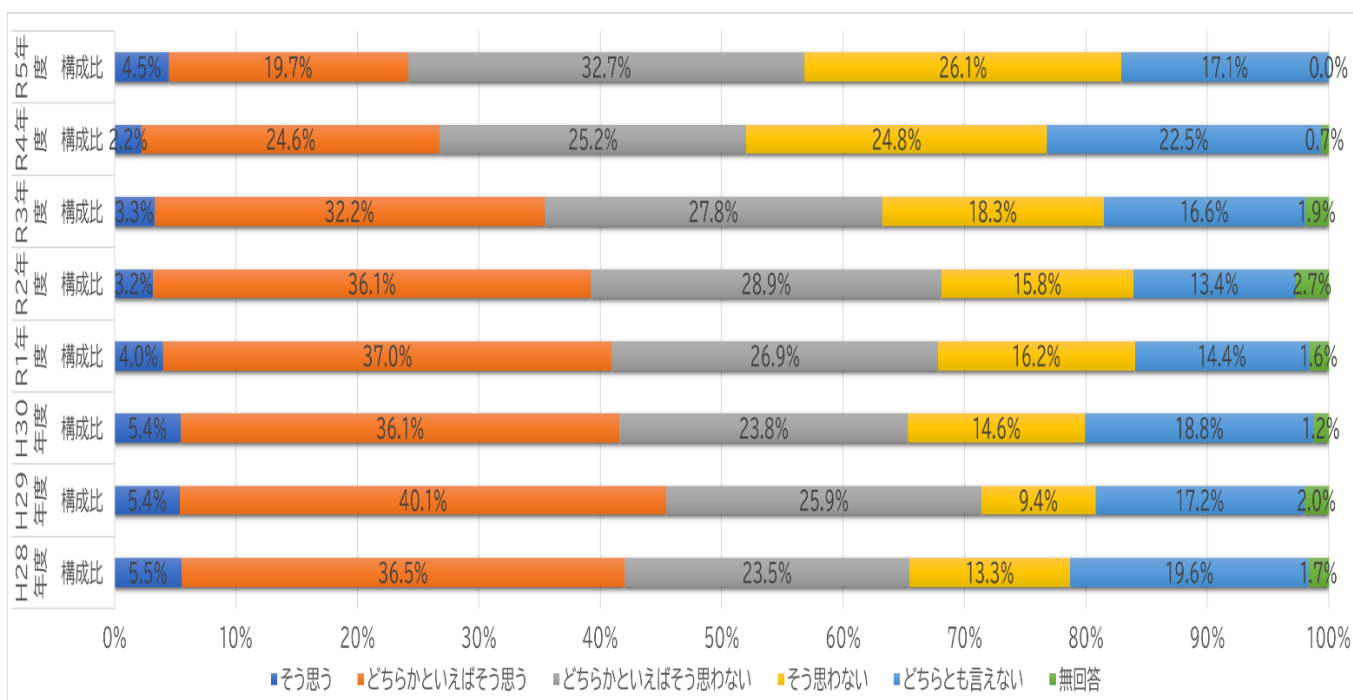
○年齢層別による回答した割合が最も高い回答

- ・18～24歳層：「行政の支援(金銭・相談・サポート)」(20.8%)
- ・25～29歳層：「雇用の確保による経済的な安定」・「行政の支援(金銭・相談・サポート)」(共に 27.7%)
- ・30～34歳層：「行政の支援(金銭・相談・サポート)」(24.8%)
- ・35～39 歳層：「行政の支援(金銭・相談・サポート)」(27.4%)
- ・40～44 歳層：「安心して妊婦、子どもが受診できる病院、診療所」(26.2%)
- ・45～49 歳層：「雇用の確保による経済的な安定」(26.1%)

問22 行方市は高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると思いますか。(回答を1つ)



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- どちらともいえない



○R5年度は58.8%の方が「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答しており、前年の50.0%に対し増加している。また、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答が24.2%で過去最も低い割合であった。

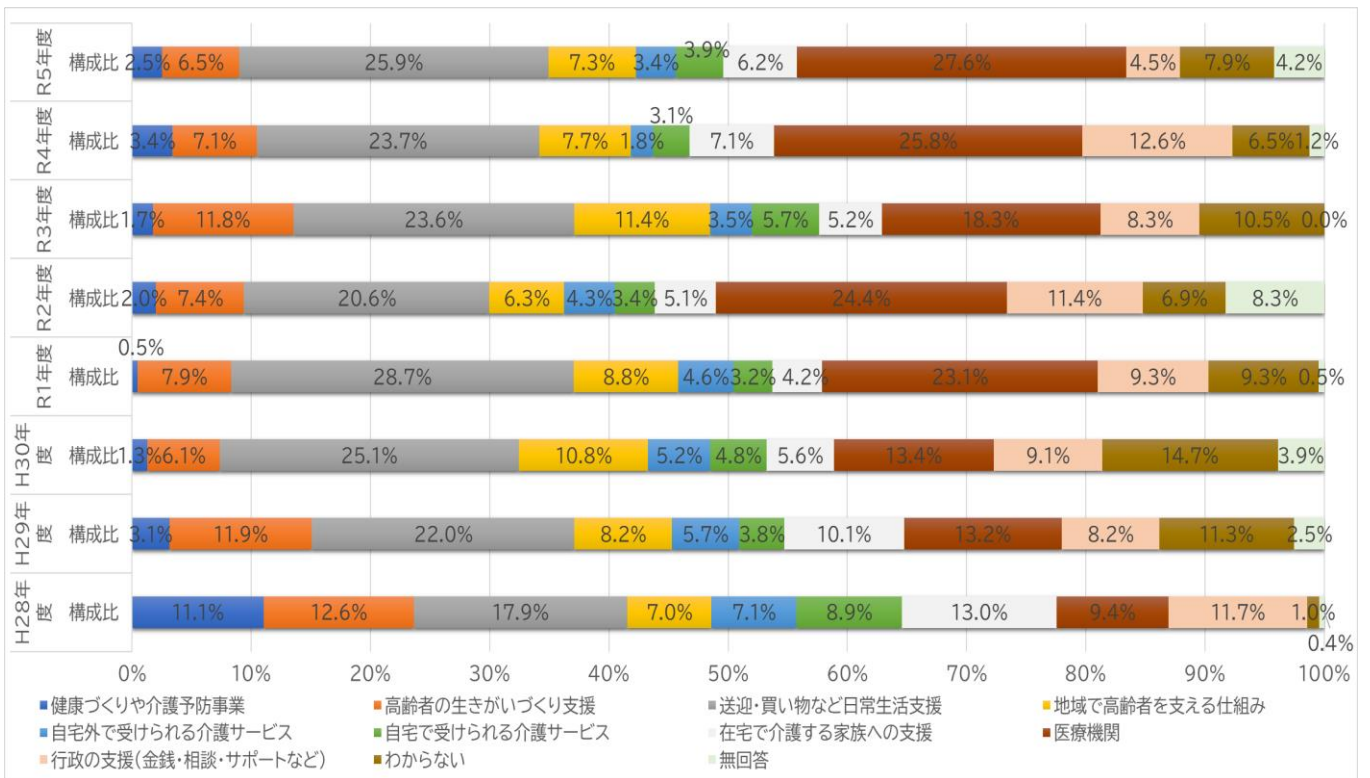
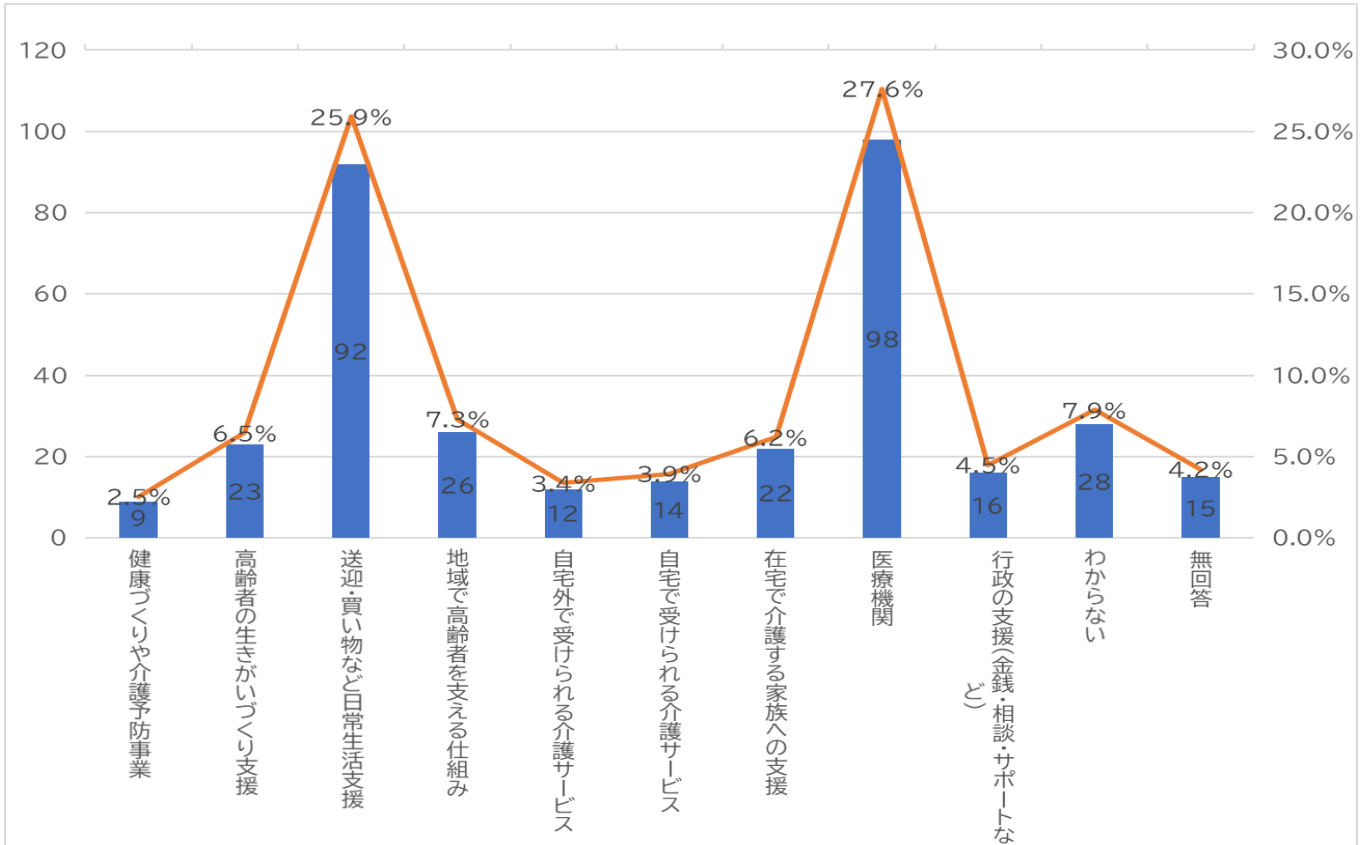
○60歳代以降では「そう思う」と答えた回答は無かった。

○75歳以上は「どちらかといえばそう思う」が62.5%で最多の回答割合だった。

○60歳代以降の「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した割合は以下のとおり。

- ・60～64歳:70.9%(最多)
- ・65～69歳:66.6%
- ・70～74歳:66.6%
- ・75歳以上:37.5%

【問22で『3 どちらかといえばそう思わない・4 そう思わない・5 どちらともいえない』を選んだ方のみ回答】  
 問23 行方市に不足していると思うものは何ですか。(回答を1つ)

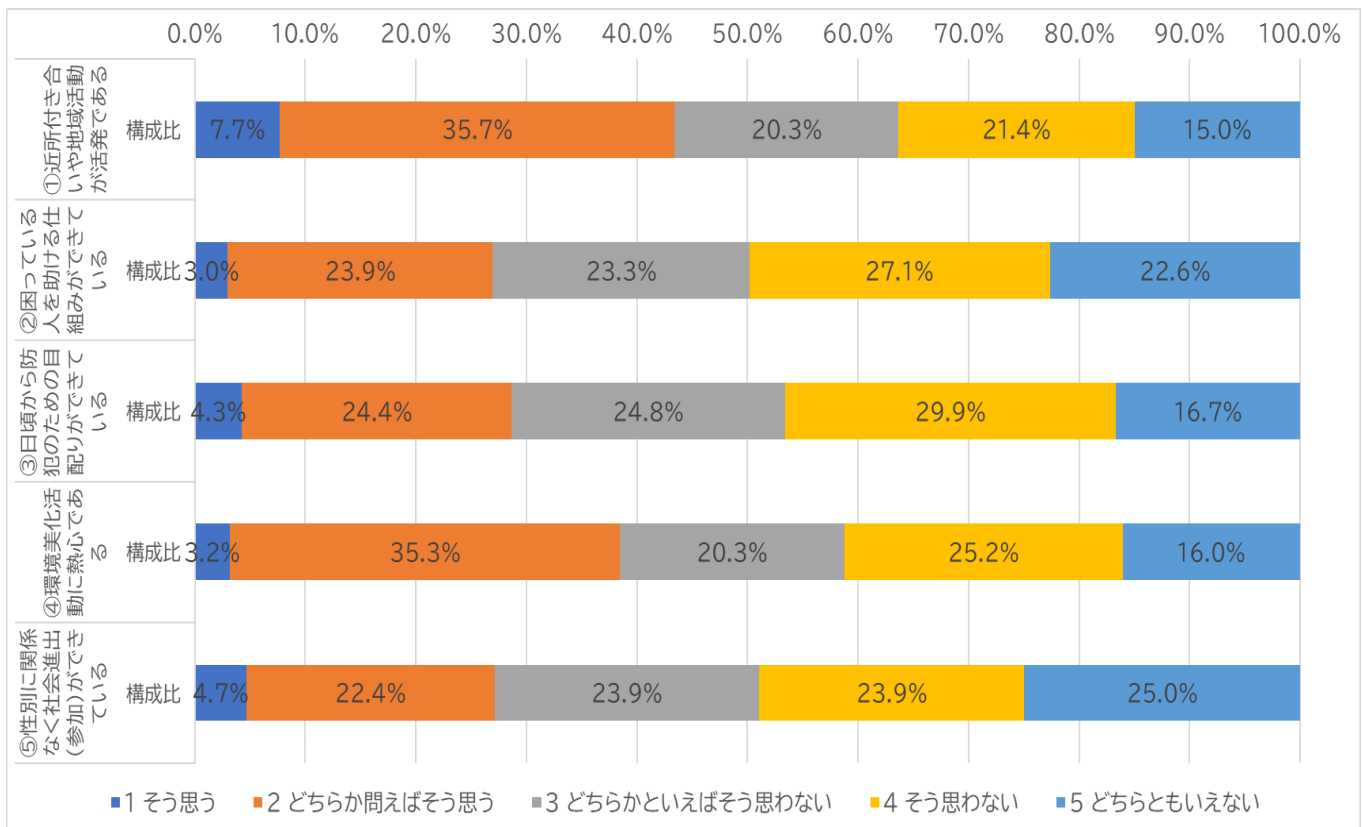


〇市に不足しているものの回答として令和5年度は「医療機関」が最も多く、僅差で「送迎・買い物など日常生活支援」が続いた。特に 65～69 歳層では 57.9%と半数以上が「医療機関」と回答した。

〇60～64 歳層では「高齢者の生きがいづくり支援」が「送迎・買い物などの日常生活支援」と 25.0%の同数で最多となった。

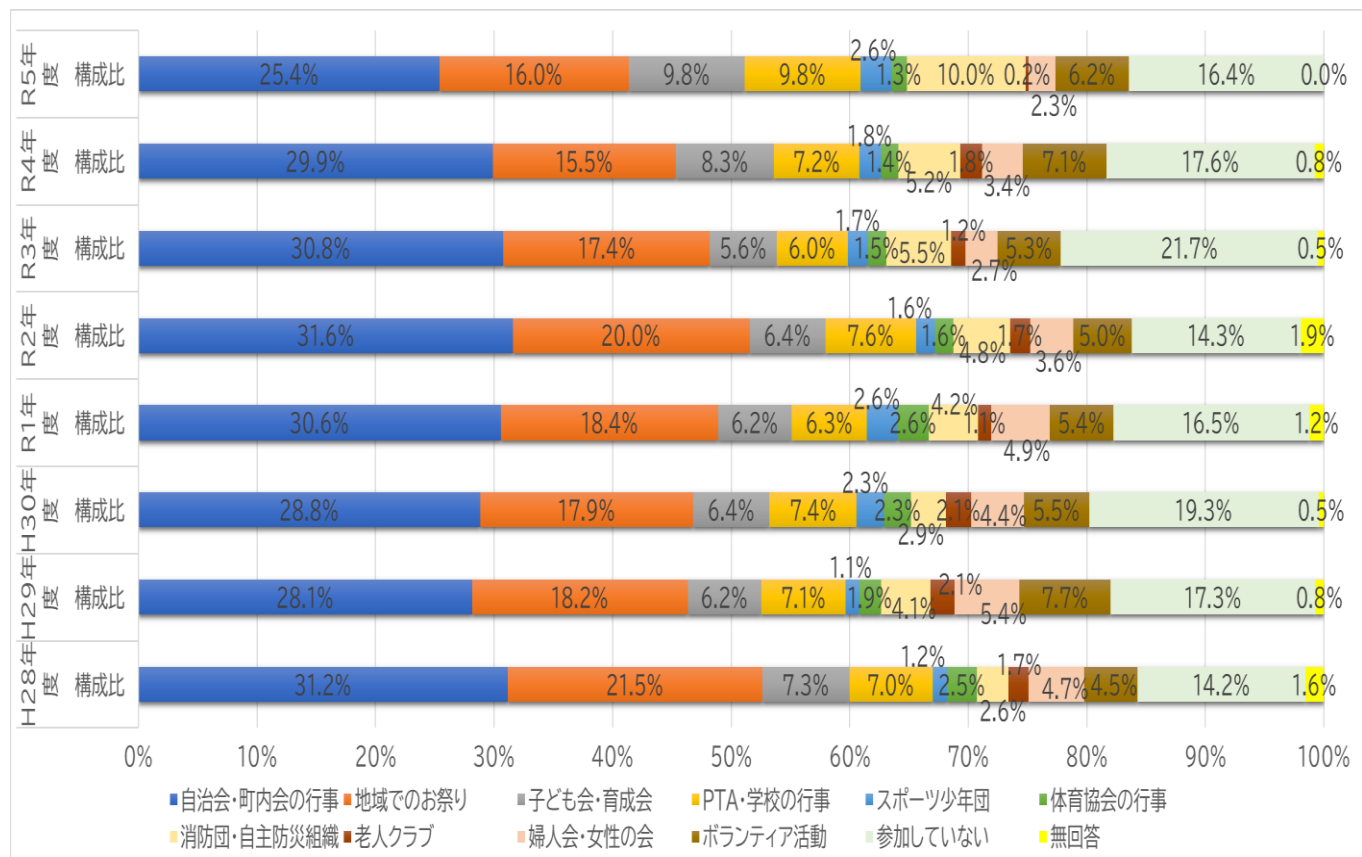
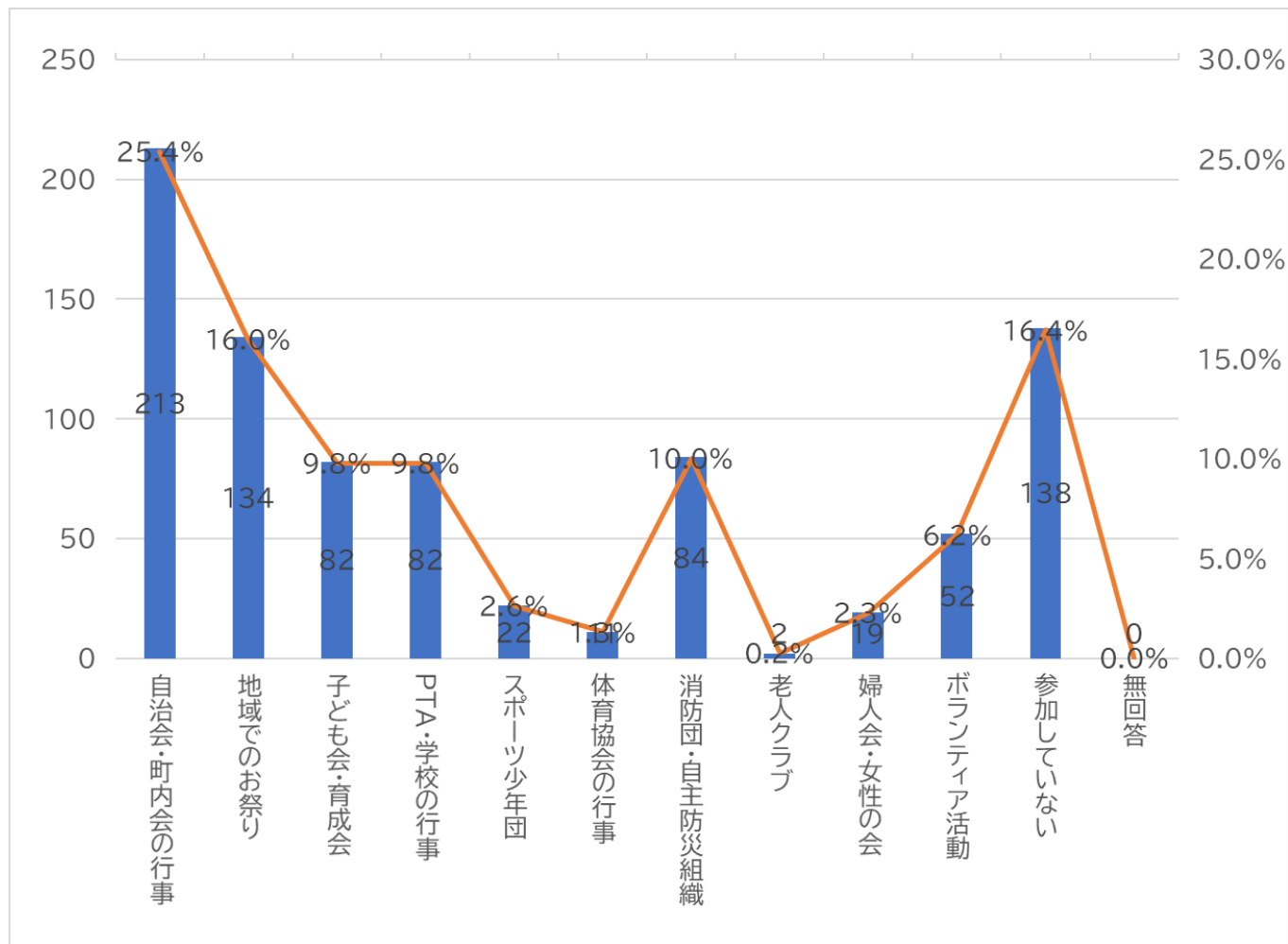
## 7. 地域づくりについて

問24 住んでいる地区に対して、次の項目についてどう感じていますか。(項目ごとに回答を1つ)



- ①「近所付き合いや地域活動が活発である」かの質問に対し、18歳～44歳までの層では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した割合を上回っていたが、45歳以降では逆転する傾向があった。
- ②「困っている人を助ける仕組みができている」かの質問に対し、唯一18歳～24歳層が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の回答割合を上回った。
- ③「日ごろから防犯のための目配りができている」かの質問に対し、すべての層で「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を上回った。
- ④「環境美化活動に熱心である」かの質問に対し、44歳までの層では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した割合は同じ程度であったが、それ以降の年代では「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した割合が増加する傾向にあった。
- ⑤「性別に関係なく社会進出(参加)ができているか」の質問に対し、18～24歳層は「わからない」と回答した割合が44.4%で最も高く、25～34歳までの層が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した割合を上回り、それ以降の層では「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した割合が高い傾向にあり、若い層には性差なく社会進出できていると感じている回答が多くみられた。

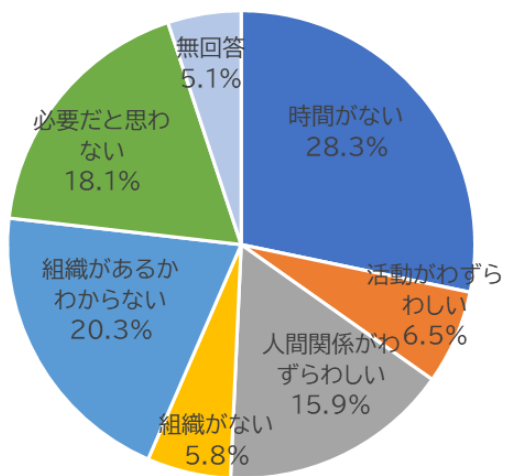
問25 地域でどのような活動に参加していますか。(回答を3つまで)



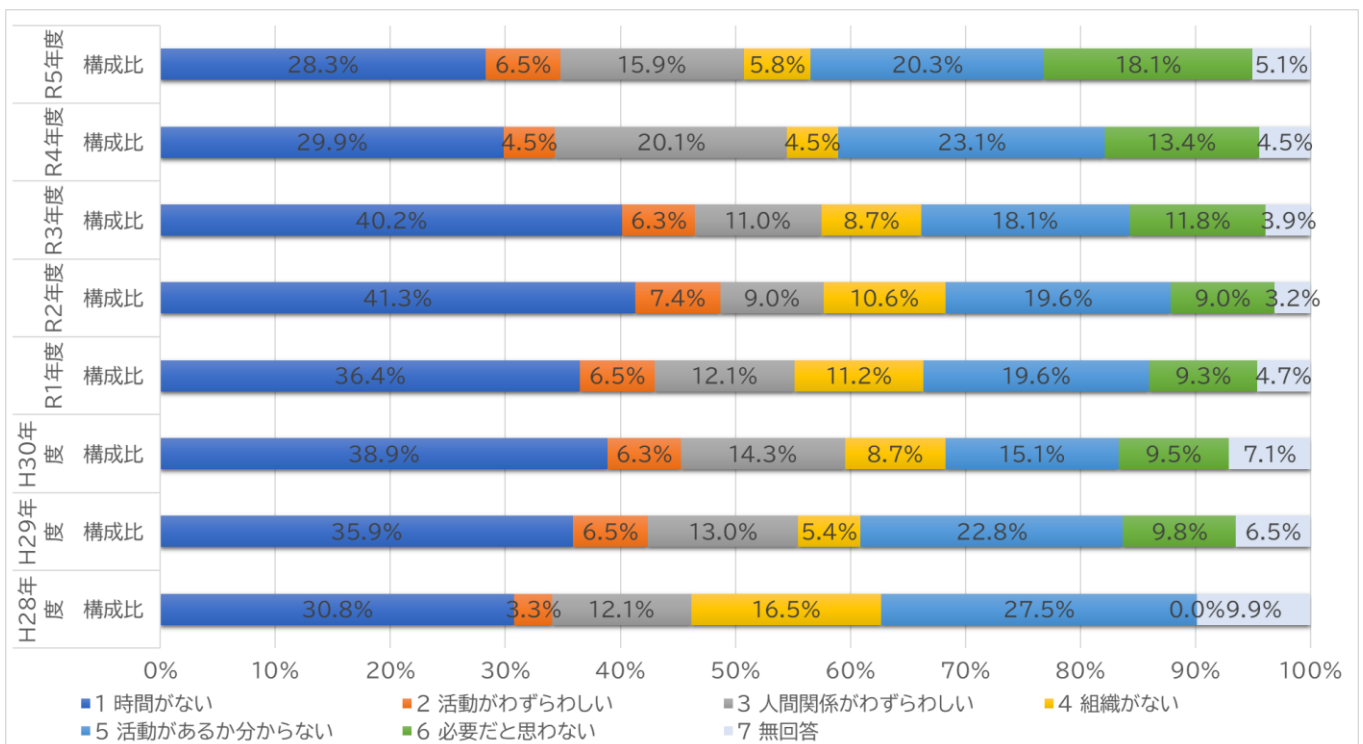
- 例年「自治会・町内会の行事」と回答した割合が最も高く、R5年度も同様であった(25.4%)。
- 「参加していない」と回答した割合が2番目に高く、18～29歳層では約50%であった。30歳代を超えると「参加していない」と回答した割合は20%を切っており、5人中4人は何かしらの活動に参加している。
- 40～44歳層では「消防団・自主防災組織」が21.7%と「子ども会・育成会」と同数で回答した割合が最も高かった。
- 「地域でのお祭り」はすべての層で一定の回答が見られた。

【問25で『11 参加していない』を選んだ方のみ回答】

問26 活動に参加していない理由は何ですか。(回答を1つ)

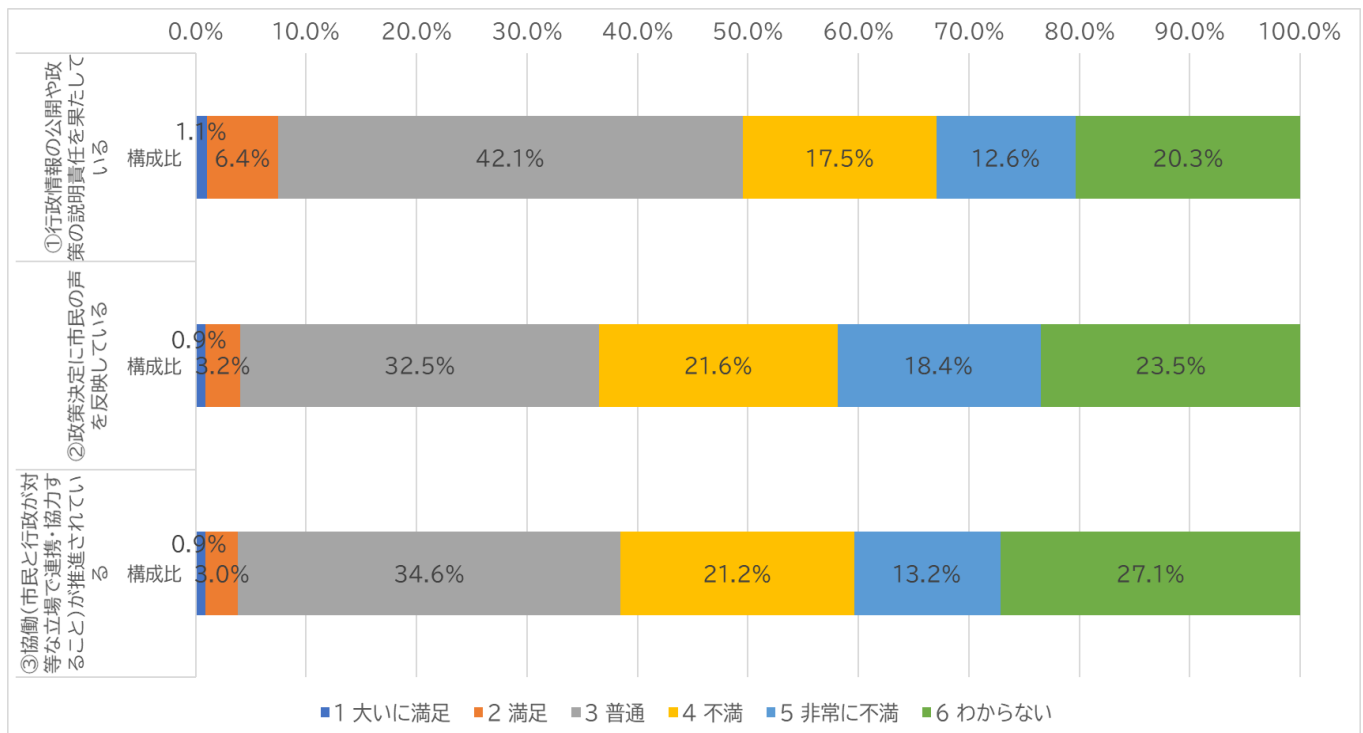


- 時間がない
- 活動がわずらわしい
- 人間関係がわずらわしい
- 組織がない
- 組織があるかわからない
- 必要だと思わない
- 無回答



- 「時間がない」と回答した割合が最も高かった。その中でも年齢層別にみると 18～34 歳層が最も高い割合となり、若年層は地域活動に割く時間が不足している傾向がある。
- 35～54 歳層では「人間関係がわずらわしい」と回答した割合が高めとなる傾向があった。
- 50 歳代以降は「組織があるかわからない」と回答した割合が若年層よりも高めであり、高齢層には地域活動の周知が求められている。
- 18～59 歳層は少数ながら地域活動が「必要だと思わない」の回答が見られたが、60 歳以降の層ではほとんどの回答が見られなかった。

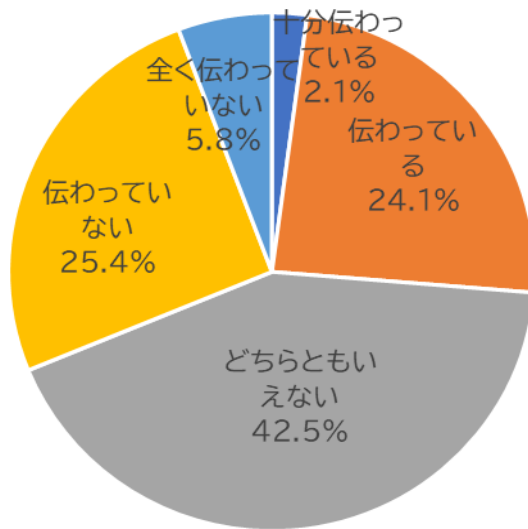
問27 行方市が行う地域づくりへの対応について、次の項目をどう感じていますか。  
(項目ごとに回答を1つ)



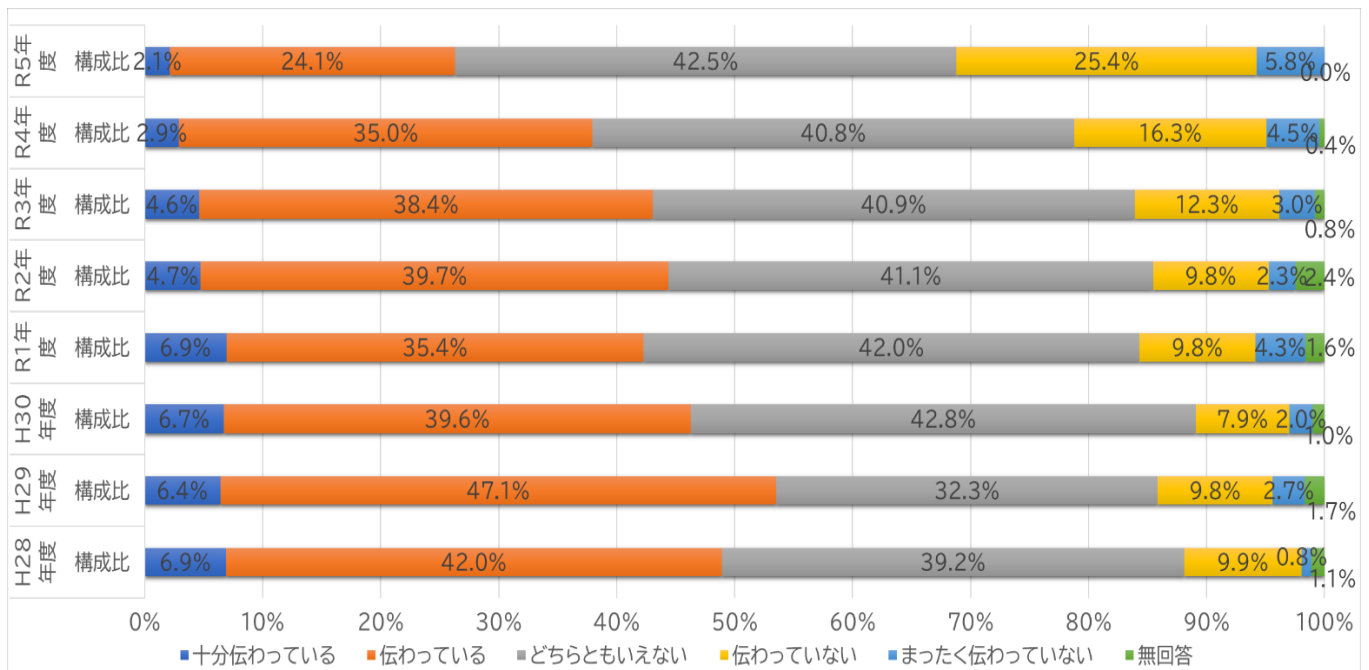
- ①市が「行政情報公開や政策の説明責任を果たしている」かの質問に対し、すべての層で「普通」と回答した割合が最も高かった。「わからない」と回答した割合が若年層で高かった。
- ②市が「政策決定に市民の声を反映している」かの質問に対し、「普通」と回答した割合が最も高かった。「大いに満足」「満足」と回答した割合が4.1%あり、「不満」「非常に不満」と回答した割合が40%となった。また、「わからない」と回答した割合は若年層で高かったが、45～59 歳層でも多くみられた。
- ③市は「協働が推進されている」かの質問に対し、「普通」と回答した割合が最も高かった。60 歳以降では「不満」と回答した割合が高めだった。

## 8. 情報伝達について

問28 行方市からの情報が十分に伝わっていますか。(回答を1つ)



- 十分伝わっている ■ 伝わっている
- どちらともいえない ■ 伝わっていない
- 全く伝わっていない



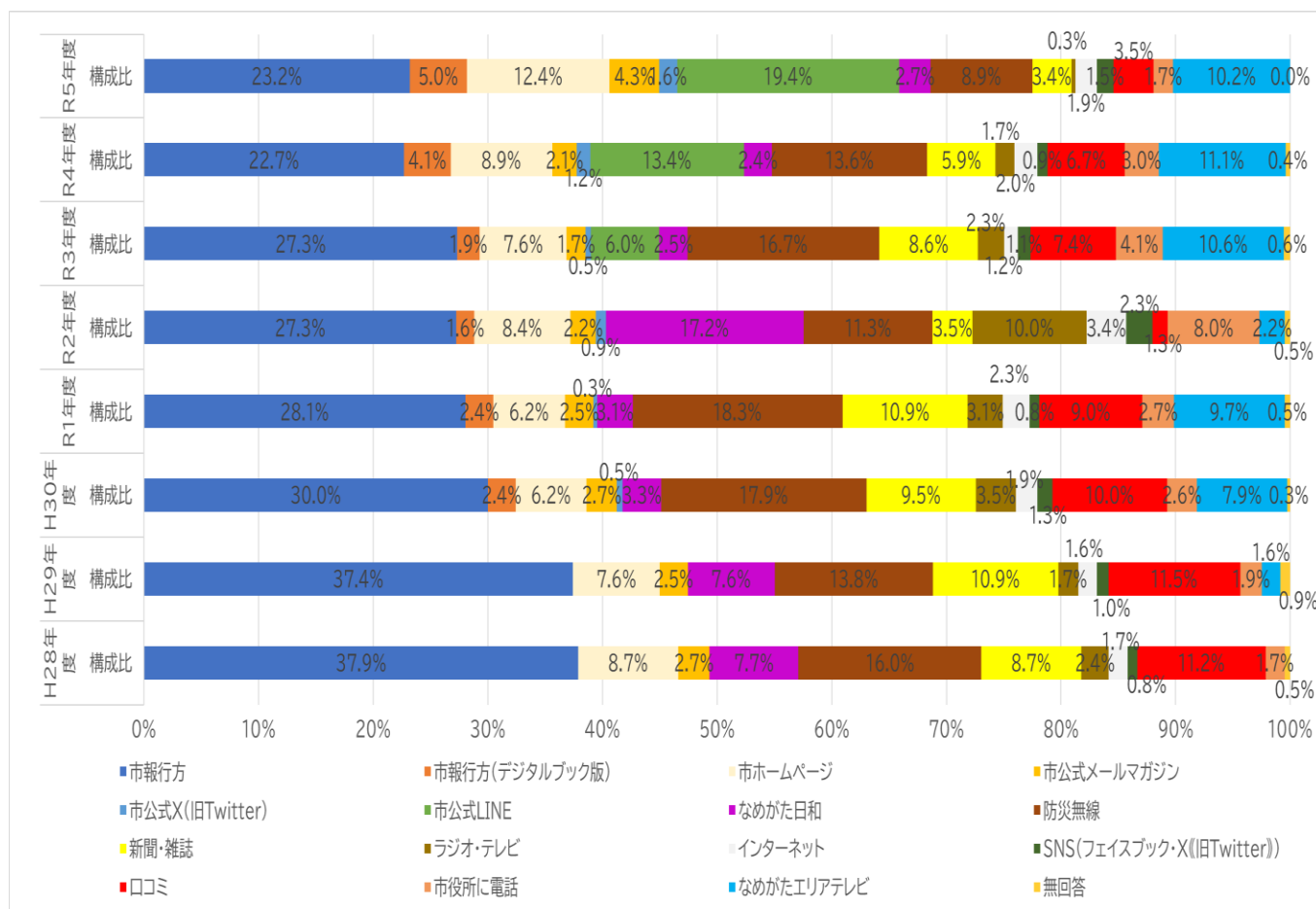
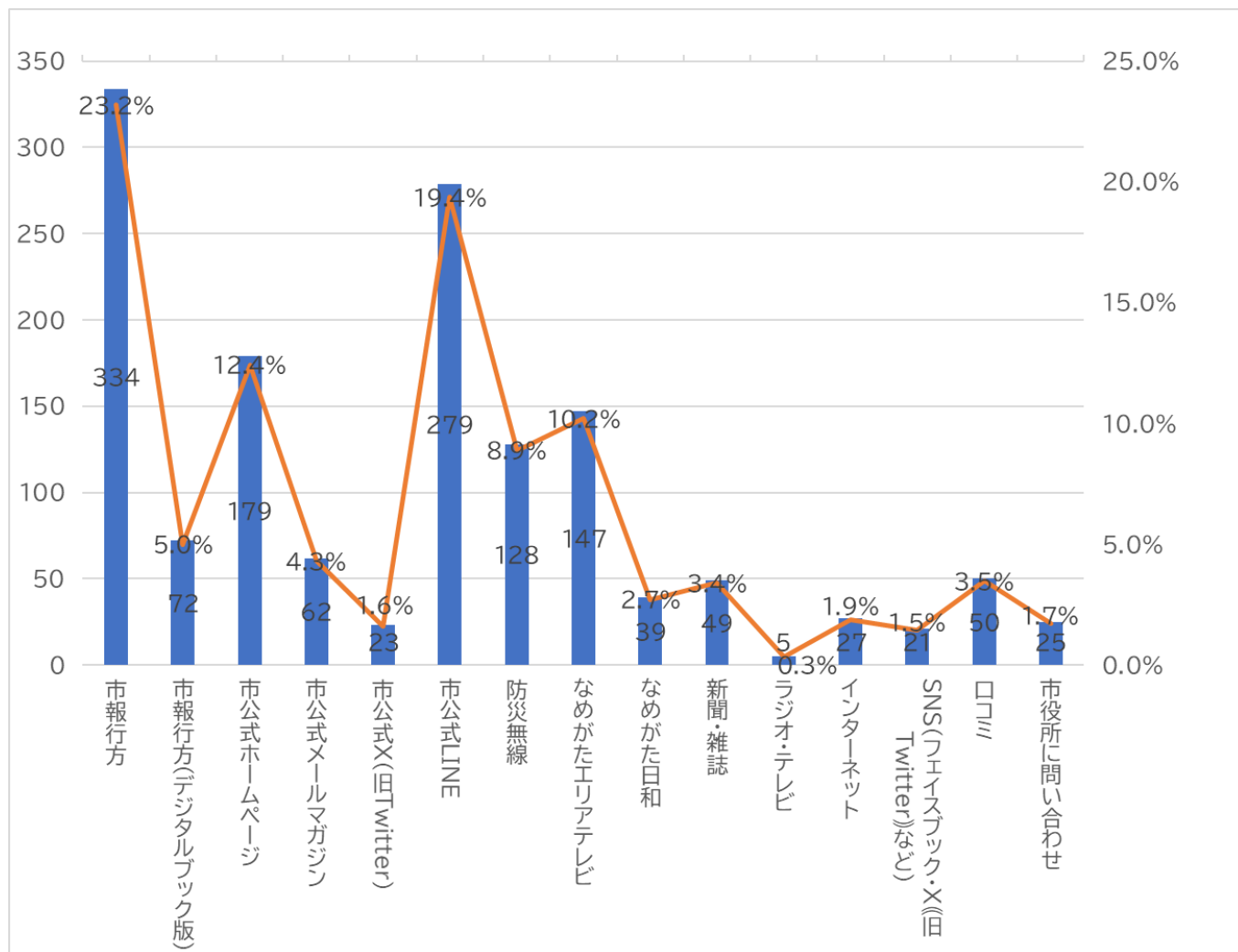
○「十分伝わっている」「伝わっている」と回答した割合は 26.2%であり、約4人に1人は情報が伝わっていると感じている。

○「どちらともいえない」と回答した割合が 42.5%で最も高かった。

○R5年度は「伝わっていない」「全く伝わっていない」と回答した割合が 31.2%となり、R4年度より10.4ポイント増えた。

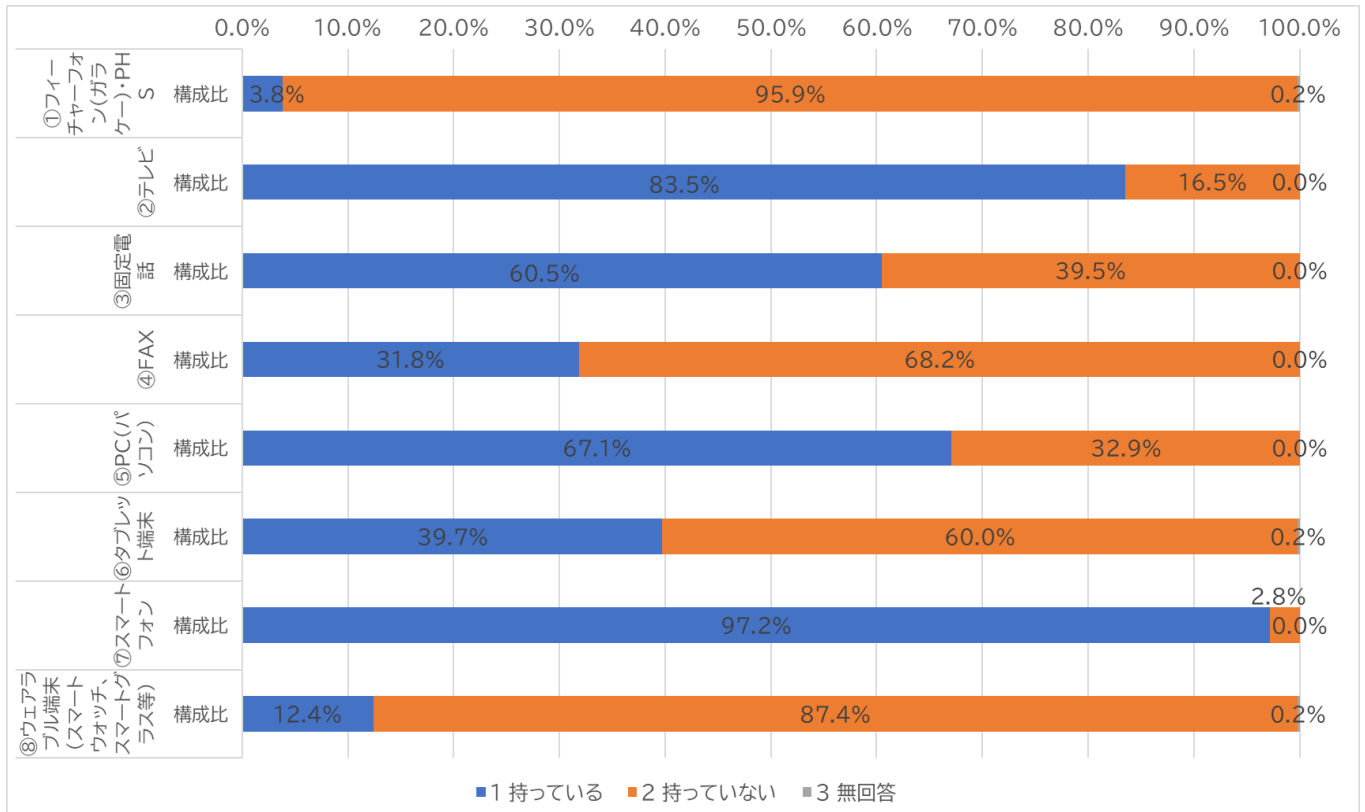
○クロス調査により、市政に「大いに興味がある」と答えた人で市からの情報が「全く伝わっていない」と回答した割合は 4.8%、市政に「まったく興味がない」と答えた人で市からの情報が「全く伝わっていない」と回答した割合は 15%であり、市政への関心度と情報の伝達度には相関関係が見られた。

問29 主にどのような方法で、市政や市・地域の情報を得ていますか。(回答を5つまで)



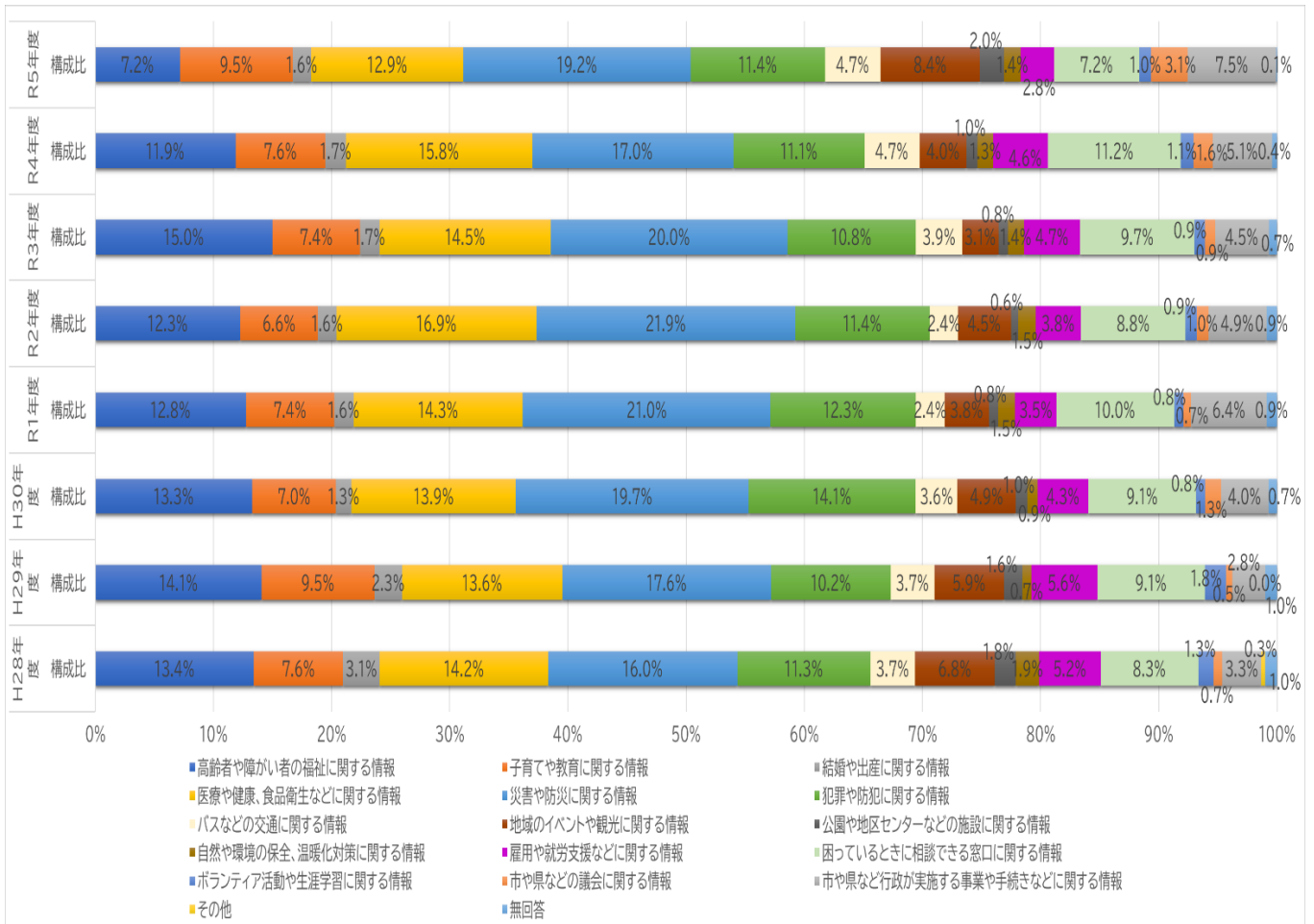
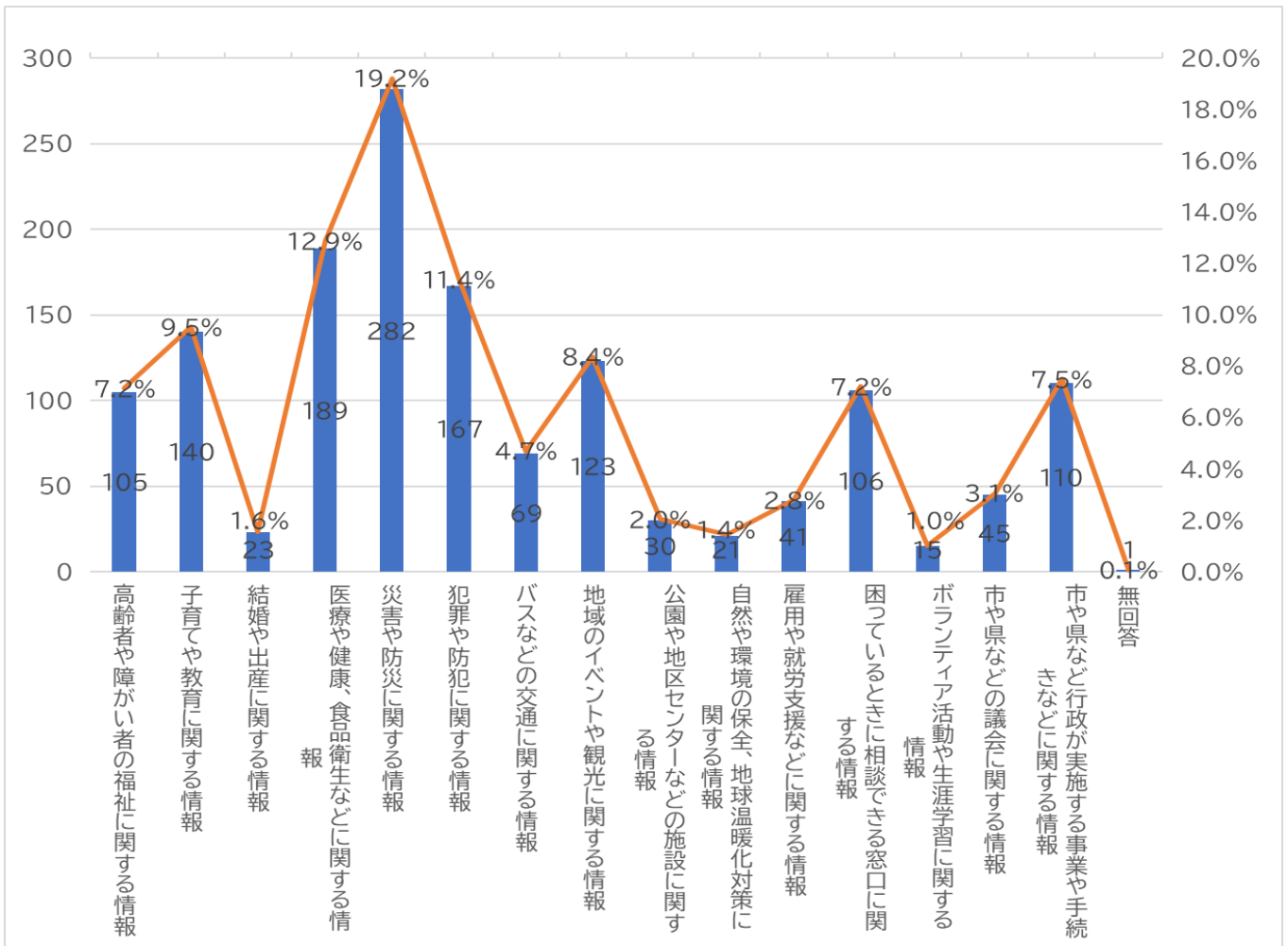
○18～54 歳層までは「市公式 LINE」と回答した割合が「市報行方」と大差なく、R5 年度は R4 年度より6ポイント上昇し、LINE の普及が顕著に見られた。  
 ○市報行方(デジタルブック版)と回答した割合が5%となり、18～24 歳層以外の 60 歳代までは一定数回答が見られた。

問30 情報通信機器等の保有状況についてお伺いします。(項目ごとに回答を1つ)



- ①ガラケー・PHS の保有状況について、持っていないと回答した割合が 95.9%となった。40～44 歳層で保有状況が 7.4%と最多だった。
- ②テレビの保有状況について、持っていると回答した割合が25～44 歳層が70%台であり、60 歳代は 90%を超え、70 代以降は 100%であった。
- ③固定電話の保有状況について、保有率は年代が上がるにつれ割合が高くなる傾向が見られた。30～34 歳層では 21.4%、40～44 歳層で 46.3%と半数近くとなり、75 歳以上では 87.5%であった。
- ④FAX の保有状況について、持っていると回答した割合が 70～74 歳層の 83.3%で最多、30～34 歳層の 11.9%で最小であった。
- ⑤PC の保有状況について、持っていると回答した割合が 18～24 歳層で 100%と最多、30～34 歳層の 50%で最小であった。50 歳以降では保有率 6 割を超える結果となった。
- ⑥タブレットの保有状況について、持っていると回答した割合が 40～44 歳層で 53.7%と最多、75 歳以上層は0%であった。
- ⑦スマートフォンの保有状況について、持っていないと回答した人が0人の年齢層が複数見られるほど、保有率の高さが伺える結果となった。
- ⑧ウェアラブル端末の保有状況について、総計では保有率は 12.4%であった。25～29 歳層で持っていると回答した割合が 21.1%で最多、75 歳以上は0%であった。

問31 日常生活の上で重要だと思う情報は何ですか。(回答を3つまで)

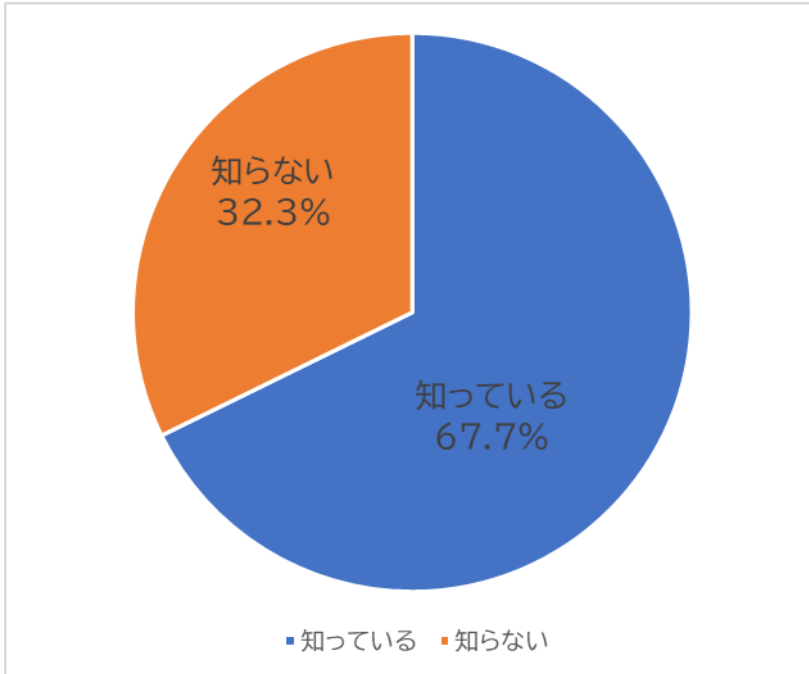


- すべての層で、回答割合が最も高かったのは「災害や防災に関する情報」であった。
- 次いで回答割合が高かった項目は 30～44 歳層で「子育てや教育に関する情報」、45 歳以降は「医療や健康、食品衛生などに関する情報」であり、およそ 50 歳以下の子育て世代は教育関係、50 歳以上は医療・健康関係の情報が重要であることが明確に表れた結果となった。
- 59歳以下の層では「地域のイベントや観光に関する情報」を回答した割合が一定数あり、25～29 歳層では 2 番目に高い回答割合であった。
- 55 歳以上の層では「高齢者や障がい者の福祉に関する情報」を回答した割合が高くなった。
- 「パート・アルバイト」は「子育てや教育に関する情報」を回答した割合が最も高かった。

## 【特集調査】

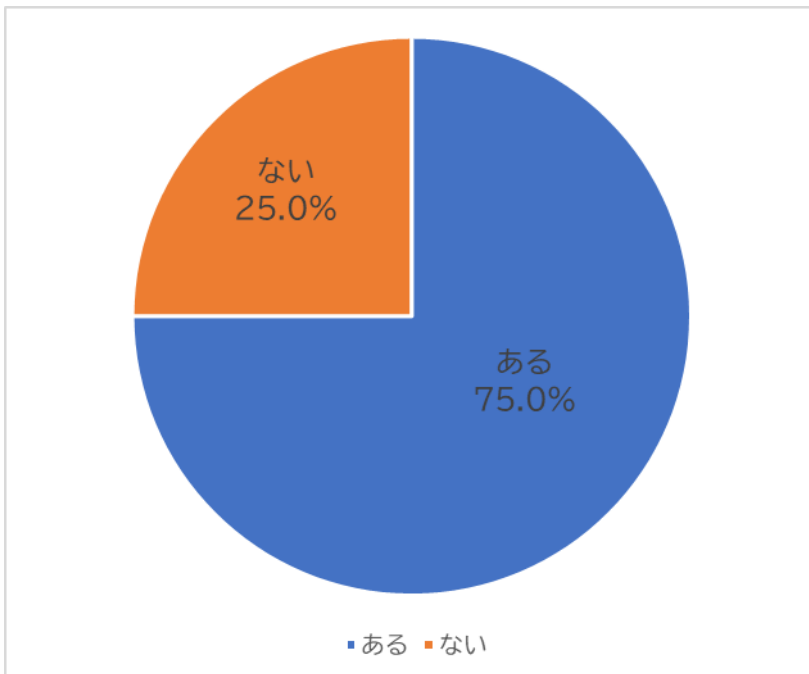
### 1.防災について

問32 避難情報(高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保)が発令された時にどのように行動すべきか知っていますか。(回答を1つ)



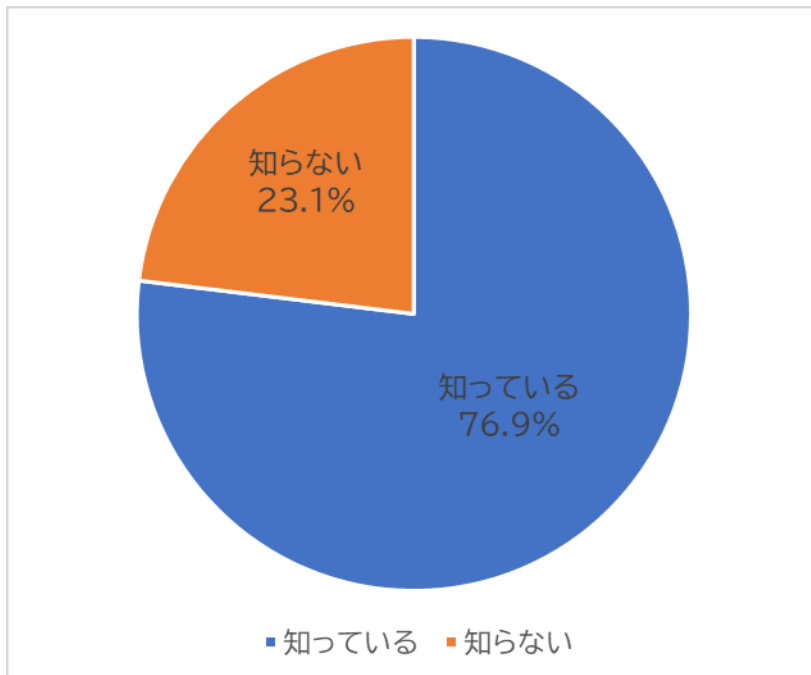
- 約70%が避難情報発令時の行動を知っていると回答した。
- 知らないと回答した割合が平均以下だったのが25～29歳層(63.2%)、45～49歳層(65%)、55～59歳層(57.4%)、75歳以上(50%)であった。
- 職業別に見ると、知っていると回答した割合が最も高かったのは家事従事者(80%)で、低かったのは無職(53.3%)であった。

問33 行方市の防災ハザードマップを見たことはありますか。(回答を1つ)



- 4人に3人は防災ハザードマップを見たことがある結果となった。
- 見たことのある割合が最も高かったのが60～64歳層の85.5%、低かったのが45～49歳層の61.7%であった。
- 30代及び50歳以降は見たことがある回答が70%以上であった。
- 見たことがあると回答した学生は36.4%で、職業別では唯一見たことがないとの回答が上回った。

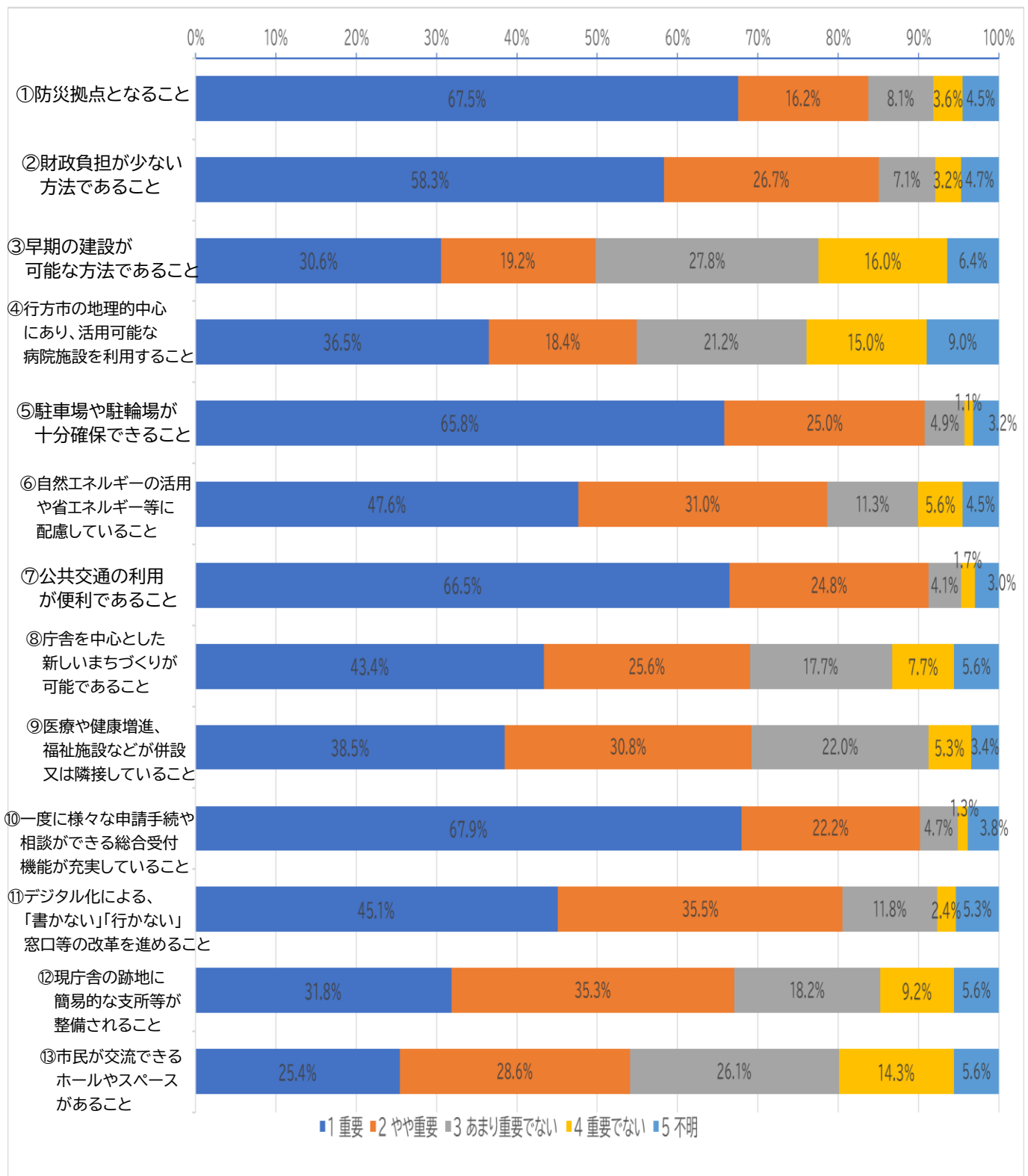
問34 台風等の自然災害の発生のおそれが高まった際に開設される「自主避難所」の場所を知っていますか。(回答を1つ)



○4人に3人以上は「自主避難所」の場所を知っていると回答した。  
○18～29歳層で6割強、30、40歳層で約75%、50歳以降は約80%の人が知っていると回答し、年齢層が上がるに連れて認知度が上がった。  
○学生は54.5%が知らないと回答し、知らないが知っているを上回った。

## 2. 庁舎建設について

問35 庁舎建設事業では、これまでに策定した基本方針・基本計画にもとづき、基本設計に向けて取り組んでいるところですが、庁舎を建設するにあたり、どのような事が重要と思いますか。次の項目ごとにご自身の考えに近い「評価」を選んでください。(項目ごとに回答を1つ)



庁舎建設を行うにあたり、

**【「重要」の割合が高かった上位3項目】**（「重要」+「やや重要」）

- ・公共交通の利用が便利であること(91.3%)
- ・駐車場や駐輪場が十分確保できること(90.8%)
- ・一度に様々な申請手続きや相談ができる総合受付機能が充実していること(90.1%)

**【「重要でない」の割合が高かった上位3項目】**（「あまり重要でない」「重要でない」）

- ・早期の建設が可能な方法であること(43.8%)
- ・市民が交流できるホールやスペースがあること(40.4%)
- ・市の地理的中心にあり、活用可能な病院施設を利用すること(36.2%)

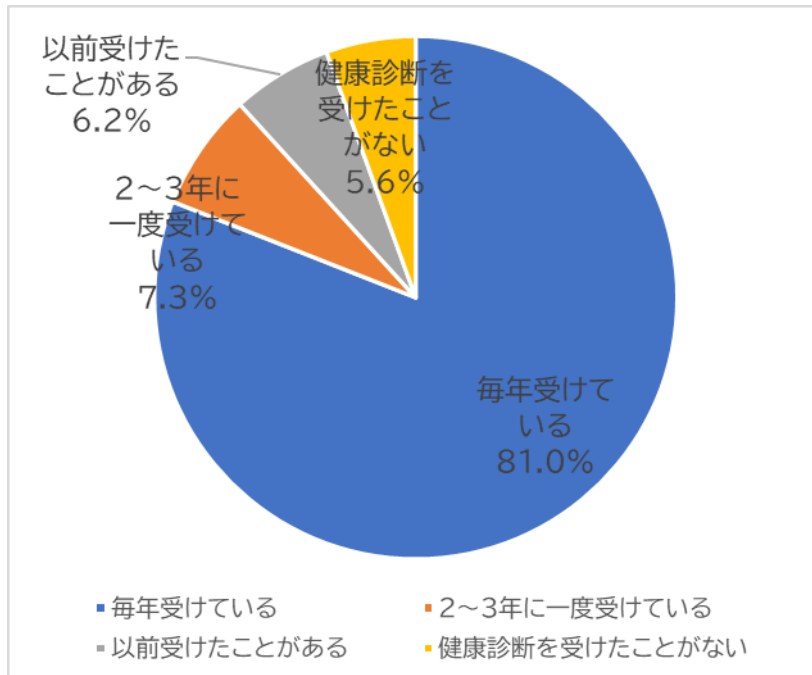
- ①「防災拠点となること」について、30歳代で「あまり重要でない」「重要でない」との回答が20%だったが、それ以外ではほとんどの層で80%が「重要」「やや重要」の回答した。
- ②「財政負担が少ない方法であること」について、18～24歳層ではわからないとの回答が30%いたが、ほぼすべての層で「重要」「やや重要」が70～90%となった。
- ③「早期の建設が可能な方法であること」について、25～29歳層で73.6%が「重要」「やや重要」と回答し年齢層別では最多であった。職業別にみると、自営業(農家含む)は63.6%が「あまり重要でない」「重要でない」と回答した。
- ④「市の地理的中心にあり、活用可能な病院施設を利用すること」について、総計では54.9%が「重要」「やや重要」と回答となった。「重要」「やや重要」と「あまり重要でない」「重要でない」の回答割合が同じとなった年齢層も複数みられた。
- ⑤「駐車場や駐輪場が十分確保できること」について、学生はわからないとの回答が30%程度見られたが、それ以外の職業別では90%を超えて「重要」「やや重要」と回答する傾向にあった。
- ⑥「自然エネルギーの活用や省エネルギー等に配慮していること」について、50歳以降では80%以上が「重要」「やや重要」と回答する傾向にあった。
- ⑦「公共交通の利用が便利であること」について、91.3%が「重要」「やや重要」と回答した。「あまり重要でない」「重要でない」と回答した割合が本設問中で最も低かった。
- ⑧「庁舎を中心とした新しいまちづくりが可能であること」について、総計では69%が「重要」「やや重要」と回答した。55歳以降が50%台になる傾向だった。
- ⑨「医療や健康増進、福祉施設などが併設又は隣接していること」について、総計では69.3%が「重要」「やや重要」と回答した。70歳代以降は「重要」「やや重要」と「あまり重要でない」「重要でない」の回答が半数であった。
- ⑩「一度に様々な申請手続きや相談ができる総合受付機能が充実していること」について、18～29歳層以外の層では80%以上が「重要」「やや重要」と回答した。学生が「不明」と回答した割合が高く、申請手続きの経験が少ないことが要因と思われる。
- ⑪「デジタル化による、「書かない」「行かない」窓口等の改革を進めること」について、55～69歳層に20%程度が「あまり重要でない」「重要でない」と回答した。
- ⑫「現庁舎の跡地に簡易的な支所等が整備されること」について、総計では67.1%が「重要」「やや重要」と回答した。45～49歳層は「重要」「やや重要」と回答したのが58.4%とやや低かった。
- ⑬「市民が交流できるホールやスペースがあること」について、30～34歳層は50%が「あまり重要でない」「重要でない」と回答した。

問 36 その他、望む機能などがありましたら、具体的にご記入ください。(自由記述)

⇒省略

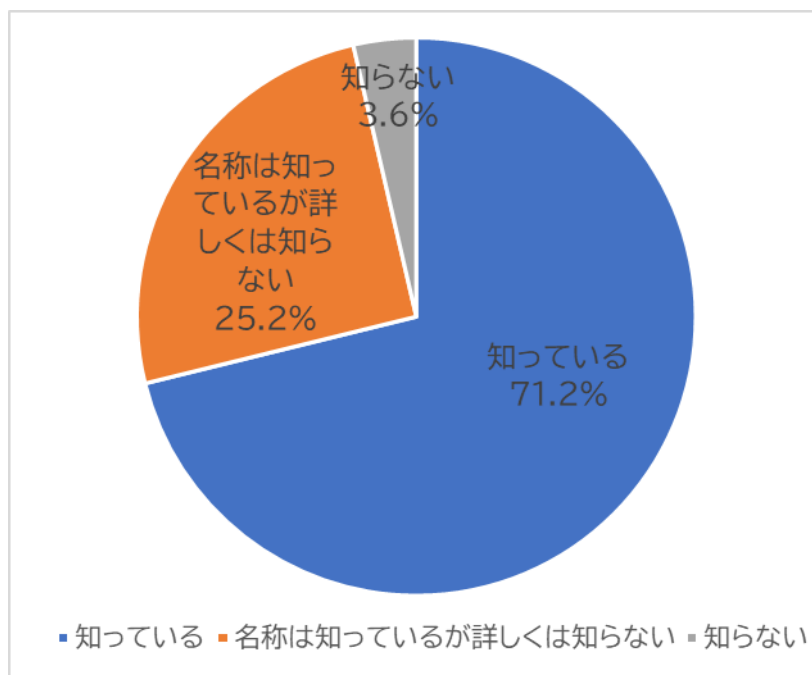
### 特集3 医療・健康について

問 37 健康診断を受けていますか。(回答を1つ)



○81%が毎年健康診断を受けていると回答した。  
○18～24 歳層及び 30～34 歳の若年層では、「毎年受けている」と回答した割合がそれぞれ 44.4%、66.7%と他の年齢層より低かった。  
○自営業(農家含む)で健康診断を受けたことがないと回答した割合が19.7%だった。

問 38 「発達障害」ということばを知っていますか。(回答を1つ)



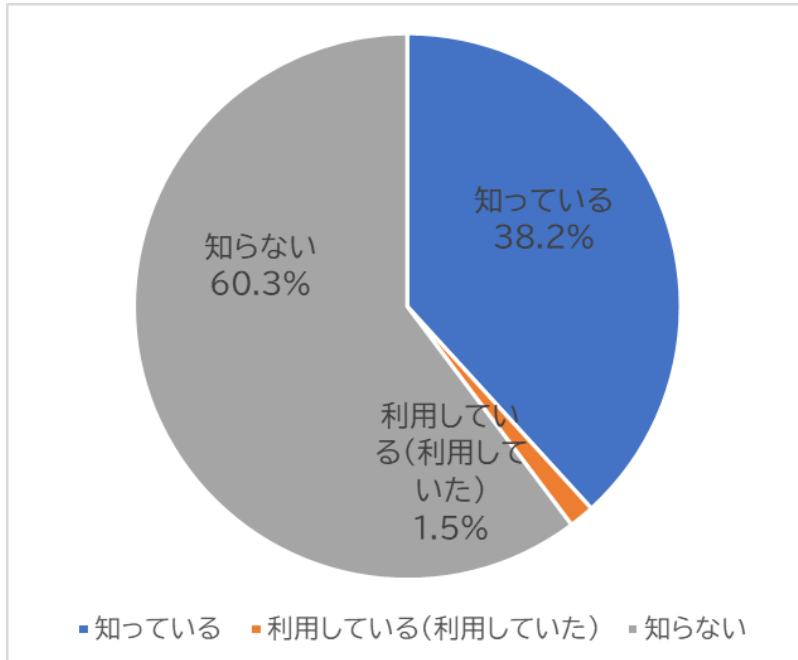
○「発達障害」ということばを「知っている」と回答した割合は 71%で、「名称は知っているが詳しくは知らない」と回答した割合が 25%、「知らない」と回答した割合は4%だった。  
○「知っている」と回答した割合が最も高かったのが 45～49 歳層の 85%で、「知らない」と回答した割合が最も高かったのが 18～24 歳層の 16.7%だった。

【問 38 で『1 知っている』を選んだ方のみ回答】

問 39 「発達障害」とはどんなイメージですか。(自由記述)

⇒省略

問40 行方市が「ことばの相談」「発達相談」「親支援」「運動療育」を行っていることを知っていますか。(回答を1つ)



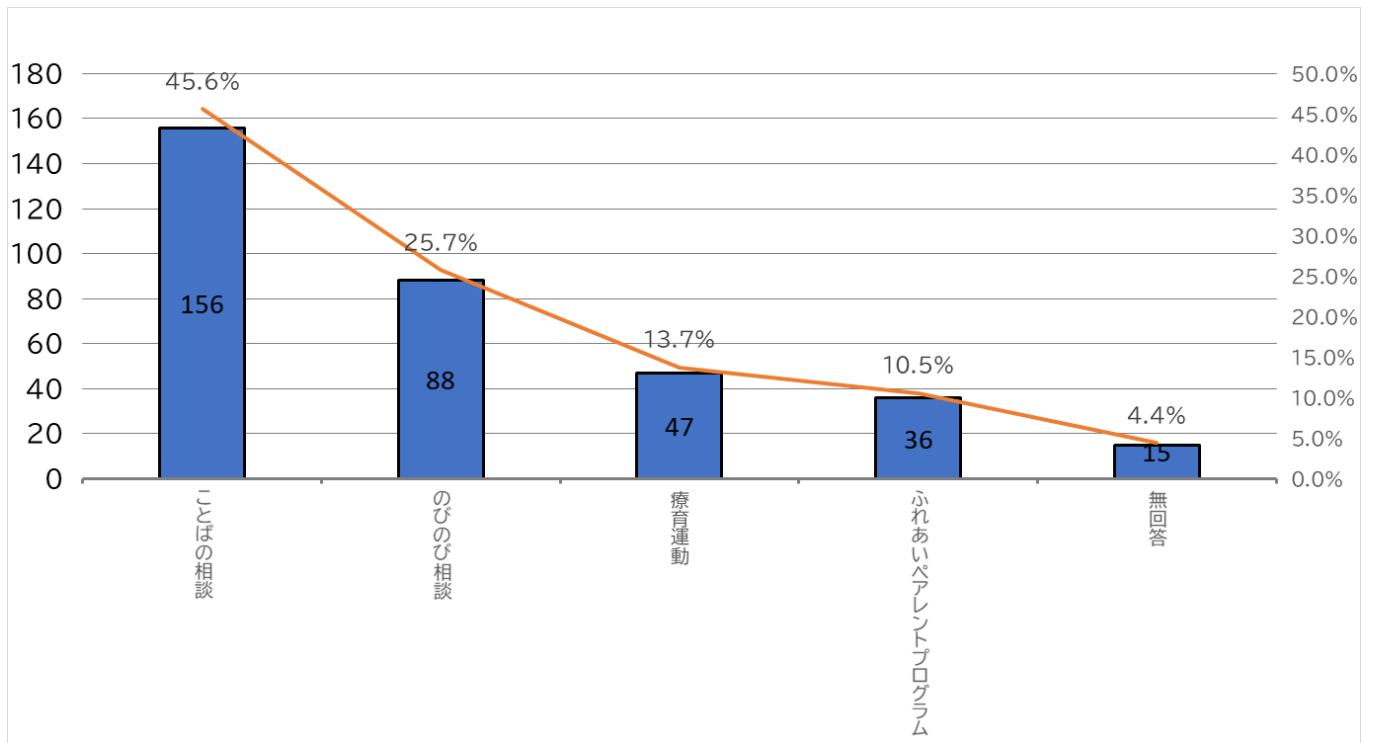
○「ことばの相談」「発達相談」「親支援」「運動支援」を「知っている」と回答した割合は 38.2%で、「知らない」と回答した割合が 60.3%であった。

○「利用したことがある(利用している)」と回答したのは1.5%だった。

○「知っている」と回答した学生はいなかった。

【問40で『1 知っている・2 利用している(利用していた)』を選んだ方のみ回答】

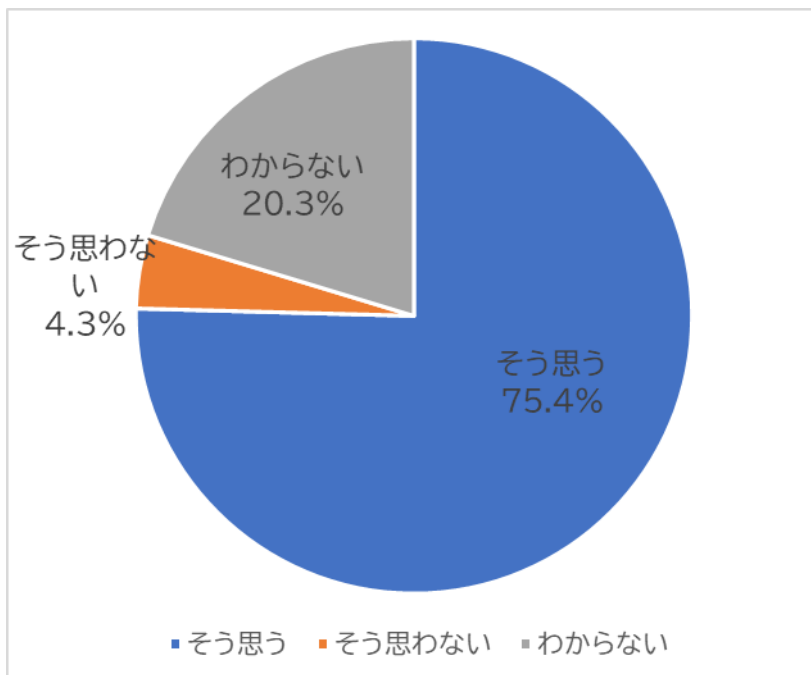
問41 どのような相談支援が行われているか知っていますか。(複数回答可)



○相談支援の内容の認知度について、「ことばの相談」が 45.6%で最も高く、「ふれあいペアレントプログラム」が 10.5%と最も低かった。

○「ことばの相談」を知っている年齢層は30代が中心であった。

問42 療育支援は早い介入が必要だと思いますか。(回答を1つ)

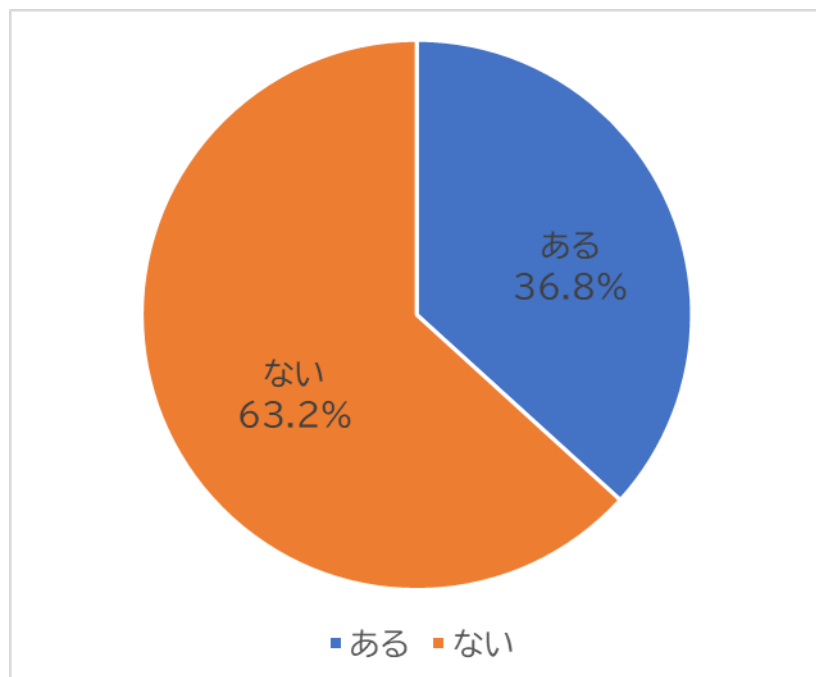


○療育支援は早い介入が必要と思うと回答した割合は 75.4%であった。

○「そう思わない」と回答した割合は 4.3%で、40～44 歳層で 11.1%と最も高い割合であった。

○「わからない」と回答したのは 20.3%であり、どの年齢層でも同じ割合の傾向であった。

問43 行方市が行っている療育支援のほかに必要な支援があると思いますか。(回答を1つ)



○「ある」と回答した割合は 36.8%  
で、35～39 歳層の 51.7%が最  
多であった。  
○「ない」と回答した割合は 63.2%  
で、30～34 歳層の78.6%が最  
多であった。

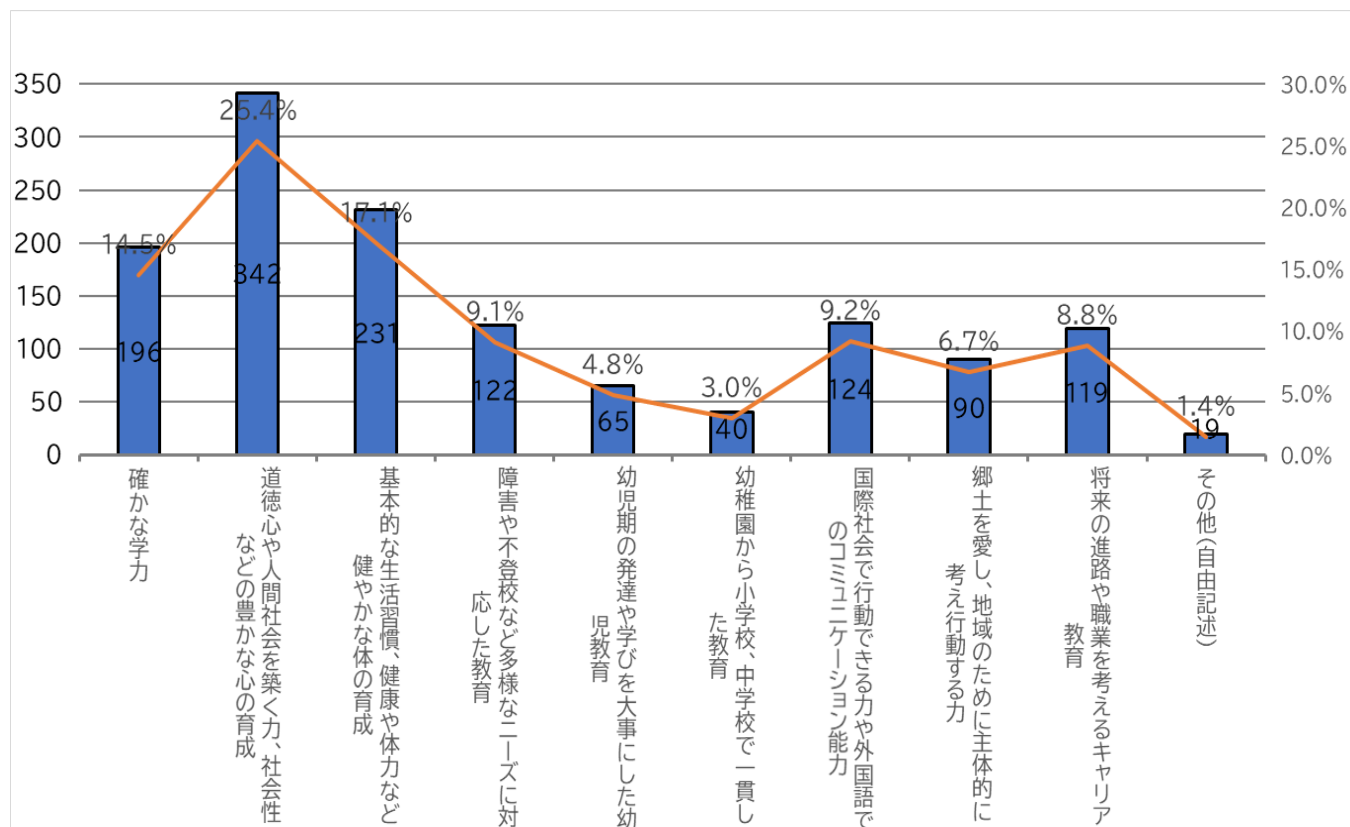
【問43で『1 ある』を選んだ方のみ回答】

問44 具体的にはどのような支援が必要だと感じていますか。(自由記述)

⇒省略

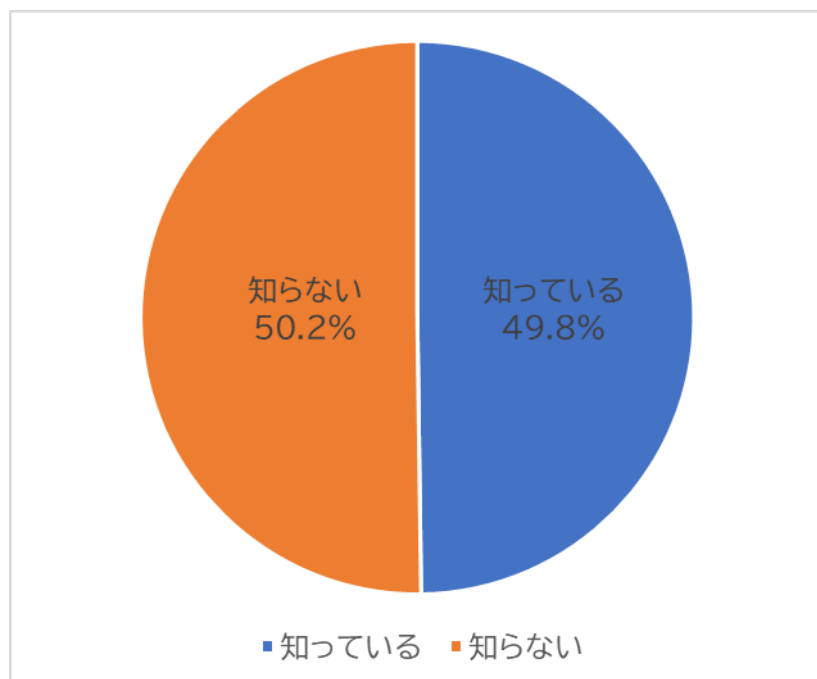
## 特集4 幼稚園、小中学校に期待する教育について 部活動の地域移行について

問45 現在の社会情勢を受け、幼稚園、小中学校に期待する教育や指導に力をいれてほしいことは何ですか。(回答を3つまで)



- 期待する教育や指導に力をいれてほしいことについて、ほとんどの年齢層で「道徳心や人間社会を築く力、社会性などの豊かな心の育成」の回答した割合が最も高かった。
- 職業別にみると、「将来の進路や職業を考えるキャリア教育」と回答した割合は学生が21.4%、会社員・公務員は8.3%であり、学生と社会人で開きが見られた。
- 75歳以上は「基本的な生活習慣、健康や体力などの健やかな体の育成」と回答した割合が27.3%と最も高く、学生が回答した割合が3.6%であった。

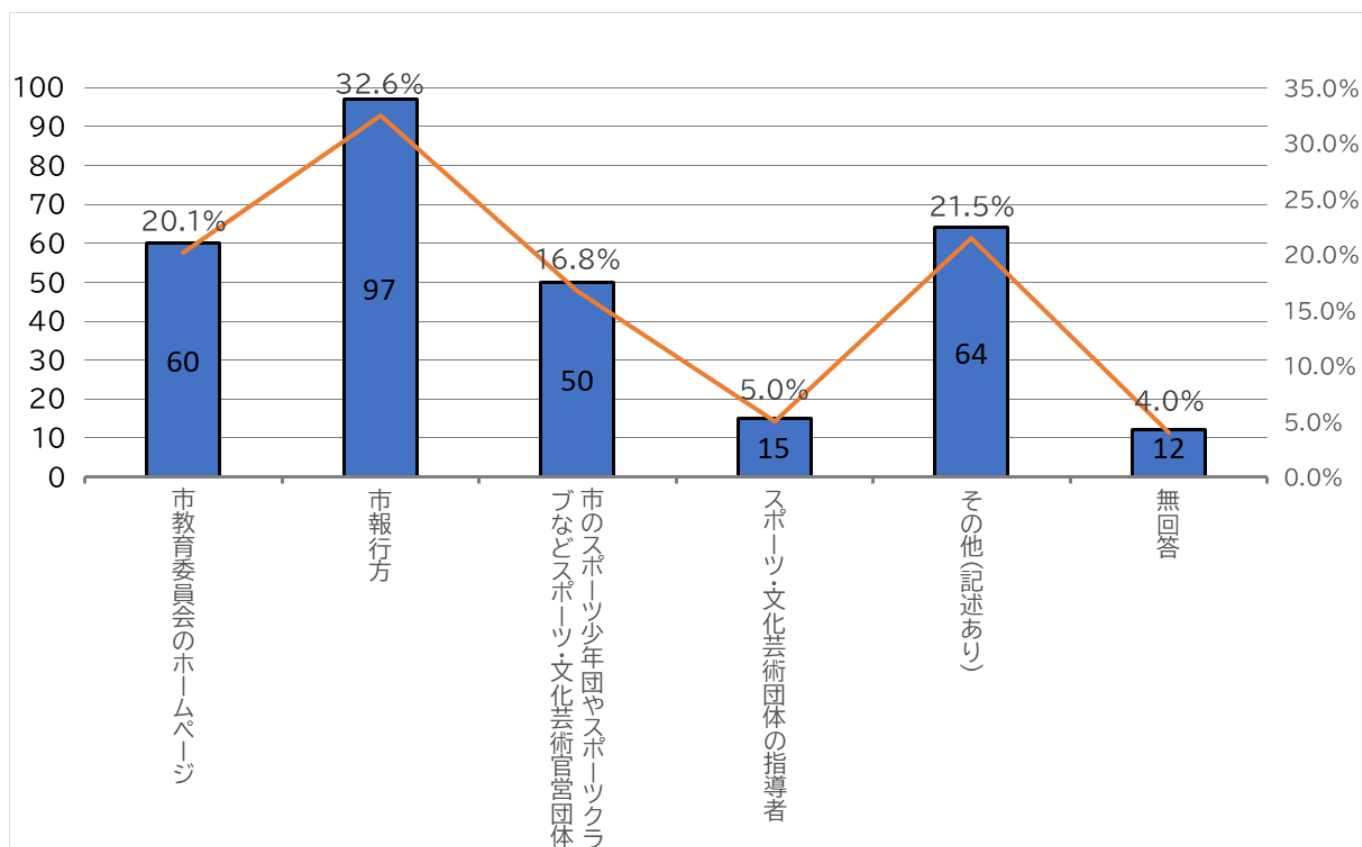
問46 現在、行方市立中学校では部活動の地域移行を進めています。このことについて知っていますか。(回答を1つ)



○部活動の地域移行について、「知っている」「知らない」の回答割合がほとんど同じだった。  
 ○18～29歳の層では「知っている」と回答した割合が40%弱で他の年齢層より低めだった。  
 ○「知っている」と回答した割合が高かったのは30～34歳層の61.9%であった。

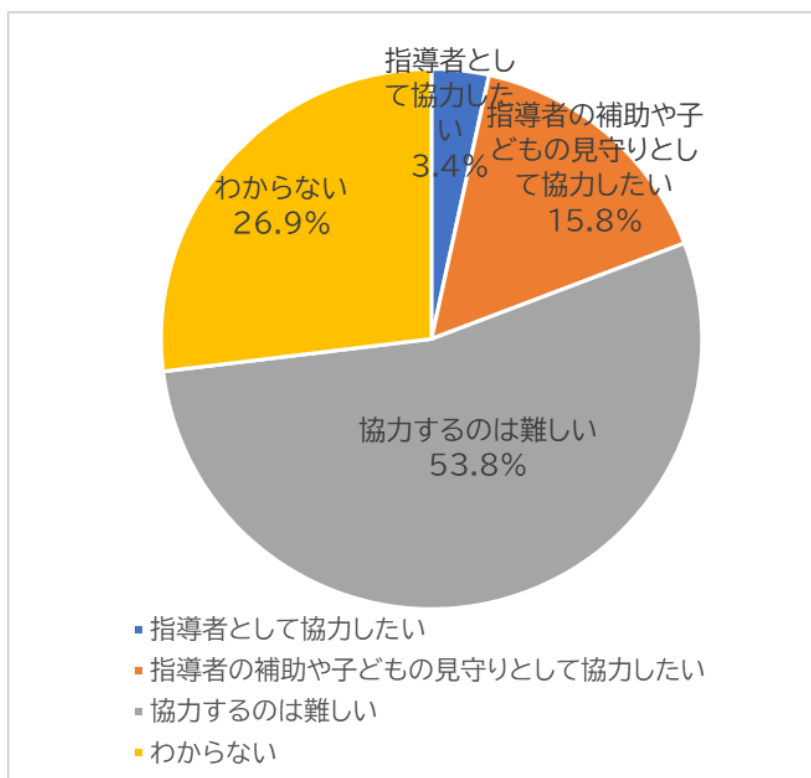
【問46で『1 知っている』を選んだ方のみ回答】

問47 どのような方法で知りましたか。(複数回答可)



○部活動の地域移行を知った方法について、市報行方が32.6%と最多であった。  
 ○その他の自由記述により学校からの配布物で知ったとの回答が多く見られた。

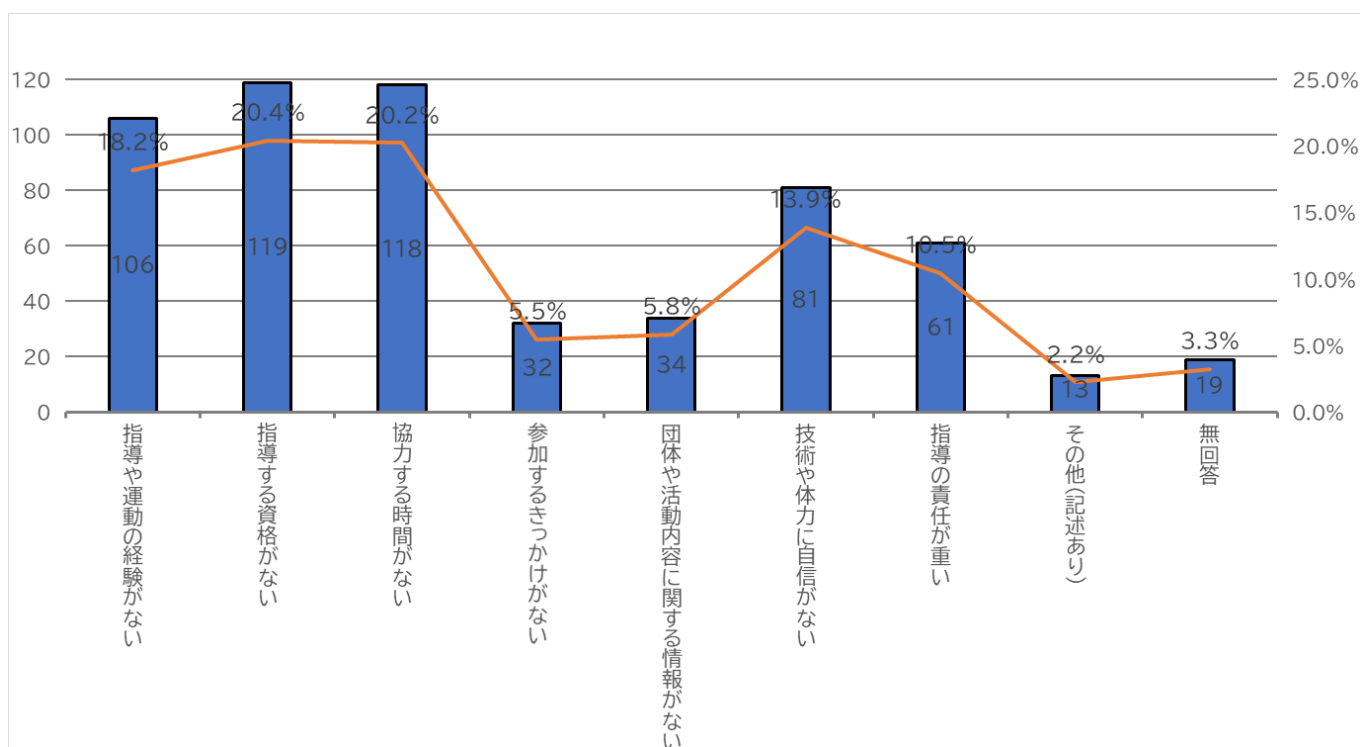
問 48 部活動の地域移行にご協力いただけますか。(回答を1つ)



○53.8%が協力するのは難しいと回答した。  
 ○50、60 歳代は「わからない」の回答した割合が 30、40%台で他の層よりやや高めとなった。  
 ○「指導者の補助や子どもの見守りとして協力したい」と回答した割合が最も高かったのは、40～44 歳層で 27.8%であった。

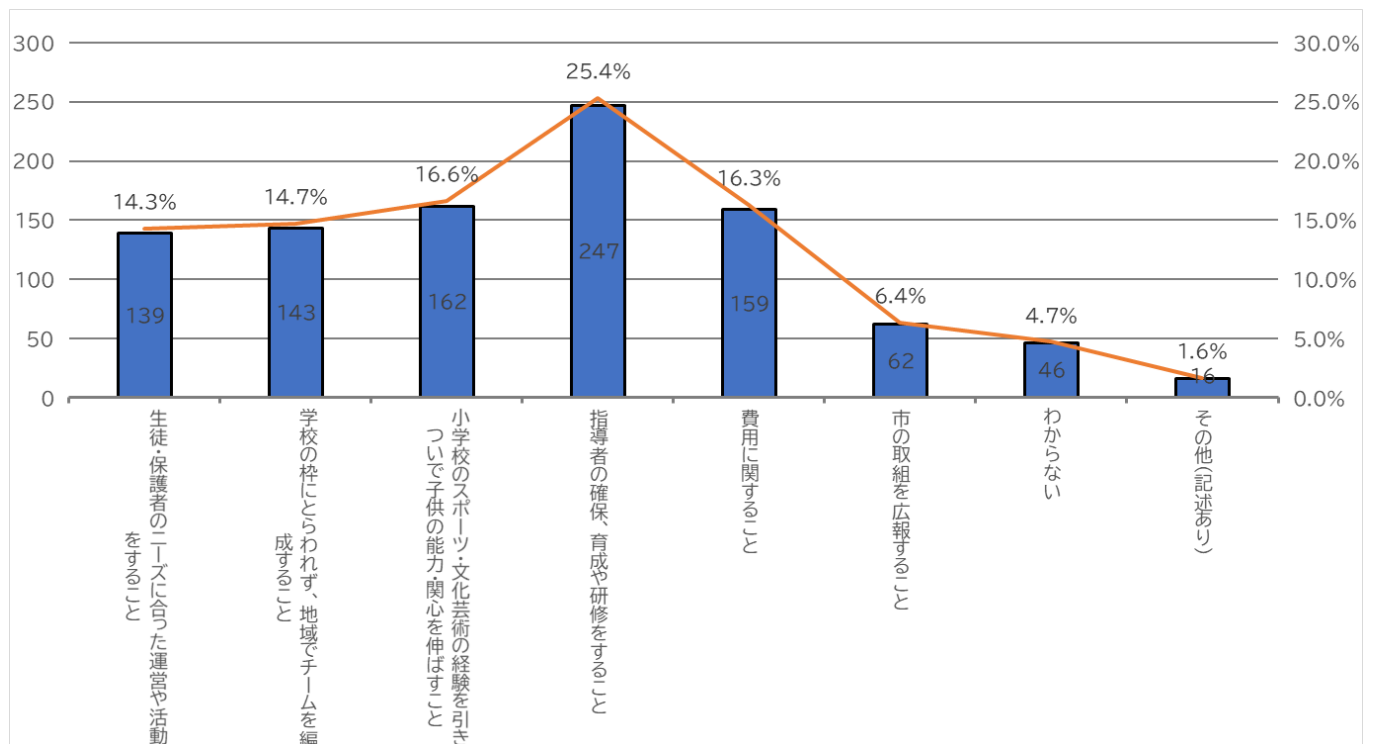
【問 48 で『3 協力するのは難しい』を選んだ方のみ回答】

問 49 その理由は何ですか。(複数回答可)



○部活動の地域移行に協力するのは難しいと答えた理由について、「指導や運動の経験がない」「指導する資格がない」「協力する時間がない」が約 20%程度となった。  
 ○「会社員・公務員」「パート・アルバイト」は「協力する時間がない」が「自営業(農家含む)」より8ポイントほど高かった。

問 50 部活動の地域移行を進める上で大切だと思うことは何ですか。(複数回答可)

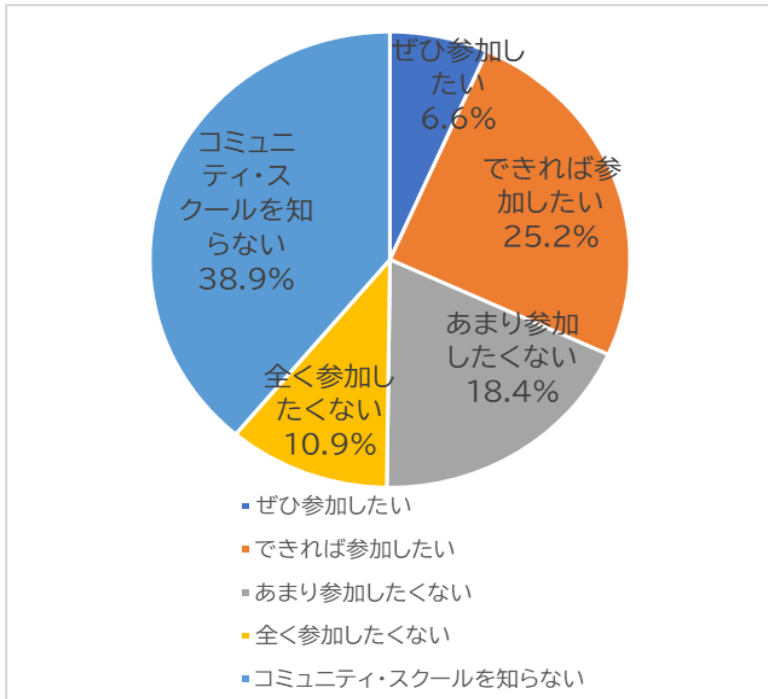


○ほとんどの年齢層で「指導者の確保、育成や研修をする」と回答した割合が最も高かった。

○学生は「小学校のスポーツ・文化芸術の経験を引継いで子供の能力・関心を伸ばす」の回答した割合が最も高かった。

## 特集5 地域と学校・社会教育施設の連携について

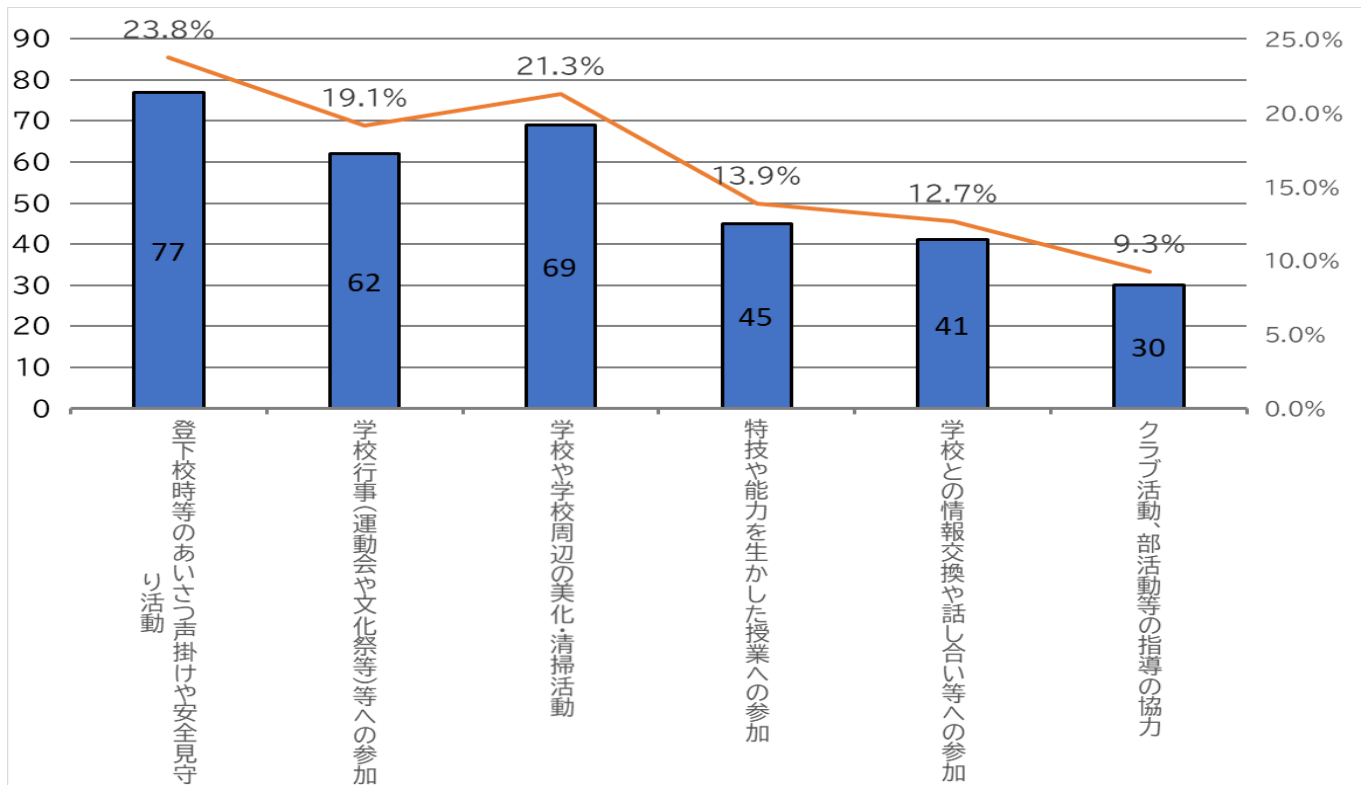
問51 行方市では「コミュニティ・スクール」を通して「地域とともにある学校づくり」を推進しています。学校と地域の方が共に活動する機会がある場合、参加したいと思いますか。(回答を1つ)



○「コミュニティ・スクールを知らない」と回答した割合がどの年齢層でも最も高かった。  
 ○「ぜひ参加したい」「できれば参加したい」と回答した割合は31.8%、「あまり参加したくない」「全く参加したくない」と回答した割合が29.3%で若干参加の意向が上回った。  
 ○「知らない」を除くと、30歳代以降は「できれば参加したい」と回答した割合が高かった。

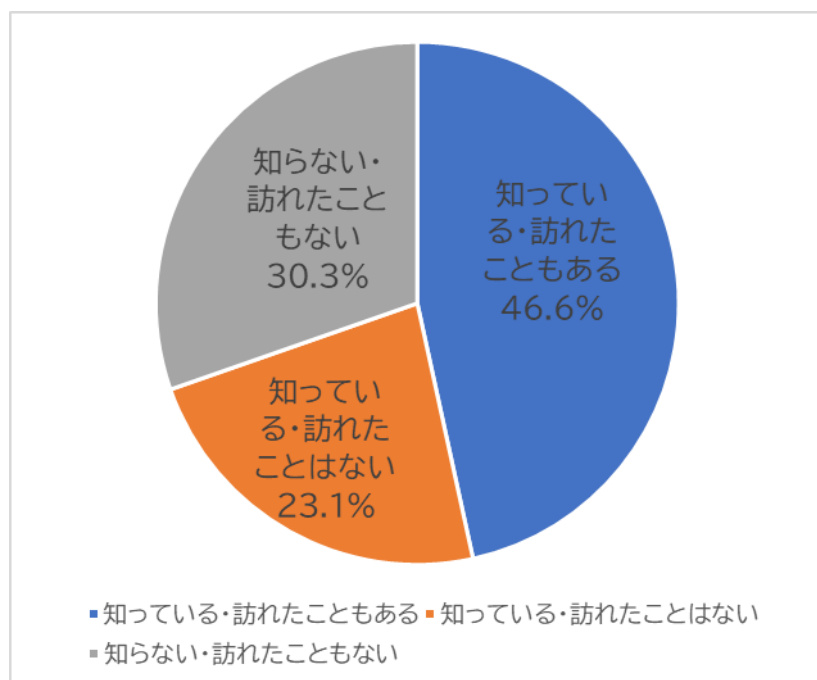
【問51で『1 ぜひ参加したい・2 できれば参加したい』を選んだ方のみ回答】

問52 どのような活動に協力できますか。(複数回答可)



○学校への協力できる活動について、60歳代以降は「登下校時等のあいさつ声掛けや安全見守り活動」と回答した割合が高かった。

問 53 市内の指定文化財について知っていますか。また、訪れたことがありますか。(回答を1つ)

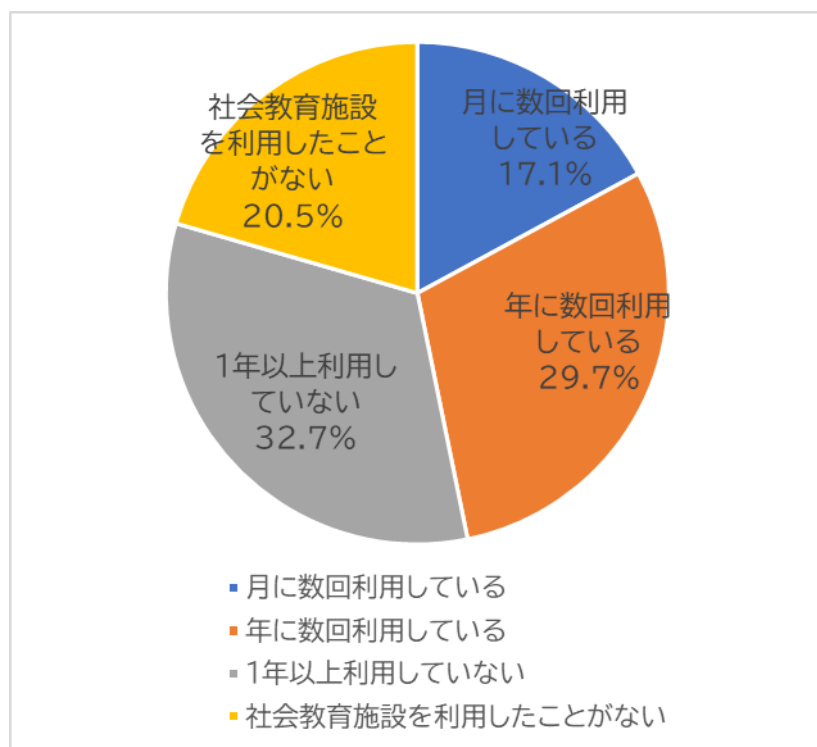


○市内文化財について、どの年齢層でも「知らない・訪れたこともない」と回答した割合が 20、30%程度だった。

○「自営業(農家含む)」は 45.5%が「知らない・訪れたこともない」と回答した割合となり、職業別では最多であった。

○「知っている・訪れたこともある」と回答した割合で最も高かったのは 65～69 歳層で 62.5%だった。

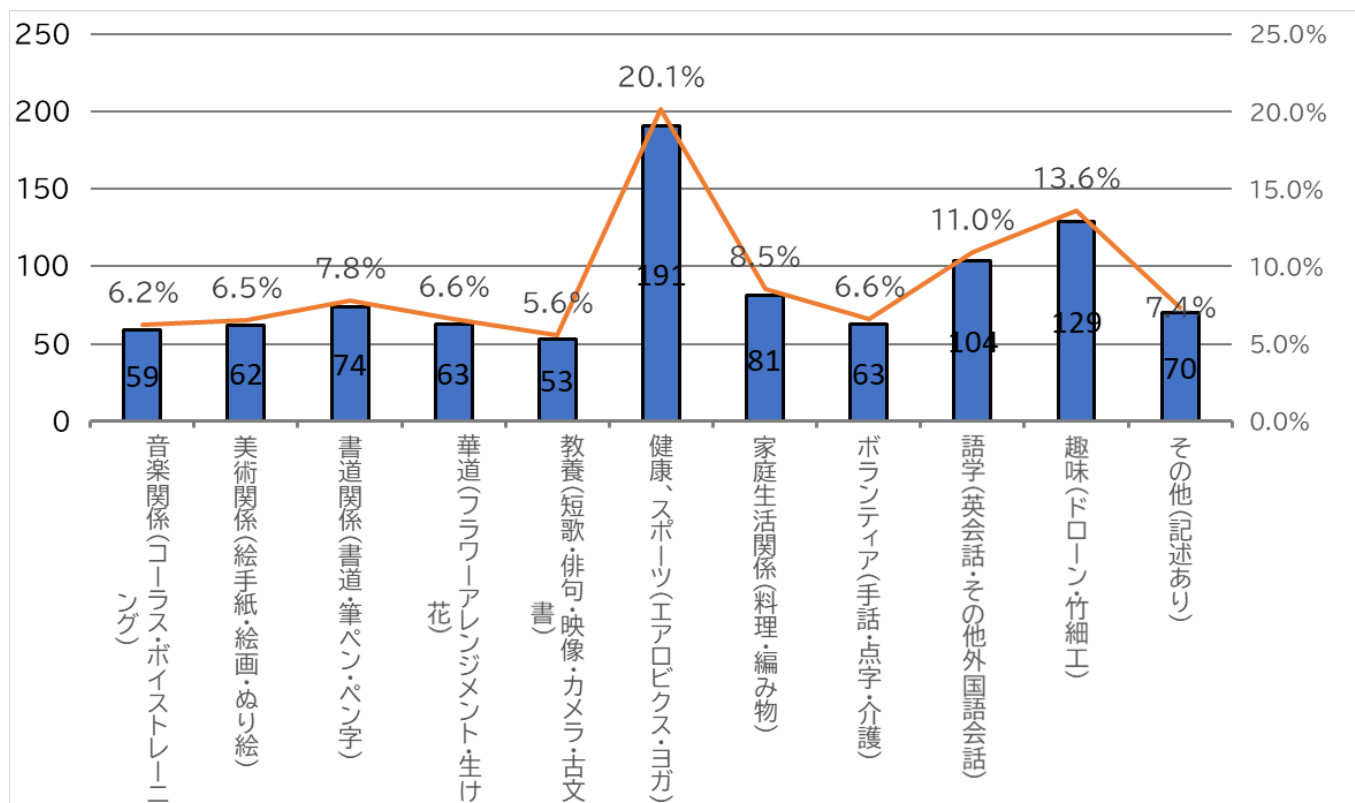
問 54 市内の社会教育施設(公民館・図書館・文化会館・体育館・グラウンド等)を利用したことはありますか。(回答を1つ)



○年齢層別に見たとき、社会教育施設の利用を「月に数回している」と回答した割合が最も高かったのは 70～74 歳層で 50%だった。

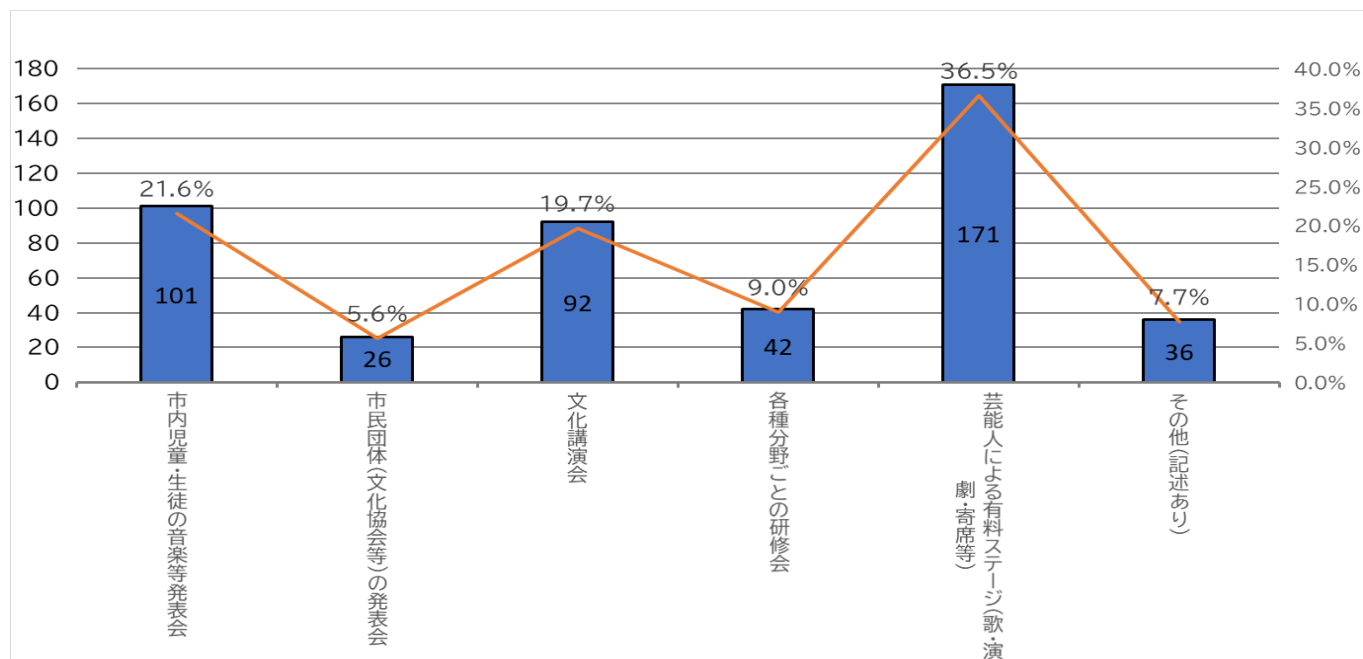
○18～29 歳層では「1年以上利用していない」と回答した割合が最も高かった。

問 55 公民館での講座について、どのような講座の開催を希望しますか。(回答を3つまで)



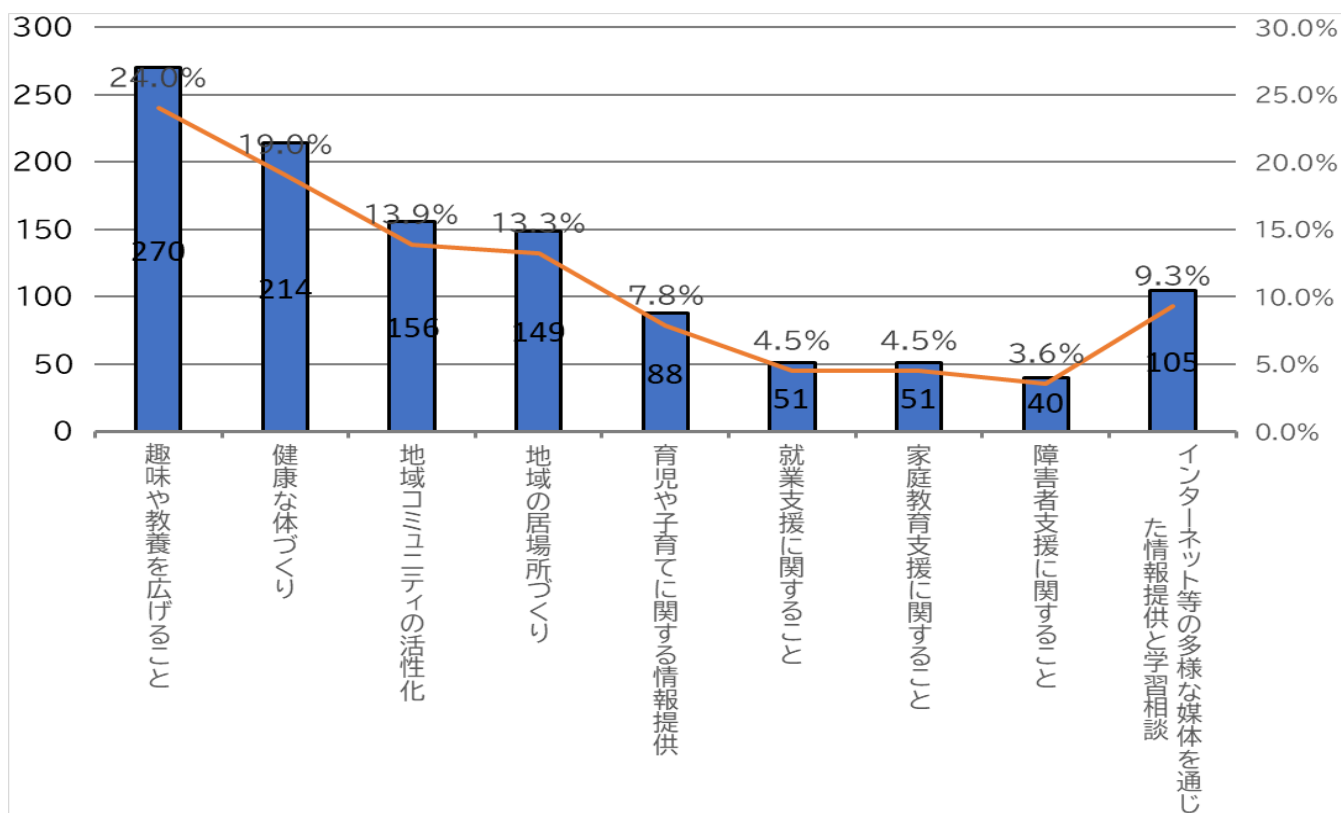
- ほとんどの年齢層で「健康、スポーツ(エアロビクス、ヨガ)」と回答した割合が最も高かった。
- 「趣味(ドローン、竹細工)」と回答した割合が2番目に高く、18～24 歳層では回答した割合が 24.2%で最も高かった。

問 56 今後の文化会館事業において、どのような催し物を希望しますか。(回答を1つ)



- 「芸能人による有料ステージ(歌・演劇・寄席等)」と回答した割合が 36.5%と最も多かった。
- その他の記述では、「特に何も希望しない」「やらないでよい」との記述があった。

問 57 生涯学習でどのような取り組みを期待しますか。(回答を3つまで)

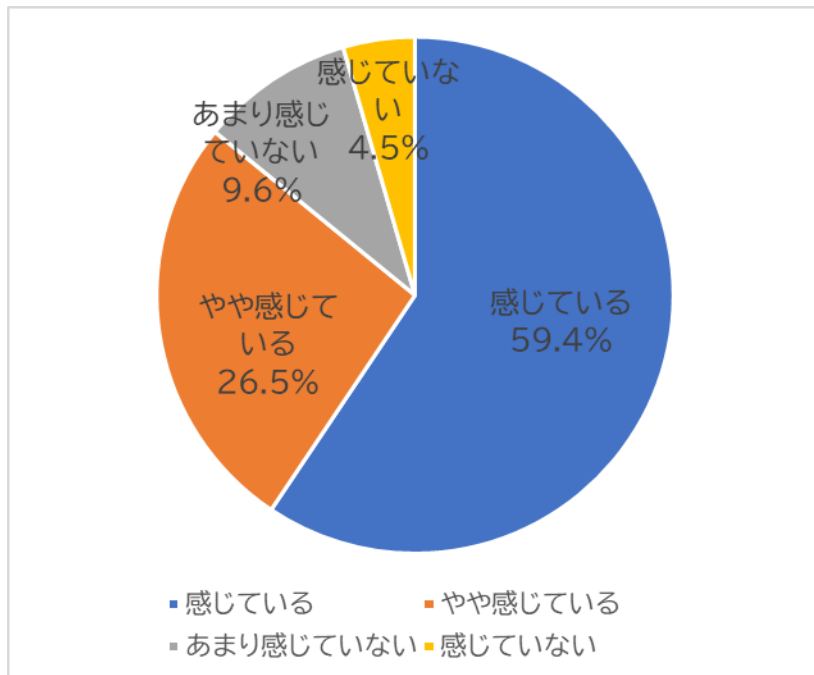


○生涯学習への期待について、すべての年齢層、職業別層において、「趣味や教養を広げること」と回答した割合が最も高かった。

○家事従事者は「地域の居場所づくり」と回答した割合が 19.5%と他の職業よりもやや高めだった。

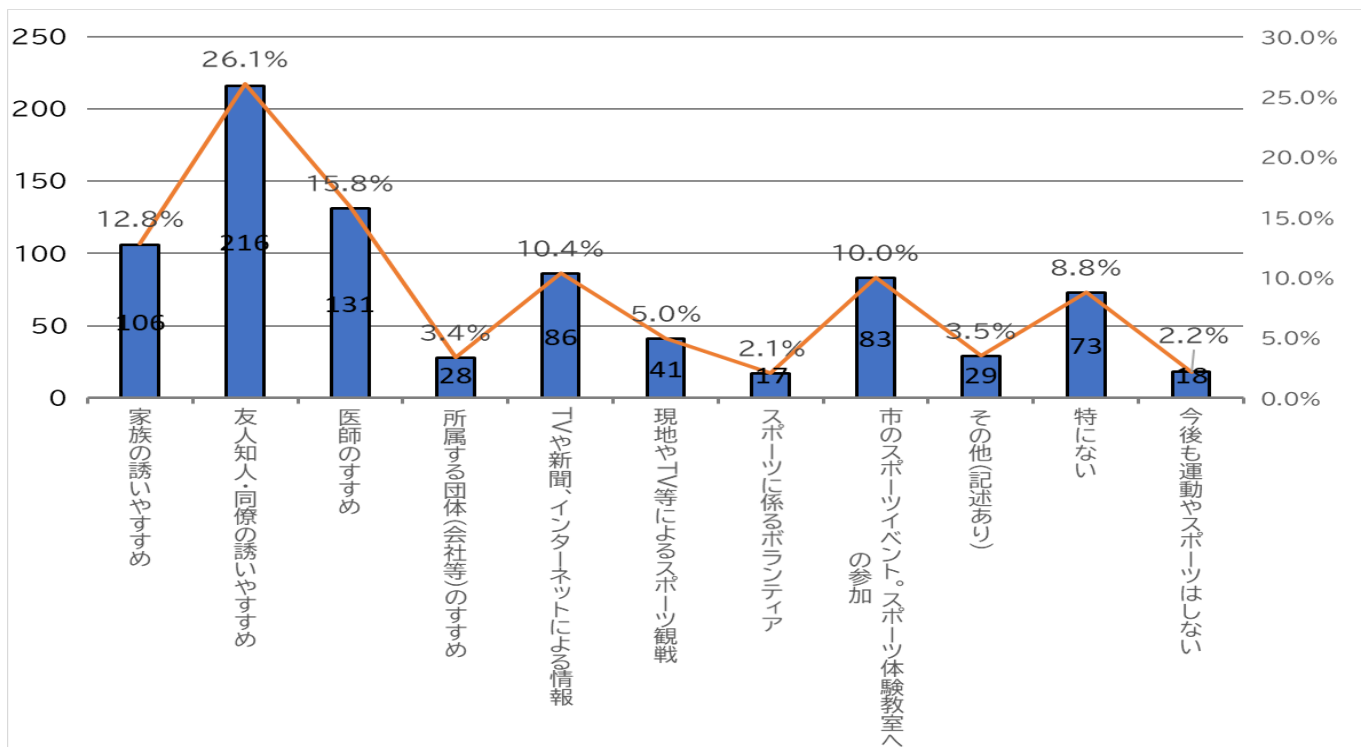
## 特集6 運動・スポーツや健康への意識について

問 58 現在、運動不足だと感じていますか。(回答を1つ)



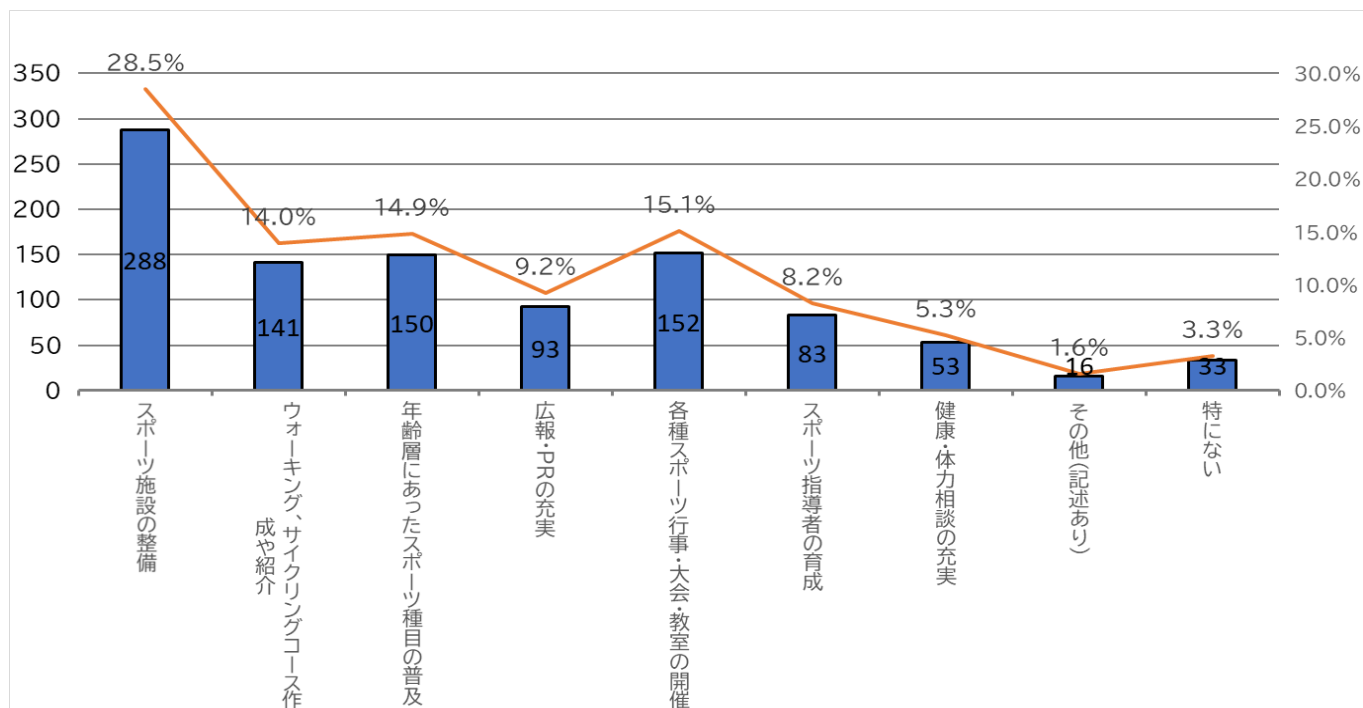
○運動不足だと「感じている」と回答した割合が最も高く約 60%だった。  
 ○運動不足だと「感じている」割合が最も高かったのは 35～39 歳層の 70.7%であった。  
 ○運動不足だと「感じていない」割合は総計で 4.5%となり、45～49 歳層ではいなかった。

問 59 あなたが運動やスポーツを始めるきっかけになる理由として考えられるものをお選びください。(回答を3つまで)



○運動やスポーツをはじめるきっかけとして、18～69 歳層では「友人知人・同僚の誘いやすすめ」が最も高い回答割合であった。70 代以降は「医師のすすめ」が高かった。  
 ○職業別にみると、学生を除くすべての層で「友人知人・同僚の誘いやすすめ」と回答した割合が高かった。学生は「特にない」と回答した割合が高かった。

問 60 行方市内のスポーツが盛んになるためには、何が必要だと思いますか。(回答を3つまで)

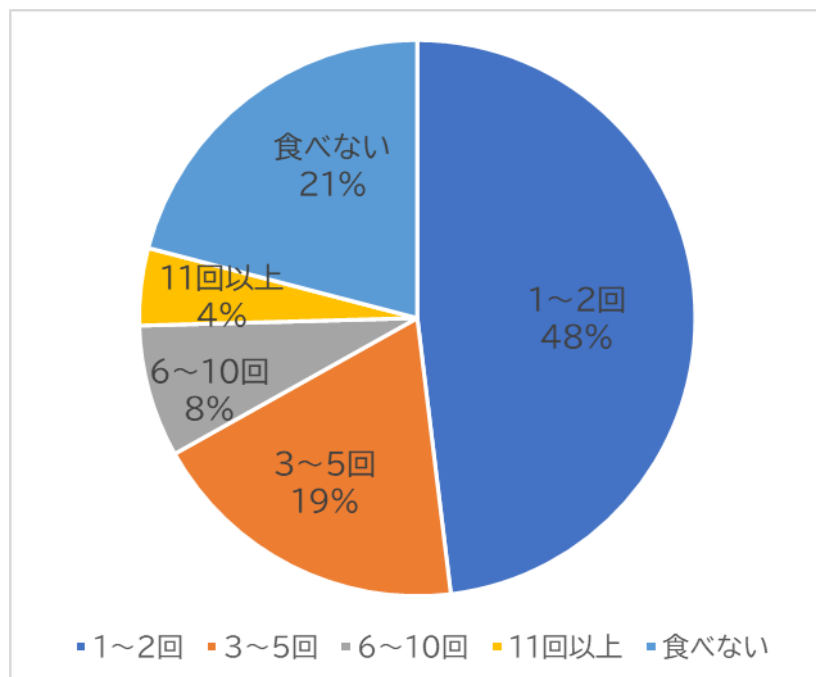


○市内のスポーツが盛んになる方法について、18～69 歳層では「スポーツ施設の整備」と回答した割合が高かった。70 代以降は「年齢層にあったスポーツ種目の普及」の回答した割合が高かった。

○その他の記述では、「運動やスポーツは自らの意思で行うもの」との記述が複数あった。

## 特集7 農畜水産物のブランド化について

問 61 サツマイモを月何回食べますか？(回答を1つ)



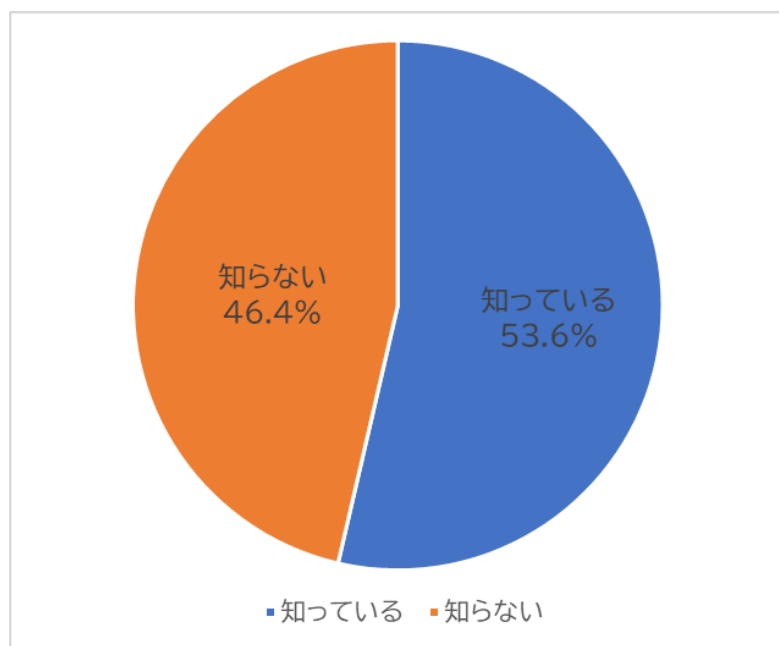
○サツマイモを月に食べる回数は、25～69 歳層では「1～2回」との回答した割合が最も高かった。  
 ○70 歳以上は「3～5回」と回答した割合が最も高かった。  
 ○18～24 歳層は「食べない」と回答した割合が 50%近くなり最も高かった。

【問61で『1.1～2回 ～ 4.11 回以上』を選択した方のみ回答】

問 62 好きなサツマイモの食べ方を教えてください。(自由記述)

回答(抜粋)	計
焼き芋	177
干し芋	77
てんぷら	63
大学芋	49
ふかし芋	32
その他(グラタン、シチュー、さつまいもチップ等)	25
スイートポテト	21
汁物	16
けんぴ	16
素揚げ	9
スイーツ系(パウンドケーキ)	8
甘露煮	7
サラダ	6
芋ご飯	5
煮物	5
ビール、発泡酒	2

問 63 行方市のサツマイモが「行方かんしょ」として国の地理的表示(GI)保護制度(※5)に登録されたことを知っていますか。(回答を1つ)



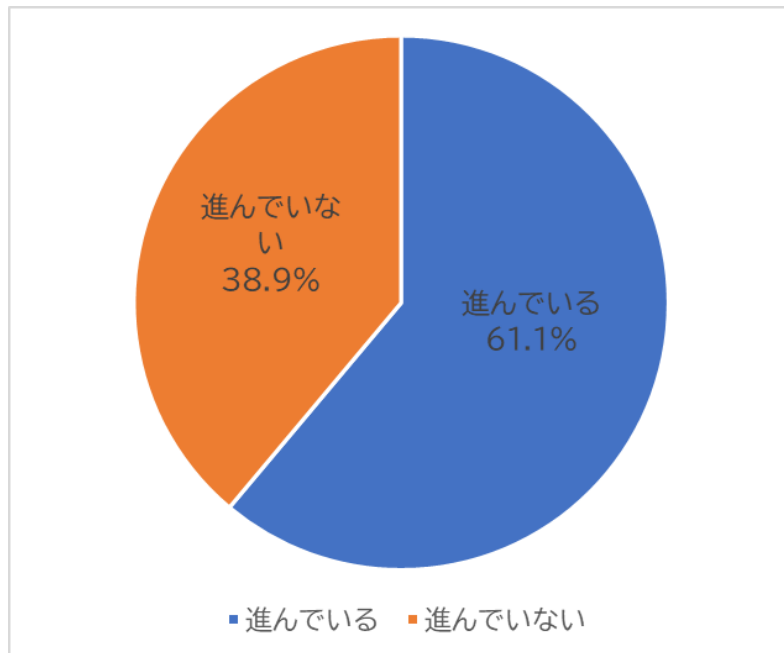
○「行方かんしょ」の GI 保護制度登録の認知について、53.6%が「知っている」と回答し、「知らない」をやや上回った。  
 ○60歳代以降は「知っている」と回答した割合が60%を超えた。  
 ○家事従事者や学生は「知らない」との回答した割合が約80%だった。

問 64 行方市産サツマイモのイメージ(味、生産風景等の印象)をお聞かせください。(自由記述)

【記述回答抜粋】

- ◎甘い : どれも甘い、甘くてホクホク、どれも甘い、糖度が高い、ちょうどいい甘さ 等
- ◎美味しい : 種類により異なる美味しさがある、甘くて美味しい、地味だけど味は世界一 等
- ◎PR 不足 : まだ有名ではない、もっとアピールしてください、ブランド化のイメージがない、他の産地に比べ知名度が低い 等
- ◎その他 : 農林水産大臣賞受賞、砂埃がすごい、行方市の特産品、加工に適したサツマイモ、田舎、普通、体に良い、品質が良い、食べたことない、形が綺麗、種類が豊富、自然食、健康的、機械化されて大規模化が進んでいる、栽培や販売に工夫がこなされている、近年は研修生頼みの一部の人は品質が落ちているイメージ、豊かな行方台地が育んださつまいも、「他と変わらない。特徴がない」、安全、安心、見渡す限りの芋畑、意外と有名でテレビやお店などでみると嬉しくなる、パサパサ、食物繊維豊富、「行方市といえばサツマイモだと思う。よく貰うし、まわりにも芋畑がいっぱい。けれど、アピール下手だと思う。」、「ほくほくだけど甘い。甘さと重量感のバランスが COOD。おやつ時間だけとお昼ご飯を食べていないことを思い出したときには最適な食べ物。」、「サツマイモが好きでは無いのでよく分からないが高価なイメージ」、「銚田の鹿吉、かすみがうらのひのでやに続いてほしい。味は生産者によってばらつきがあるが、全体的には甘く、どの品種もその特性をよく引き出せている。生産風景は、県内でよく見る姿。ただ、昔からよく見ていた作業風景なだけあって、真摯さや実直さを感じる。力強くてほっとしますよ。」、「頑張っているけど、後継者がいなくて、生産が大変そう。」、「普通、可もなく不可もなく、特徴がないのが特徴」、「行方市といえばサツマイモ」、「一年間を通していつでも美味しく食べられる。他の地域の方から、行方のサツマイモは美味しいとよく褒められる」 等

問 65 行方市はサツマイモのブランディングに取り組んでいます。ブランド化は進んでいると思いますか。(回答は1つ)



○サツマイモのブランド化への進行度合いについて、「進んでいる」と回答した割合は 61.1%だった。  
 ○「進んでいる」と回答した割合が最も高かった年齢層は 65～69 歳層で 83.3%であった。  
 ○「進んでいない」と回答した割合が最も高かった年齢層は 35～39 歳層で 48.3%であった。

問 66 今後、サツマイモのブランド化に向けてどのような取り組みが必要だと思いますか。(自由記述)

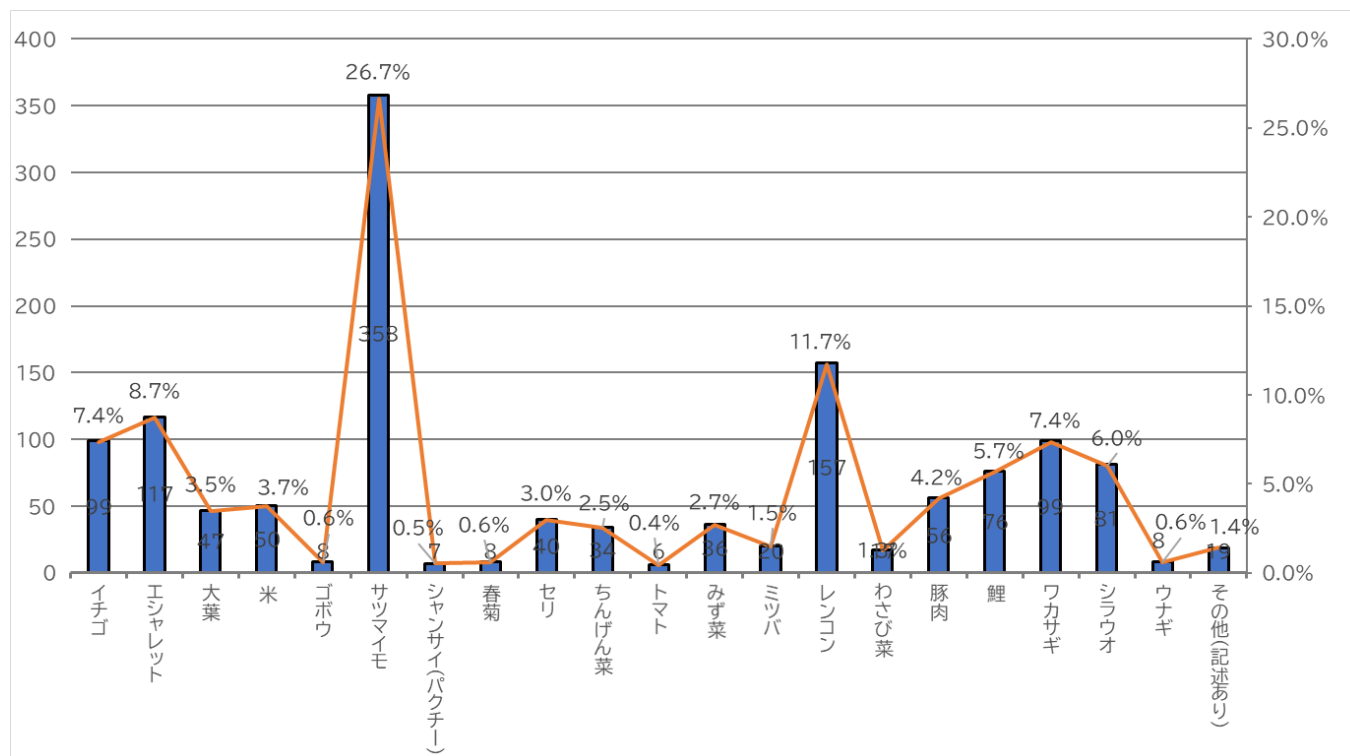
【記述回答抜粋】

- ◎PR、広報、メディア利用 : 県内外へのPR、都市部の人達へのPR、全国へのPR、海外へのPR、TVへの露出、CM、インターネット媒体利用、著名人によるPR等
- ◎SNS : Youtube等SNSでのPR、インフルエンサーによるPR、もっとSNSに載せる等
- ◎商品化 : インパクトのある商品、新商品の開発、現代的要素を取り入れた商品開発、スイーツの商品開発、多様な商品をつくる、お土産になるようなお菓子等
- ◎その他 :
  - ・もっといいネーミング、新たな品種づくり、生食以外での資源的利用、キャッチコピー、サツマイモを主軸としたレストランやカフェ、品質向上、アニメを作る、イベント、長期保存性、オシャレ感、生産から加工販売までを総合的に扱う6次産業化、芋掘り体験し美味しく食べるまでを目的とした行方市に来てもらえるような事業、もうすでにブランド化されている気がする、観光客を呼び地元の子どもたちとサツマイモを通してマッチングする、行政や関係団体だけでなく市民を巻き込むこと、特色やストーリーを伝える、各戸配布、生活用品、贈答品、市民で食べる「さつまいもの日」を設定
  - ・Web販路やSNSなど、インターネットを活用した全国の若年層への展開
  - ・観光客だけでなく、地元の人にも気軽に立ち寄れるさつまいものお店を出す
  - ・他県では殆ど知られていない。サツマイモといえば行方市が浮かぶ人は、都内ではほとんどいない。行方市独自のスイーツか何か、加工品の知名度を上げて、それは行方産であることはあとからついてくるような戦略。SNSを利用する。或いは生産量全国一位のような絶対的な数字によるPR。
  - ・同じサツマイモでも、貯蔵期間や方法により味が違って来るので、そのあたりの宣伝や説明があると、時期によっての味の違いが、消費者にもより理解してもらえると感じます。
  - ・二番煎じ。全て他でやってる。モノマネもいいけど、どこにも負けない「新しい」商品、

新しい販売形態、あっとおどろくプロモーションが必要。

- ・まずは、行方市民の家庭の食卓に上がる事。おいも博に参加しているので、もっとテレビで取り上げられる事や、身近に手に取りやすい、お菓子やお惣菜など、スーパーや道の駅で買いやすいようにする。
- ・市で美味しく焼ける焼き芋製造方法の紹介と焼き機を補助金付きで提供、薪ストーブでじっくり焼くと蜜がでてとても美味しく評判が良いので、貝塚ポテトみたいに行方市内で数カ所販売すれば客がよべる
- ・さつまいもブームの今、都心でのイベントに積極的に参加し、たくさんの人に行方市産のさつまいもの美味しさを知ってもらいたい。
- ・若者向けにおしゃれな見た目のさつまいもスイーツがあると楽しい。ショッピングモールやイベントで試食会などあるといい。「むらさき×オレンジ」のさつまいもカラーはデザインを考える上でも原色によれば活気がある(子供がみやすい)雰囲気になるし、淡くすれば暖かく可愛く、おしゃれな雰囲気にもなるので食べ物以外のグッズの展開もいい。
- ・サツマイモ自体のブランド化は進んでいると思います。サツマイモを使用した料理等を民間の方が発信していくことも必要かと思います。
- ・売上、名前を知ってもらいたいことが先走りしているように思えます。農家さんの日頃の取り組みをピアーールしてみても？農家さんと一緒に取り組む姿勢が見えません。
- ・だれもが簡単に、気軽にたべられる製品をつくりだす(お弁当用の少量甘煮パウチ、あたためるだけで焼き芋ができる、など)若い人は忙しいので、生のイモを買ってきてそこから調理するのは、手間がかかるから、都会の人は敬遠しそうなのでもうできあがっているものなら、時短で働く母にもありがたい。
- ・品質の良し悪しをきちんと分けて、良いものを外に向けて発信する。現状は玉石混交で、あまり品質の良くない芋を贈ってしまっている。これでは人気は高まらないと思う。
- ・行方ファーマーズとかとプロジェクトを組んで芋苗植えと大学芋の詰め放題、芋掘りと焼き芋食べ放題とか毎年の行事にしてはとバスツアーでも企画できれば、焼き芋ブームで行方市を訪れる人も増えるのでは？一般の人にさつまいもを使ったスイーツを公募してグランプリを決めて、ナメガタ〇〇として商品化するとか、サツマイモとナメガタが結びつくことをなるべく低予算で出来れば良いと思います。
- ・さつまいもを全面に押し出したオシャレ(これ大事)で映えるお店商品が無い。なんちゃってじゃだめ。お金払ってでも有名パティシエとかシェフとかにレシピお願いしてもいいくらい。お芋だけ推してもイメージなんかつかない。
- ・あえて鹿児島あたりで直売してみる。東西南北で、農作物は同じ種類でも気候により食味が全く異なるので、最初は受け入れてもらえないかもしれない。しかし、10何食べれば1人くらい好みの人がいて、その人から誰かに伝わり知名度が上がってゆくかもしれない。
- ・子供に食べてもらえるような取り組み。自然のもので、赤ちゃんでも安心してたくさん食べられます、みたいな形で。子育て世代に受けるような取り組み。
- ・市内の人間の誰もが食べられる値段設定にして欲しい、ブランド化するのは良いけど高すぎて、お土産に買って持って来られても嬉しく無いと言われた。 等

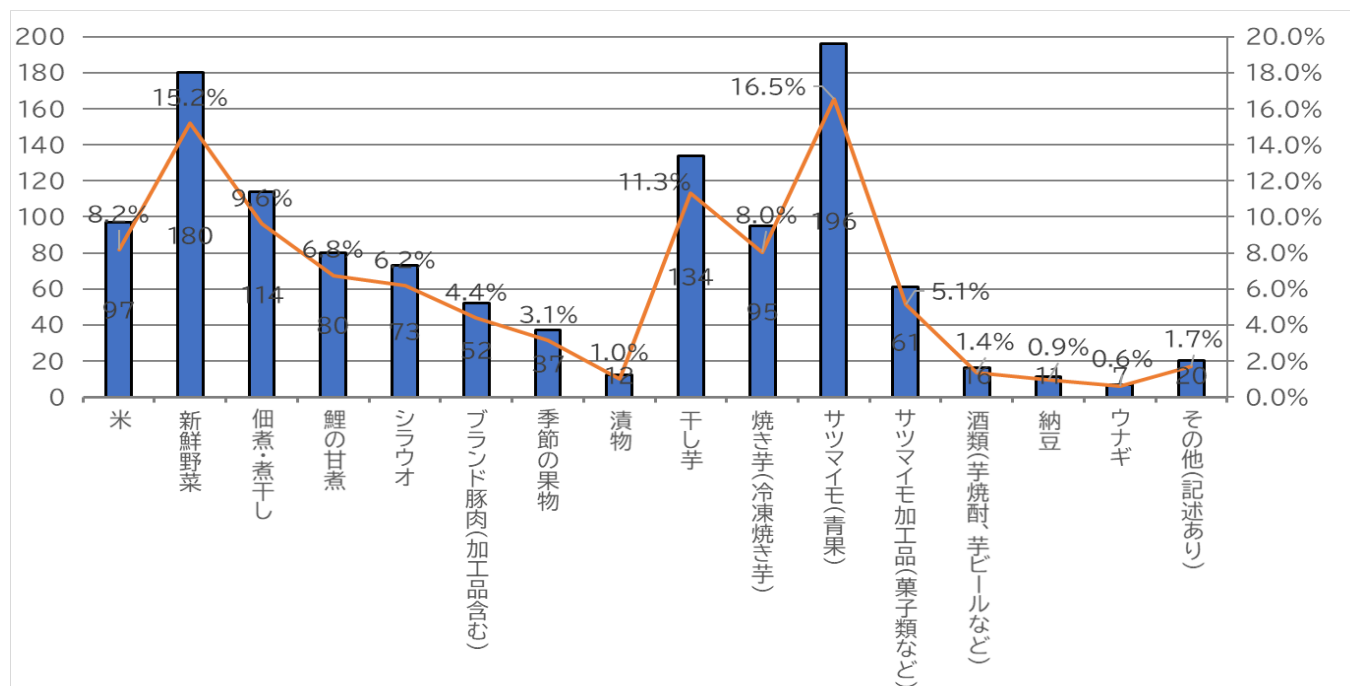
問 67 あなたが思う行方市を代表する農畜水産物は何ですか。(回答を3つまで)



○市を代表する農畜水産物について回答した割合が高い順に、「サツマイモ」(26.7%)、「レンコン」(11.7%)、「エシャレット」(8.7%)だった。

○60歳代以降は「ワカサギ」と回答した割合がやや高くなった。

問 68 あなたが思う行方市を代表する農畜水産物の特産品(お土産品)は何ですか。(回答を3つまで)

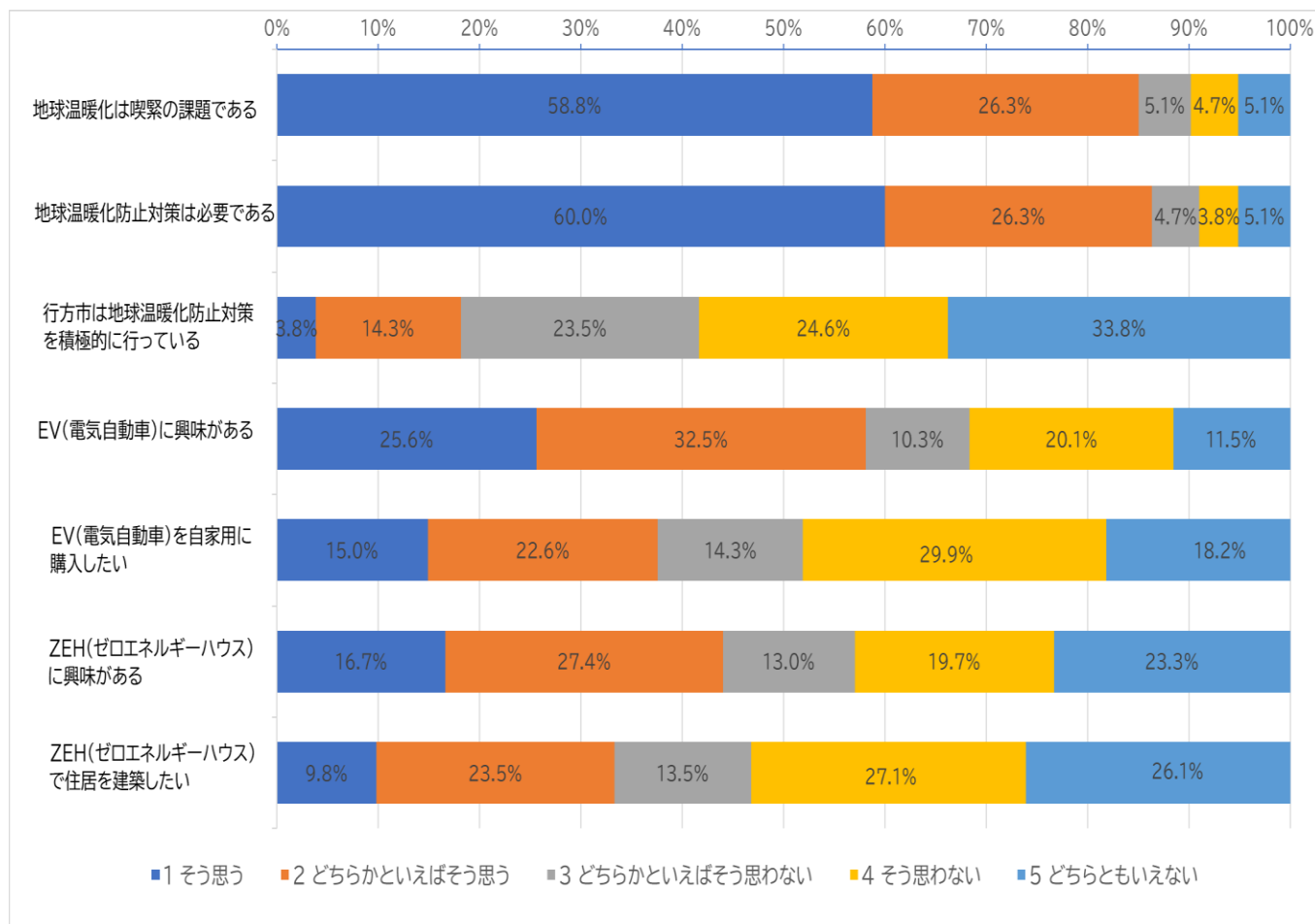


○市を代表する農畜水産物の特産品についての回答した割合が高い順に、「サツマイモ(青果)」(16.5%)、「新鮮野菜」(15.2%)、「干し芋」(11.3%)だった。

○50歳代以降は「佃煮・煮干し」と回答した割合がやや高くなった。

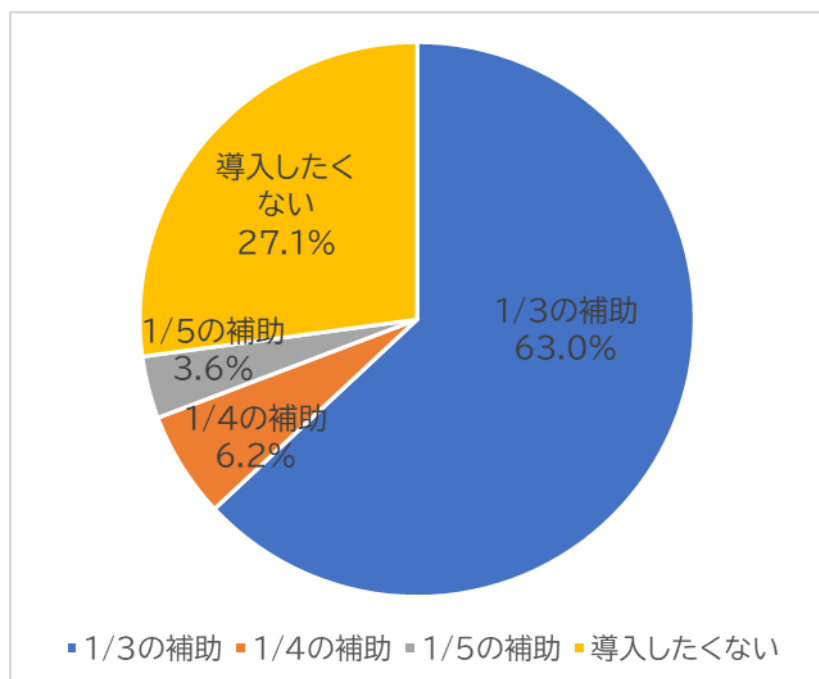
## 特集8 地球温暖化問題及び再生可能エネルギーについて

問 69 地球温暖化問題及び再生可能エネルギーについて、次の項目をどう感じていますか。  
(項目ごとに回答を1つ)



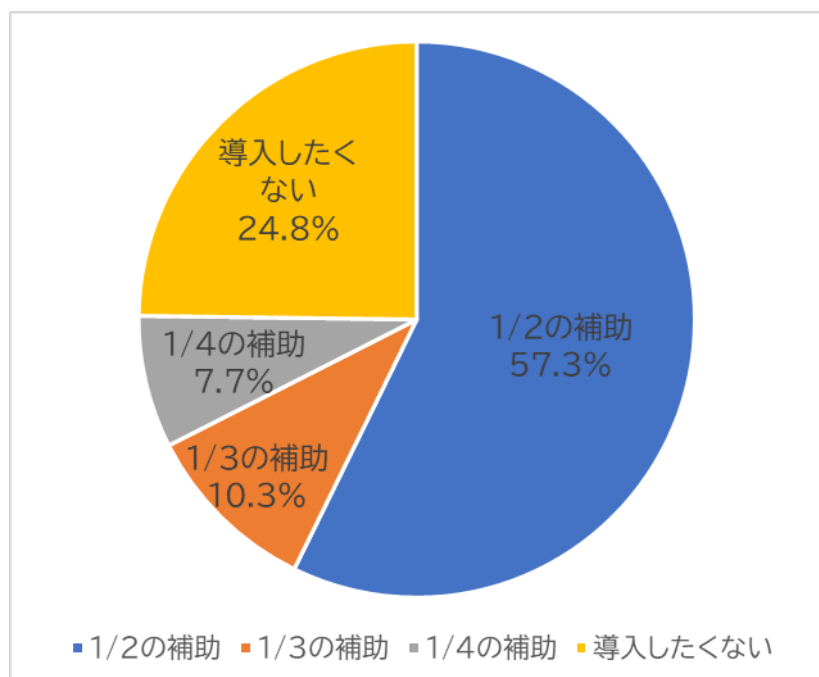
- 「地球球温暖化は喫緊の課題である」「地球温暖化防止対策は必要である」の2つの設問に対する回答割合は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」がいずれも約90%で、地球温暖化に対する問題意識が高いことが分かった。
- 「EV(電気自動車)に興味がある」と回答した割合は約60%、「ZEH(ゼロエネルギーハウス)に興味がある」と回答した割合が約40%だった。
- 「EV(電気自動車)の購入したいと思う」と回答した割合は約40%、「ZEH(ゼロエネルギーハウス)を建築したい」と回答した割合は約30%だった。

問 70 EV(電気自動車)を導入するために、どのくらいの補助金があれば導入したいと思いますか。  
 ※補助金なしの場合、およそ300万円/台の費用(回答を1つ)



- 一定の補助があれば導入を検討するといった意見が約70%だった。
- 1/3の補助で導入を検討するという意見が約60%で、補助の内容によっては、市内における一定の普及が見込まれる。

問 71 ZEH(ゼロエネルギーハウス)を導入するために、どのくらいの補助金があれば導入したいと思いますか。 ※補助金なしの場合、およそ500万円/件の費用(回答を1つ)



- 一定の補助があれば導入を検討するといった意見が70%以上あった。
- 1/2の補助で導入を検討するという意見が約60%で、補助の内容によっては、市内における一定の普及が見込まれる。

問 72 地球温暖化、脱炭素化、カーボンニュートラル、再生可能エネルギー等環境問題についてご意見がございましたらご記入ください。(自由記述)

【記述回答抜粋】

- ・太陽光パネルが今後どうなっていくのか。処分方法は確立されていくのか。
- ・バッテリーの劣化や廃棄についての問題は？火力発電所で発電している以上、EV 化で CO2 はむしろ増えるはず。太陽光発電については賛成。
- ・まずは EV 車や電子化できることへの補助金支給
- ・ごみ処理施設の省エネ、発電利用
- ・地球温暖化による環境変化は農水産物にもダイレクトに影響を与えるものだと思うのでなんとかしなければいけない問題だと理解はしつつも、どうしても買い物場所などが遠く、マイカー前提になってしまっているのが難しい...とってしまいます
- ・EV だから環境にいいと思うのは間違いです
- ・脱酸素、地球温暖化は、人間にとっても生物にとっても生きていく中で重要なのでエコロジー対策、排気問題は誰でも出来るので実施していきたいです。
- ・ZEH、EV ともに導入しています。現在 EV 用急速充電器がふれあいランドの 1 カ所のみと思いますが、これをもう少し台数を増やしてほしいです。充電設備があることで、市外からの観光客に充電+休憩で滞在してもらえないのではないかと考えます。
- ・すべてにおいて高騰化している中、行方市として自然との共存を図る取組の提案を可視化してほしい。
- ・住宅補助がでるなら、人口は増えると思う。
- ・休耕地でソーラー発電事業を推進する。
- ・気温の変動は、地球の45億年の歴史の中では、単なる周期的な変動との意見もあるが...
- ・地球温暖化と言いながら森を崩してソーラーパネルを建てているのが気になる。確かにソーラーパネルはクリーンエネルギーだと思うが、ソーラーパネルは CO2 は吸わない。また景観も無機質でどこか寂しい感じがする。
- ・それらを学ぶ施設がない
- ・市の取り組みが遅い
- ・グローバルな問題だが、一人ひとりが関心を持って取り組む必要がある
- ・市役所や市関連施設照明の LED 化や空調機器の更新等省エネルギー化への取り組みを積極的に推進して欲しい。併せて、市内でも大変稀有で豊かな美しい自然環境を持つ県から移管された手賀ふれあいの森の扱いについて、改めて再整備を進めて欲しい。具体的には、訪れる人の安全性を最優先に壊れた柵の早急な修繕やシルバー人材を使った周辺の草刈りや新池のゴミ回収そして、防犯上の観点から第一駐車場への照明灯・防犯カメラの設置、利用者の利便性向上を目的とした自動販売機の誘致を提言します。
- ・ソーラーパネルの乱立になるので推奨しない
- ・温暖化が急速に進んでいる感がある中、人々の意識と行動は遅々としている、と感じている。
- ・東日本大震災を経験したからこそ、オール電化の家にしたくないですし、その時その時で、良いものを選択して使うということになると思います。
- ・住民ひとりひとりが意識を持って取り組まないと、どんなに行政が頑張っても難しい
- ・問い 70.71 の補助金については、市が補助金を出すのではなく、国が出すべきである、市は、もっと身近な事から助けて欲しい。

- ・行方市はそこまで人口密集してませんから、環境問題はそんなに力入れなくても良いと思います。
- ・新庁舎で地球温暖化対策の取組みにより、注目されるようになって欲しい。
- ・地球温暖化防止対策は市民に浸透する様に周知が必要と思う。
- ・持続可能な未来のために、市民に必要性をくり返し周知させ、身近な小さなことからスタートすることが大事では。